AFEx32A3W 10 ビット/8 ビット、3 チャネル、電圧出力/電流出力/ADC 入力スマート AFE、I²C または SPI 対応

1 特長

- 電流源 DAC:
  - 1LSB DNL
  - 2 つの範囲:300mA、220mA
  - 770mV のヘッドルーム
- 2 チャネルの電圧出力 DAC:
  - 1LSB DNL
  - 1×、1.5×、2×、3×、4× のゲイン
- チャネル 1 の ADC 入力
- チャネル 1 のプログラマブルなコンパレータ モード
- VDD オフ時はハイ インピーダンス出力
- ハイ インピーダンスおよび抵抗性プルダウンのパワーダウン モード
- 50MHz SPI 互換インターフェイス
- I²C または SPI を自動検出
  - 1.62V V_{IH} (V_{DD} = 5.5V の場合)
- さまざまな機能に構成可能な汎用入出力 (GPIO)
- あらかじめ定義された波形生成:正弦波、余弦波、三角波、のこぎり波
- ユーザーがプログラム可能な不揮発性メモリ (NVM)
- 基準電圧として内部または電源を使用可能
- 広い動作範囲:
  - 電源:3V ～ 5.5V
  - 温度:-40℃～+125℃

2 アプリケーション

- 光学モジュール
- レーザー

3 説明

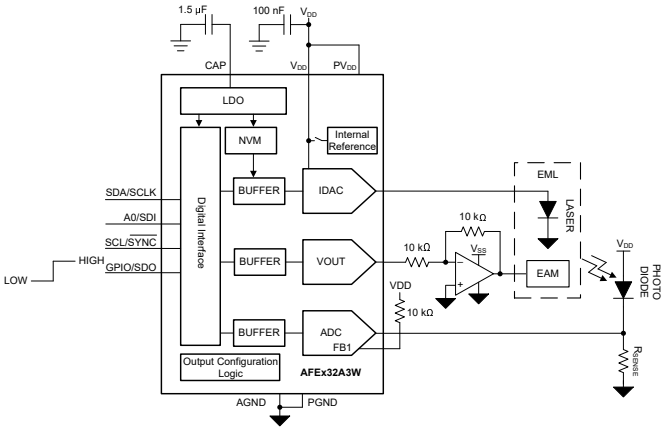
10 ビットの AFE532A3W および 8 ビットの AFE432A3W (AFEx32A3W) は、3 チャネル、バッファ付き、電圧出力、電流出力、および ADC 入力のスマート アナログ フロントエンド (AFE) です。AFEx32A3W は、レーザー ダイオードや小型モーターの線形制御に使用できる電流源をサポートしています。これらのデバイスは、電圧出力用にハイインピーダンスのパワーダウン モードと電源オフ状態でのハイ インピーダンス出力をサポートしています。チャネル 1 は ADC、電圧出力 DAC、またはコンパレータとして構成可能です。電圧出力 DAC は、プログラマブルなコンパレータおよび電流シンクとして使用するためのフォース センス オプションを備えています。このスマート AFE は、多機能 GPIO、機能生成、およびプログラム可能不揮発性メモリ (NVM) によって、*プロセッサレス* アプリケーションや設計の再利用を実現できます。これらのデバイスは、SPI、I²C インターフェイスを自動的に検出します。また、内部リファレンスを搭載しています。

これらのスマート AFE は、AFEx32A3W の機能セットと超小型パッケージおよび低消費電力という特長を備えており、受動光ネットワーク (PON) や他の産業用レーザーにおけるレーザー ダイオードの電力制御や電界吸収変調レーザー (EML) 制御に最適です。

製品情報

部品番号	分解能	パッケージ(1)
AFE532A3W	10 ビット	YBH (DSBGA、16)
AFE432A3W	8 ビット	

(1) 詳細については、セクション 11 を参照してください。



AFEx32A3W を使用した電界吸収変調レーザー (EML) 制御

このリソースの元の言語は英語です。翻訳は概要を便宜的に提供するもので、自動化ツール (機械翻訳) を使用していることがあり、TI では翻訳の正確性および妥当性につきましては一切保証いたしません。実際の設計などの前には、ti.com で必ず最新の英語版をご参照くださいますようお願いいたします。

目次

1 特長.... 1
2 アプリケーション.... 1
3 説明.... 1
4 ピン構成および機能.... 4
5 仕様.... 5
5.1 絶対最大定格.... 5
5.2 ESD 定格.... 5
5.3 推奨動作条件.... 5
5.4 熱に関する情報.... 5
5.5 電気的特性:電圧出力.... 6
5.6 電気的特性:電流出力.... 8
5.7 電気的特性:コンパレータ モード.... 10
5.8 電気的特性:ADC 入力.... 10
5.9 電気的特性:総則.... 11
5.10 タイミング要件:I²C スタンダード モード.... 12
5.11 タイミング要件:I²C ファスト モード.... 12
5.12 タイミング要件:I²C 高速モード プラス.... 12
5.13 タイミング要件:SPI 書き込み動作.... 13
5.14 タイミング要件:SPI 読み出しおよびデイジー チェーン動作 (FSDO = 0).... 13
5.15 タイミング要件:SPI 読み出しおよびデイジー チェーン動作 (FSDO = 1).... 13
5.16 タイミング要件:GPIO.... 14
5.17 タイミング図.... 14
5.18 代表的特性:電圧出力.... 16
5.19 代表的特性:電流出力.... 21
5.20 代表的特性:コンパレータ.... 25
5.21 代表的特性:ADC.... 26
5.22 代表的特性:総則.... 27
6 詳細説明.... 28
6.1 概要.... 28
6.2 機能ブロック図.... 29
6.3 機能説明.... 30
6.4 デバイスの機能モード.... 32
6.5 プログラミング.... 49
7 レジスタ マップ.... 57
7.1 NOP レジスタ (アドレス = 00h) [リセット = 0000h].... 61
7.2 DAC-0-MARGIN-HIGH レジスタ (アドレス = 0Dh) [リセット = 0000h].... 61
7.3 DAC-1-MARGIN-HIGH レジスタ (アドレス = 13h) [リセット = 0000h].... 61
7.4 DAC-2-MARGIN-HIGH レジスタ (アドレス = 01h) [リセット = 0000h].... 62
7.5 DAC-0-MARGIN-LOW レジスタ (アドレス = 0Eh) [リセット = 0000h].... 62
7.6 DAC-1-MARGIN-LOW レジスタ (アドレス = 14h) [リセット = 0000h].... 62
7.7 DAC-2-MARGIN-LOW レジスタ (アドレス = 02h) [リセット = 0000h].... 63
7.8 DAC-0-GAIN-CONFIG レジスタ (アドレス = 0Fh) [リセット = 0000h].... 63
7.9 DAC-1-GAIN-CMP-CONFIG レジスタ (アドレス = 15h) [リセット = 0000h].... 64
7.10 DAC-2-GAIN-CONFIG レジスタ (アドレス = 03h) [リセット = 0000h].... 64
7.11 DAC-1-CMP-MODE-CONFIG レジスタ (アドレス = 17h) [リセット = 0000h].... 65
7.12 DAC-0-FUNC-CONFIG レジスタ (アドレス = 12h) [リセット = 0000h].... 66
7.13 DAC-1-FUNC-CONFIG レジスタ (アドレス = 18h) [リセット = 0000h].... 69
7.14 DAC-2-FUNC-CONFIG レジスタ (アドレス = 06h) [リセット = 0000h].... 72
7.15 DAC-0-DATA レジスタ (アドレス = 1Bh) [リセット = 0000h].... 75
7.16 DAC-1-DATA レジスタ (アドレス = 1Ch) [リセット = 0000h].... 75
7.17 DAC-2-DATA レジスタ (アドレス = 19h) [リセット = 0000h].... 75
7.18 ADC-CONFIG-TRIG レジスタ (アドレス = 1Dh) [リセット = 0000h].... 76
7.19 ADC-DATA レジスタ (アドレス = 1Eh) [リセット = 0001h].... 76
7.20 COMMON-CONFIG レジスタ (アドレス = 1Fh) [リセット = 0FFFh].... 77
7.21 COMMON-TRIGGER レジスタ (アドレス = 20h) [リセット = 0000h].... 78
7.22 COMMON-DAC-TRIG レジスタ (アドレス = 21h) [リセット = 0000h].... 79
7.23 GENERAL-STATUS レジスタ (アドレス = 22h) [リセット = 20h、DEVICE-ID、VERSION-ID].... 80
7.24 CMP-STATUS レジスタ (アドレス = 23h) [リセット = 000Ch].... 81
7.25 GPIO-CONFIG レジスタ (アドレス = 24h) [リセット = 0000h].... 81
7.26 DEVICE-MODE-CONFIG レジスタ (アドレス = 25h) [リセット = 0000h].... 83
7.27 INTERFACE-CONFIG レジスタ (アドレス = 26h) [リセット = 0000h].... 83
7.28 SRAM-CONFIG レジスタ (アドレス = 2Bh) [リセット = 0000h].... 84
7.29 SRAM-DATA レジスタ (アドレス = 2Ch) [リセット = 0000h].... 84
7.30 BRDCAST-DATA レジスタ (アドレス = 50h) [リセット = 0000h].... 84
8 アプリケーションと実装.... 85
8.1 アプリケーション情報.... 85
8.2 代表的なアプリケーション.... 85
8.3 電源に関する推奨事項.... 88
8.4 レイアウト.... 89
9 デバイスおよびドキュメントのサポート.... 90
9.1 ドキュメントのサポート.... 90
9.2 ドキュメントの更新通知を受け取る方法.... 90
9.3 サポート・リソース.... 90
9.4 商標.... 90
9.5 静電気放電に関する注意事項.... 90
9.6 用語集.... 90

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

10 改訂履歴 90
11 メカニカル、パッケージ、および注文情報 90

4 ピン構成および機能

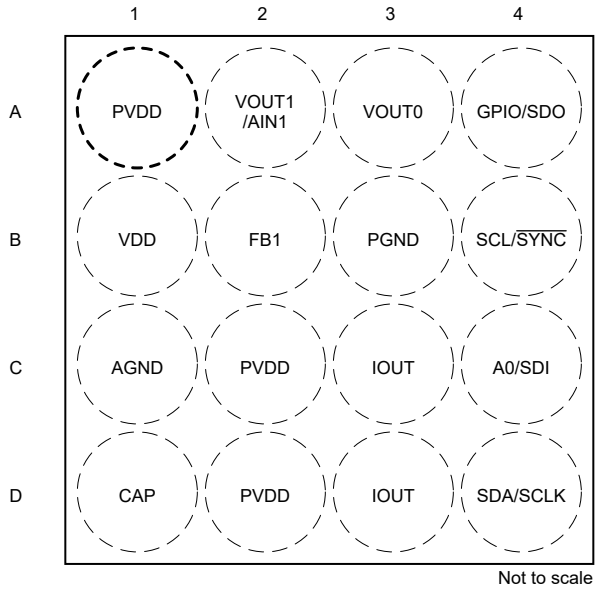


図 4-1. YBH (16 ピン DSBGA) パッケージ上面図

表 4-1. ピンの機能

ピン		タイプ	説明
番号	名称		
A1	PVDD	電源	電流源の電源。このピンは、低トレース インピーダンスで VDD に接続します
A2	VOUT1/AIN1	入力 / 出力	DAC チャネル 1 の電圧出力またはアナログ入力。
A3	VOUT0	出力	DAC チャネル 0 の電圧出力。
A4	GPIO/SDO	入力 / 出力	$\overline{\text{LDAC}}$、$\overline{\text{PD}}$、$\overline{\text{PROTECT}}$、$\overline{\text{RESET}}$、SDO、$\overline{\text{STATUS}}$ として構成可能な汎用入出力。$\overline{\text{STATUS}}$ および SDO の場合、ピンを外部プルアップ抵抗で I/O 電圧に接続します。使用しない場合は、外部抵抗を使用して GPIO ピンを VDD または AGND に接続します。このピンは VDD よりも先に上昇できます。
B1	VDD	電源	電源電圧。
B2	FB1	入力	チャネル 1 の電圧フィードバック ピン。電圧出力モードでは、閉ループ アンプ出力の場合は VOUT1/AIN1 に接続します。ADC 入力モードでは、抵抗を使用してこのピンを VDD にプルアップします。このピンはコンパレータ モードでのアナログ入力として使用します。
B3	PGND	グランド	電流源のグランド帰路。このピンは AGND に接続します。
B4	SCL/$\overline{\text{SYNC}}$	出力	I^2C シリアル インターフェース クロックまたは SPI チップ セレクト入力。このピンは、外部プルアップ抵抗を使用して I/O 電圧に接続する必要があります。このピンは VDD よりも先に上昇できます。
C1	AGND	グランド	デバイスの全回路のグランド基準点。
C2	PVDD	電源	電流源の電源。このピンは VDD に接続します。
C3	IOUT	出力	チャネル 2 の電流出力。
C4	A0/SDI	入力	I^2C または SPI のシリアル データ入力のアドレス構成ピン。 A0 の場合、アドレス構成としてこのピンを VDD、AGND、SDA、SCL に接続します (「*アドレス バイト*」セクションを参照)。 SDI の場合は、このピンをプルアップする必要も、プルダウンする必要もありません。このピンは VDD よりも先に上昇できます。
D1	CAP	電源	内部 LDO の外部バイパス コンデンサ。CAP と AGND の間にコンデンサ (約 1.5μF) を接続します。
D2	PVDD	電源	電流源の電源。このピンは VDD に接続します。
D3	IOUT	出力	チャネル 2 の電流出力。
D4	SDA/SCLK	入力 / 出力	双方向 I^2C シリアル データ バスまたは SPI クロック入力。このピンは、I^2C モードでは外部プルアップ抵抗を使って I/O 電圧に接続する必要があります。このピンは VDD よりも先に上昇できます。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

5 仕様

5.1 絶対最大定格

自由気流での動作温度範囲内 (特に記述のない限り) [(1)]

		最小値	最大値	単位
V_{DD}	電源電圧、V_{DD} から AGND へ	-0.3	6	V
PV_{DD}	供給電圧、PV_{DD} から V_{DD} へ	-0.3	0.3	V
	デジタル入力から AGND へ	-0.3	V_{DD} + 0.3	V
	V_{FB1} から AGND へ	-0.3	V_{DD} + 0.3	V
	V_{OUTX} から AGND へ	-0.3	V_{DD} + 0.3	V
	I_{OUT} から AGND へ	-0.3	V_{DD} + 0.3	V
	IOUT、VOUTx、VDD、PVDD、PGND、AGND ピンを除く任意のピンに流れ込む電流	-10	10	mA
T_J	接合部温度	-40	150	℃
T_{stg}	保存温度	-65	150	℃

(1) 「絶対最大定格」の範囲外の動作は、デバイスの永続的な損傷の原因となる可能性があります。「絶対最大定格」は、これらの条件において、または「推奨動作条件」に示された値を超える他のいかなる条件でも、本製品が正しく動作することを意味するものではありません。「絶対最大定格」の範囲内であっても「推奨動作条件」の範囲外で使用すると、デバイスが完全に機能しない可能性があり、デバイスの信頼性、機能、性能に影響を及ぼし、デバイスの寿命を縮める可能性があります。

5.2 ESD 定格

			値	単位
$V_{(ESD)}$	静電放電	人体モデル (HBM)、ANSI/ESDA/JEDEC JS-001 に準拠、すべてのピン [(1)]	±2000	V
		デバイス帯電モデル (CDM)、ANSI/ESDA/JEDEC JS-002 に準拠、すべてのピン[(2)]	±500	

(1) JEDEC ドキュメント JEP155 には、500V HBM であれば標準的な ESD 管理プロセスにより安全な製造が可能であると記載されています。
(2) JEDEC ドキュメント JEP157 には、250V CDM であれば標準的な ESD 管理プロセスにより安全な製造が可能であると記載されています。

5.3 推奨動作条件

自由気流での動作温度範囲内 (特に記述のない限り)

		最小値	公称値	最大値	単位
V_{DD}	グランド (AGND)、抵抗性負荷、またはダイオード負荷への正の電源電圧	3		5.5	V
	グランド (AGND)、誘導性負荷への正の電源電圧	3		4.5	
PV_{DD}	グランド (PGND) への正の電源電圧		V_{DD}		V
V_{IH}	デジタル入力高電圧、3V < V_{DD} ≤ 5.5V	1.62			V
V_{IL}	デジタル入力低電圧			0.4	V
C_{CAP}	CAP ピンの外部コンデンサ	0.5		15	µF
T_A	周囲温度	-40		125	℃

5.4 熱に関する情報

熱評価基準[(1)]		AFE532A3W、AFE432A3W YBH (DSBGA) 16 ピン	単位
$R_{θJA}$	接合部から周囲への熱抵抗	81.2	℃/W
$R_{θJC(top)}$	接合部からケース (上面) への熱抵抗	0.3	℃/W
$R_{θJB}$	接合部から基板への熱抵抗	20.3	℃/W
$Ψ_{JT}$	接合部から上面への特性パラメータ	0.2	℃/W
$Ψ_{JB}$	接合部から基板への特性パラメータ	20.3	℃/W

(1) 従来および最新の熱評価基準の詳細については、『半導体および IC パッケージの熱評価基準』アプリケーション レポートを参照してください。

5.5 電気的特性：電圧出力

すべての最小値および最大値の仕様は –40°C ≤ T_A ≤ +125°C、標準仕様は T_A = 25°C、3V ≤ V_{DD} ≤ 5.5V、リファレンスとしての V_{DD}、ゲイン = 1×、抵抗性負荷 (R_L = 5kΩ から AGND) および容量性負荷 (C_L = 200pF から AGND) が負荷された電圧出力 DAC ピン (VOUTx)、デジタル入力は VDD または AGND (特に記述のない限り)

パラメータ		テスト条件	最小値	標準値	最大値	単位
安定動作						
	分解能	AFE532A3W	10			ビット
		AFE432A3W	8			
INL	積分非線形性[1]	AFE532A3W	-1.25		1.25	LSB
		AFE432A3W	-1		1	
DNL	微分非直線性[1]		-1		1	LSB
	ゼロ コード誤差[2]	コード 0d を DAC に入力、V_{DD} = 5.5V		6	12	mV
		コード 0d を DAC に入力、内部 V_{REF}、ゲイン = 4 ×、V_{DD} = 5.5V		6	15	
	ゼロ コード誤差の温度係数[2]			±10		μV/°C
	オフセット誤差[2]	3V ≤ V_{DD} ≤ 5.5V、V_{FB} ピンを V_{OUT} に短絡、DAC コード:10 ビット解像度の場合は 8d、8 ビット分解能の場合は 2d	-0.5	0.25	0.5	%FSR
	オフセット誤差の温度係数[2]	V_{FB} ピンを V_{OUT} に短絡、DAC コード:10 ビット解像度の場合は 8d、8 ビット分解能の場合は 2d		±0.0003		%FSR/°C
	ゲイン誤差[2]	エンドポイント コード間:10 ビット分解能の場合は 8d ～ 1016d、8 ビット分解能の場合は 2d ～ 254d	-0.5	0.25	0.5	%FSR
	ゲイン誤差の温度係数[2]	エンドポイント コード間:10 ビット分解能の場合は 8d ～ 1016d、8 ビット分解能の場合は 2d ～ 254d		±0.0008		%FSR/°C
	フルスケール誤差[2]	3V ≤ V_{DD} ≤ 5.5V、フルスケールでの DAC	-0.5		0.5	%FSR
	フルスケール誤差の温度係数[2]	フルスケールでの DAC		±0.0008		%FSR/°C
出力						
	出力電圧		0		V_{DD}	V
C_L	容量性負荷[3]	R_L = 無限、位相マージン = 30°			200	pF
		位相マージン = 30°			1000	
	短絡電流	V_{DD} = 3V、フルスケール出力を AGND に短絡または ゼロスケール出力を V_{DD} に短絡		50		mA
		V_{DD} = 5.5V、フルスケール出力を AGND に短絡または ゼロスケール出力を V_{DD} に短絡		60		
	出力電圧ヘッドルーム[3]	V_{DD} へ、DAC 出力無負荷、内部リファレンス = 1.21V)、V_{DD} ≥ 1.21V × ゲイン + 0.2V	0.2			V
		V_{DD} および AGND へ、DAC 出力は無負荷	0.8			%FSR
		V_{DD} および AGND へ、I_{LOAD} = 10mA (V_{DD} = 5.5V)、I_{LOAD} = 3mA (V_{DD} = 3V)	10			
Z_O	V_{FB} DC 出力インピーダンス[4]	DAC 出力イネーブル、内部リファレンス (ゲイン = 1.5 × または 2 ×) またはリファレンスとしての V_{DD} (ゲイン = 1 ×)	400	500	600	kΩ
		DAC 出力イネーブル、内部 V_{REF}、ゲイン = 3 × または 4 ×	325	400	485	
	電源除去比 (DC)	内部 V_{REF}、ゲイン = 2×、ミッドスケールでの DAC、V_{DD} = 5V ±10%		0.25		mV/V

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

5.5 電気的特性：電圧出力 (続き)

すべての最小値および最大値の仕様は –40°C ≤ T_A ≤ +125°C、標準仕様は T_A = 25°C、
3V ≤ V_{DD} ≤ 5.5V、リファレンスとしての V_{DD}、ゲイン = 1×、抵抗性負荷 (R_L = 5kΩ から AGND) および容量性負荷 (C_L = 200pF から AGND) が負荷された電圧出力 DAC ピン (VOUTx)、デジタル入力は VDD または AGND (特に記述のない限り)

パラメータ		テスト条件	最小値	標準値	最大値	単位
ダイナミック性能						
t_{sett}	出力電圧セトリング時間	1/4 から 3/4 へのスケール、3/4 から 1/4 へのスケールで 10% FSR にセトリング、V_{DD} = 5.5V		20		µs
		1/4 から 3/4 へのスケール、3/4 から 1/4 へのスケールで 10% FSR にセトリング、V_{DD} = 5.5V、内部 V_{REF}、ゲイン = 4 ×		25		
	スルー レート	V_{DD} = 5.5V		0.3		V/µs
	電源オン時のグリッチ振幅	スタートアップ時、DAC 出力ディスエーブル		75		mV
		スタートアップ時、DAC 出力ディスエーブル、R_L = 100kΩ		200		
	出力イネーブルのグリッチ振幅	DAC 出力をディスエーブルからイネーブルへ、ゼロスケールでの DAC レジスタ、R_L = 100kΩ		250		mV
V_n	出力ノイズ電圧 (ピーク ツー ピーク)	f = 0.1Hz ～ 10Hz、ミッドスケールでの DAC、V_{DD} = 5.5V		50		$µV_{PP}$
		内部 V_{REF}、ゲイン = 4 ×、f = 0.1Hz ～ 10Hz、ミッドスケールでの DAC、V_{DD} = 5.5V		90		
	出力ノイズ 密度	f = 1kHz、ミッドスケールでの DAC、V_{DD} = 5.5V		0.35		$µV/\sqrt{Hz}$
		内部 V_{REF}、ゲイン = 4 ×、f = 1kHz、ミッドスケールでの DAC、V_{DD} = 5.5V		0.9		
	電源除去比 (AC)(4)	内部 V_{REF}、ゲイン = 4 ×、電源電圧に重ね合わせた 200mV 50Hz または 60Hz 正弦波、ミッドスケールでの DAC		-68		dB
	コード書き換えによるグリッチ インパルス	ミッドスケール付近で ±1LSB の変化 (フィードスルーを含む)		10		nV-s
	コード書き換えによるグリッチ インパルス振幅	ミッドスケール付近で ±1LSB の変化 (フィードスルーを含む)		15		mV
電源						
I_{DD}	VDD に流れる電流(2) (5)	通常動作、フルスケール時の DAC、デジタル ピンは静的		150		µA/ch

(1) DAC 出力を無負荷の状態で測定しています。内部リファレンス V_{DD} ≥ 1.21 × ゲイン + 0.2V の場合、エンドポイント コードの間：10 ビット分解能の場合は 8d ～ 1016d、8 ビット分解能の場合は 2d ～ 254d。
(2) DAC 出力を無負荷の状態で測定しています。
(3) 設計と特性評価による仕様で、製造テストは未実施。
(4) 内部リファレンスを使用する場合、リファレンス値に対して 200mV のヘッドルームで規定。
(5) 総消費電力は、I_{DD} × (電源オンされるチャネルの合計数) + (スリープ モード電流) で計算されます。

5.6 電気的特性：電流出力

すべての最小値および最大値の仕様は –40°C ≤ T_A ≤ +125°C、標準仕様は T_A = 25°C、3V ≤ V_{DD} ≤ 4.5V、デジタル入力は VDD または AGND (特に記述のない限り)

パラメータ		テスト条件	最小値	標準値	最大値	単位
安定動作						
	分解能	AFE532A3W	10			ビット
		AFE432A3W	8			
INL	積分非直線性	最小出力電圧ヘッドルームの場合、AFE532A3W	-1.25		1.25	LSB
		最小出力電圧ヘッドルームの場合、AFE432A3W	-1		1	
DNL	微分非直線性		-1		1	LSB
	オフセット エラー			6		mA
	ゲイン誤差			16.6		%FSR
出力						
	出力範囲[(1)]	IOUT-GAIN = 000b	300			mA
		IOUT-GAIN = 001b	220			
	出力電圧ヘッドルーム[(2)]	300mA でのソース電流	770		1500	mV
		100mA でのソース電流	300		1500	
	出力のパワーダウン リーケージ	DAC チャネル ディスエーブル、内部プルダウン抵抗の両端の電圧			3	mV
	電源除去比 (DC)	ミッドスケールでの DAC、V_{DD} を 3.5V から 4.5V に変更		0.5		LSB/V

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

5.6 電気的特性：電流出力 (続き)

すべての最小値および最大値の仕様は –40°C ≤ T_A ≤ +125°C、標準仕様は T_A = 25°C、3V ≤ V_{DD} ≤ 4.5V、デジタル入力は VDD または AGND (特に記述のない限り)

パラメータ		テスト条件	最小値	標準値	最大値	単位
ダイナミック性能						
t_{sett}	出力電流セトリング時間	1/4 から 3/4 へのスケール、3/4 から 1/4 へのスケールで 1LSB にセトリング、V_{DD} = 3V、ダイオード負荷		60		µs
		1/8 から 3/8 へのスケール、3/8 から 1/8 へのスケールで 1LSB にセトリング、V_{DD} = 4V、誘導性負荷、C_L = 470nF		260		
	オーバーシュート	DAC コードを 1/4 スケールから 3/4 スケールに変更、ダイオード負荷		0.7		%
		DAC が電源オフ、フルスケール電流がスルーレート設定 32LSB および 4µs ステップで MARGIN-HIGH としてプログラム、DAC が電源オン、直ちにマージン開始の指示、ダイオード負荷		1		
		DAC が電源オフ、ミッドスケール電流がスルーレート設定 32LSB および 4µs ステップで MARGIN-HIGH としてプログラム、DAC が電源オン、直ちにマージン開始の指示、誘導性負荷		1		
		ゼロスケールでの DAC、フルスケール電流がスルーレート設定 32LSB および 4µs ステップで MARGIN-HIGH としてプログラム、マージン開始の指示、ダイオード負荷		1		
		ゼロスケールでの DAC、ミッドスケール電流がスルーレート設定 32LSB および 4µs ステップで MARGIN-HIGH としてプログラム、マージン開始の指示、誘導性負荷、C_L = 470nF		1		
		フルスケールでの DAC、ゼロスケール電流がスルーレート設定 32LSB および 4µs ステップで MARGIN-LOW としてプログラム、マージン開始の指示、ダイオード負荷		-1		
		ミッドスケールでの DAC、ゼロスケール電流がスルーレート設定 32LSB および 4µs ステップで MARGIN-LOW としてプログラム、マージン開始の指示、誘導性負荷、C_L = 470nF		-1		
V_n	出力ノイズ電流 (ピーク ツー ピーク)	0.1Hz ～ 10Hz、1/4 スケールでの DAC 、誘導性負荷、C_L = 470nF		50		$µA_{PP}$
	出力ノイズ 密度	f = 1kHz、1/4 スケールでの DAC、誘導性負荷、C_L = 470nF		159		nA/√Hz
	電源除去比 (AC)	電源電圧に重ね合わせた 200mV 50Hz または 60Hz 正弦波、1/4 スケールでの DAC、誘導性負荷、C_L = 470nF		1.7		LSB/V
電源						
I_{DD}	VDD に流れる電流(3)	通常動作、ミッドスケールでの DAC		172		µA

(1) 電気的仕様を満たすために、最小電流範囲のデバイスを使用します。
(2) これらのデバイスには、自動サーマル シャットダウン機能はありません。外部回路は、接合部温度を規定の制限範囲内に維持する必要があります。
(3) V_{DD} に流れる電流には、IOUT ピンに供給される負荷電流またはシンクされる負荷電流は考慮されていません。

5.7 電気的特性：コンパレータ モード

すべての最小値および最大値の仕様は –40°C ≤ T_A ≤ +125°C、標準仕様は T_A = 25°C、3V ≤ V_{DD} ≤ 5.5V、V_{DD} リファレンス、ゲイン = 1×、抵抗性負荷 (R_L = 5 kΩ から AGND) および容量性負荷 (C_L = 200 pF から AGND) が負荷された電圧出力 DAC 出力ピン (VOUTx)、デジタル入力は VDD または AGND (特に記述のない限り)

パラメータ		テスト条件	最小値	標準値	最大値	単位
安定動作						
	オフセット誤差(1) (2)	3V ≤ V_{DD} ≤ 5.5V、ミッドスケールでの DAC、ハイ インピーダンスのコンパレータ入力	-6	0	6	mV
	オフセット誤差の時間ドリフト(1)	V_{DD} = 5.5V、T_A = 125°C、FB1 はハイ インピーダンス モード、フルスケールでの DAC、0V での V_{FB}、ゼロスケールでの DAC、1.84V での V_{F1B}、10 年間の連続運転に指定されたドリフト		4		mV
出力						
	入力電圧	グランドに接続された V_{FB1} 抵抗ネットワーク	0		V_{DD}	V
		グランドから接続解除された V_{FB1} 抵抗ネットワーク	0		V_{DD} × (1/3 – 1/100)	
V_{OL}	ロジック Low 出力電圧	I_{LOAD} = 100μA、オープン ドレインモードで出力		0.1		V
ダイナミック性能						
t_{resp}	出力応答時間	10 ビット分解能でミッドスケールでの DAC、FB1 入力はハイ インピーダンス、FB1 ノードでの遷移ステップは (V_{DAC} – 2LSB) から (V_{DAC} + 2LSB)、遷移時間は出力の 10% ～ 90% の間で測定、出力電流は 100μA、コンパレータ出力はプッシュプル モードに構成、DAC 出力での負荷コンデンサは 25 pF		10		μs

(1) 設計と特性評価による仕様で、製造テストは未実施。
(2) この仕様には、DAC の総合未調整誤差 (TUE) は含まれていません。

5.8 電気的特性：ADC 入力

すべての最小および最大仕様は –40°C ≤ T_A ≤ +125°C、標準仕様は T_A = 25°C、3V ≤ V_{DD} ≤ 5.5V、リファレンスとしての V_{DD}、ゲイン = 1 ×、デジタル入力は VDD または AGND (特に記述のない限り)

パラメータ		テスト条件	最小値	標準値	最大値	単位
安定動作						
	分解能		10			ビット
INL	積分非直線性 (1)		-2		2	LSB
DNL	微分非直線性 (1)		-1		1	LSB
	オフセット誤差 (1) (2)		-5	0	5	mV
	ゲイン誤差 (1) (2)		-1		1	%FSR
入力						
	入力電圧範囲		0		V_{DD}/3	V
ダイナミック性能						
	データ レート (1)	ADC 平均化設定は 4 サンプル	1406		2008	SPS
	サンプリング コンデンサ			10		pF

(1) 設計と特性評価による仕様で、製造テストは未実施。
(2) ミッドスケールでの DAC、ハイ インピーダンスのコンパレータ入力で測定。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

5.9 電気的特性：総則

すべての最小値および最大値の仕様は –40°C ≤ T_A ≤ +125°C、標準仕様は T_A = 25°C、
3V ≤ V_{DD} ≤ 5.5V、リファレンスとしての V_{DD}、ゲイン = 1 ×、電圧出力モードで抵抗性負荷 (R_L = 5kΩ から AGND) および容量性負荷 (C_L = 200pF から AGND) が負荷された電圧出力 DAC 出力ピン (VOUTx)、デジタル入力は VDD または AGND (特に記述のない限り)

パラメータ		テスト条件	最小値	標準値	最大値	単位
内部リファレンス						
	初期精度		1.1979	1.212	1.224	V
	リファレンス出力の温度係数(1) (2)				73	ppm/°C
EEPROM						
	耐久性(1)	–40°C ≤ T_A ≤ +85°C		20000		サイクル
		T_A = 125°C		1000		
	データ保持期間(1)			50		年
	EEPROM プログラミング書き込みサイクル時間(1)				200	ms
	デバイスのブートアップ時間(1)	電源有効 (V_{DD} ≥ 3V) から出力有効状態 (EEPROM にプログラムされた出力状態) までに要する時間、CAP ピンの 0.5μF コンデンサ		5		ms
デジタル入力						
	デジタル フィードスルー	電圧出力モード、ミッドスケールでの DAC 静的出力、高速モード プラス、SCL トグル		20		nV-s
	ピン容量 1	ピンごと		10		pF
パワーダウン モード						
I_{DD}	VDD に流れる電流	DAC はスリープ モード、内部リファレンスはパワーダウン			28	μA
I_{DD}	VDD に流れる電流(1)	DAC はスリープ モード、内部リファレンス イネーブル、内部リファレンスを流れる追加電流		10		μA
		DAC チャネル イネーブル、内部リファレンス イネーブル、電圧出力モードで DAC チャネルごとに内部リファレンスを流れる追加電流		12.5		
ハイ インピーダンス出力						
I_{LEAK}	V_{OUT} および V_{FB} に流れる電流	DAC はハイ インピーダンス出力モード、3V ≤ V_{DD} ≤ 5.5V		10		nA
		V_{DD} = 0V、V_{OUT} ≤ 1.5V、V_{DD} と AGND = 0.1μF の間のデカップリング コンデンサ		200		
		V_{DD} = 0V、1.5V < V_{OUT} ≤ 5.5V、V_{DD} と AGND = 0.1μF の間のデカップリング コンデンサ		500		
		V_{DD} と AGND の間の 100kΩ、V_{OUT} ≤ 1.25V、OUT ピンの 10kΩ の直列抵抗		±2		μA

(1) 設計と特性評価による仕様で、製造テストは未実施。
(2) -40°C および 125°C で測定し、勾配を計算しています。

5.10 タイミング要件：I²C スタンダード モード

すべての入力信号は、VIL から $V_{pull-up}$ の 70%、3V ≤ V_{DD} ≤ 5.5V、–40°C ≤ T_A ≤ +125°C、1.7V ≤ $V_{pull-up}$ ≤ V_{DD} まででタイミング設定されます

		最小値	公称値	最大値	単位
f_{SCL}	SCL 周波数			100	kHz
t_{BUF}	停止条件と始動条件の間のバス解放時間	4.7			µs
t_{HDSTA}	リピート スタート後のホールド時間	4			µs
t_{SUSTA}	繰り返しスタートのセットアップ時間	4.7			µs
t_{SUSTO}	STOP 条件のセットアップ時間	4			µs
t_{HDDAT}	データ ホールド時間	0			ns
t_{SUDAT}	データ セットアップ時間	250			ns
t_{LOW}	SCL クロックの Low 期間	4700			ns
t_{HIGH}	SCL クロックの High 期間	4000			ns
t_F	クロック / データの立ち下がり時間			300	ns
t_R	クロック / データの立ち上がり時間			1000	ns
t_{VDDAT}	データ有効時間、R = 360Ω、C_{trace} = 23pF、C_{probe} = 10pF			3.45	µs
t_{VDACK}	データ有効アクノリッジ時間、R = 360Ω、C_{trace} = 23pF、C_{probe} = 10pF			3.45	µs

5.11 タイミング要件：I²C ファスト モード

すべての入力信号は、VIL から $V_{pull-up}$ の 70%、3V ≤ V_{DD} ≤ 5.5V、–40°C ≤ T_A ≤ +125°C、1.7V ≤ $V_{pull-up}$ ≤ V_{DD} まででタイミング設定されます

		最小値	公称値	最大値	単位
f_{SCL}	SCL 周波数			400	kHz
t_{BUF}	停止条件と始動条件の間のバス解放時間	1.3			µs
t_{HDSTA}	リピート スタート後のホールド時間	0.6			µs
t_{SUSTA}	繰り返しスタートのセットアップ時間	0.6			µs
t_{SUSTO}	STOP 条件のセットアップ時間	0.6			µs
t_{HDDAT}	データ ホールド時間	0			ns
t_{SUDAT}	データ セットアップ時間	100			ns
t_{LOW}	SCL クロックの Low 期間	1300			ns
t_{HIGH}	SCL クロックの High 期間	600			ns
t_F	クロック / データの立ち下がり時間			300	ns
t_R	クロック / データの立ち上がり時間			300	ns
t_{VDDAT}	データ有効時間、R = 360Ω、C_{trace} = 23pF、C_{probe} = 10pF			0.9	µs
t_{VDACK}	データ有効アクノリッジ時間、R = 360Ω、C_{trace} = 23pF、C_{probe} = 10pF			0.9	µs

5.12 タイミング要件：I²C 高速モード プラス

すべての入力信号は、VIL から $V_{pull-up}$ の 70%、3V ≤ V_{DD} ≤ 5.5V、–40°C ≤ T_A ≤ +125°C、1.7V ≤ $V_{pull-up}$ ≤ V_{DD} まででタイミング設定されます

		最小値	公称値	最大値	単位
f_{SCL}	SCL 周波数			1	MHz
t_{BUF}	停止条件と始動条件の間のバス解放時間	0.5			µs
t_{HDSTA}	リピート スタート後のホールド時間	0.26			µs
t_{SUSTA}	繰り返しスタートのセットアップ時間	0.26			µs
t_{SUSTO}	STOP 条件のセットアップ時間	0.26			µs
t_{HDDAT}	データ ホールド時間	0			ns
t_{SUDAT}	データ セットアップ時間	50			ns
t_{LOW}	SCL クロックの Low 期間	0.5			µs
t_{HIGH}	SCL クロックの High 期間	0.26			µs
t_F	クロック / データの立ち下がり時間			120	ns

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

すべての入力信号は、VIL から $V_{pull-up}$ の 70%、3V ≤ V_{DD} ≤ 5.5V、–40°C ≤ T_A ≤ +125°C、1.7V ≤ $V_{pull-up}$ ≤ V_{DD} まででタイミング設定されます

		最小値	公称値	最大値	単位
t_R	クロック / データの立ち上がり時間			120	ns
t_{VDDAT}	データ有効時間、R = 360Ω、C_{trace} = 23pF、C_{probe} = 10pF			0.45	µs
t_{VDACK}	データ有効アクノリッジ時間、R = 360Ω、C_{trace} = 23pF、C_{probe} = 10pF			0.45	µs

5.13 タイミング要件：SPI 書き込み動作

すべての入力信号は、t_r = t_f = 1V/ns (V_{IO} の 10% ～ 90%) で指定され、(VIL + VIH)/2、1.7V ≤ V_{IO} ≤ 5.5V、3V ≤ V_{DD} ≤ 5.5V、–40°C ≤ T_A ≤ +125°C の電圧レベルからタイミング設定されます

		最小値	公称値	最大値	単位
f_{SCLK}	シリアル クロック周波数			50	MHz
$t_{SCLKHIGH}$	SCLK High 時間	9			ns
$t_{SCLKLOW}$	SCLK Low 時間	9			ns
t_{SDIS}	SDI のセットアップ時間	8			ns
t_{SDIH}	SDI のホールド時間	8			ns
t_{CSS}	$\overline{CS}$ から SCLK 立ち下がりエッジまでのセットアップ時間	18			ns
t_{CSH}	SCLK 立ち下がりエッジから $\overline{CS}$ 立ち上がりエッジまで	10			ns
t_{CSHIGH}	$\overline{CS}$ High 時間	50			ns
$t_{DACWAIT}$	同じチャネルのシーケンシャル DAC の更新待機時間 (後続の $\overline{LDAC}$ 立ち下がりエッジまでの時間)	2			µs
$t_{BCASTWAIT}$	ブロードキャスト DAC の更新待機時間 (後続の $\overline{LDAC}$ 立ち下がりエッジまでの時間)	2			µs

5.14 タイミング要件：SPI 読み出しおよびデイジー チェーン動作 (FSDO = 0)

すべての入力信号は、t_r = t_f = 1V/ns (V_{IO} の 10% ～ 90%) で指定され、(VIL + VIH)/2、1.7V ≤ V_{IO} ≤ 5.5V、3V ≤ V_{DD} ≤ 5.5V、–40°C ≤ T_A ≤ +125°C、FSDO = 0 の電圧レベルからタイミング設定されます

		最小値	公称値	最大値	単位
f_{SCLK}	シリアル クロック周波数			1.25	MHz
$t_{SCLKHIGH}$	SCLK High 時間	350			ns
$t_{SCLKLOW}$	SCLK Low 時間	350			ns
t_{SDIS}	SDI のセットアップ時間	8			ns
t_{SDIH}	SDI のホールド時間	8			ns
t_{CSS}	$\overline{SYNC}$ から SCLK 立ち下がりエッジまでのセットアップ時間	400			ns
t_{CSH}	SCLK 立ち下がりエッジから $\overline{SYNC}$ 立ち上がりエッジまで	400			ns
t_{CSHIGH}	$\overline{SYNC}$ High 時間	1			µs
t_{SDODLY}	SCLK 立ち上がりエッジから SDO 立ち下がりエッジまで、I_{OL} ≤ 5mA、C_L = 20pF。			300	ns

5.15 タイミング要件：SPI 読み出しおよびデイジー チェーン動作 (FSDO = 1)

すべての入力信号は、t_r = t_f = 1V/ns (V_{IO} の 10% ～ 90%) で指定され、(VIL + VIH)/2、1.7V ≤ V_{IO} ≤ 5.5V、3V ≤ V_{DD} ≤ 5.5V、–40°C ≤ T_A ≤ +125°C、FSDO = 1 の電圧レベルからタイミング設定されます

		最小値	公称値	最大値	単位
f_{SCLK}	シリアル クロック周波数			2.5	MHz
$t_{SCLKHIGH}$	SCLK High 時間	175			ns
$t_{SCLKLOW}$	SCLK Low 時間	175			ns
t_{SDIS}	SDI のセットアップ時間	8			ns
t_{SDIH}	SDI のホールド時間	8			ns
t_{CSS}	$\overline{SYNC}$ から SCLK 立ち下がりエッジまでのセットアップ時間	300			ns
t_{CSH}	SCLK 立ち下がりエッジから $\overline{SYNC}$ 立ち上がりエッジまで	300			ns
t_{CSHIGH}	$\overline{SYNC}$ High 時間	1			µs
t_{SDODLY}	SCLK 立ち上がりエッジから SDO 立ち下がりエッジまで、I_{OL} ≤ 5mA、C_L = 20pF。			300	ns

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

5.16 タイミング要件：GPIO

すべての入力信号は、$t_r = t_f$ = 1V/ns (V_{IO} の 10% ～ 90%) で指定され、(VIL + VIH)/2、1.7V ≤ V_{IO} ≤ 5.5V、3V ≤ V_{DD} ≤ 5.5V、–40°C ≤ T_A ≤ +125°C の電圧レベルからタイミング設定されます

		最小値	公称値	最大値	単位
$t_{GPIHIGH}$	GPI high 時間	2			µs
t_{GPILOW}	GPI low 時間	2			µs
t_{GPAWGD}	$\overline{LDAC}$ 立ち下がりエッジから DAC 更新までの遅延(1)			2	µs
$t_{CS2LDAC}$	$\overline{SYNC}$ 立ち上がりエッジから $\overline{LDAC}$ 立ち下がりエッジまで	1			µs
$t_{STP2LDAC}$	I^2C ストップ ビット立ち上がりエッジから $\overline{LDAC}$ 立ち下がりエッジまで	1			µs
t_{LDACW}	$\overline{LDAC}$ Low 時間	2			µs

(1) GPIO は、チャネル固有またはグローバル $\overline{LDAC}$ 機能として構成できます。

5.17 タイミング図

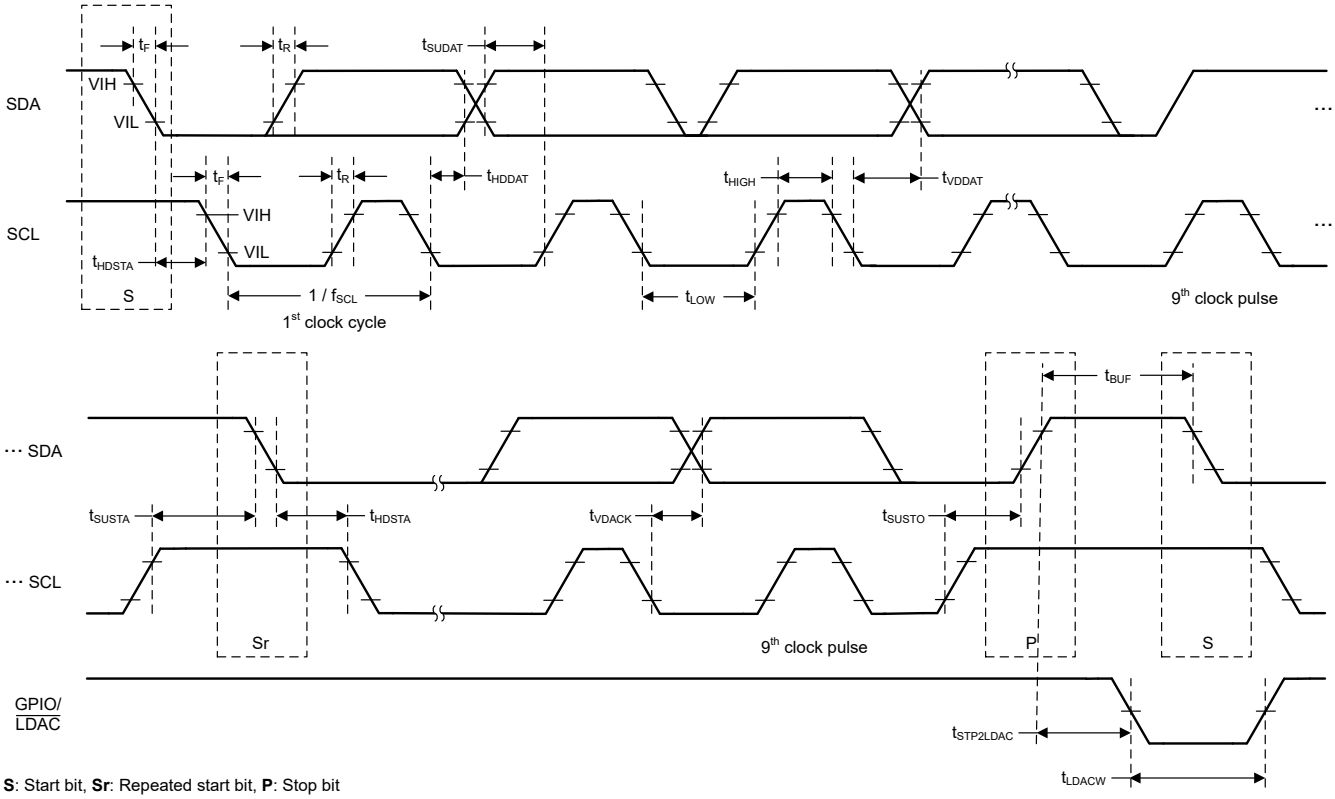


図 5-1. I^2C のタイミング図

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

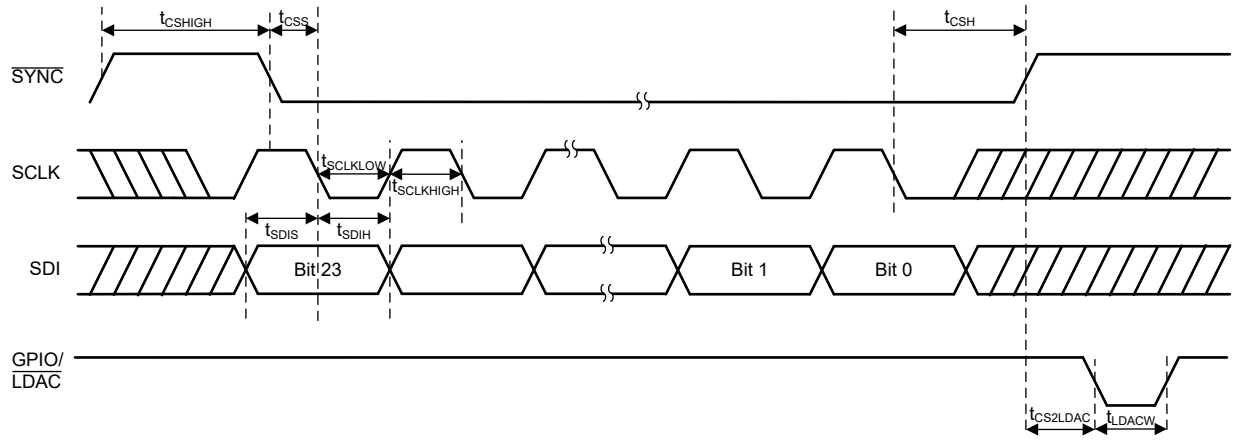


図 5-2. SPI 書き込みタイミング図

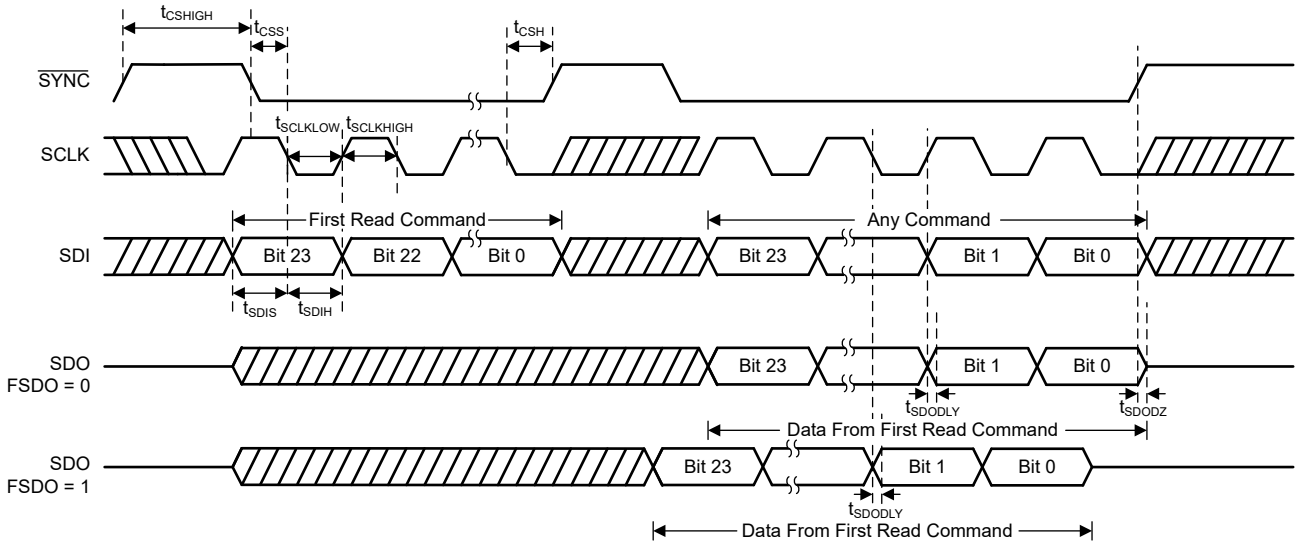
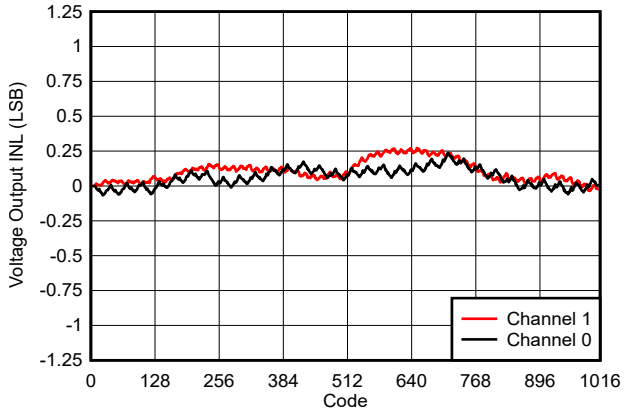


図 5-3. SPI 読み出しのタイミング図

5.18 代表的特性：電圧出力

T_A = 25°C の場合、V_{DD} = 5.5V、リファレンスとしての VDD、ゲイン = 1 ×、10 ビット分解能、DAC 出力は無負荷 (特に記述のない限り)



内部リファレンス、ゲイン = 4 ×

図 5-4. 電圧出力 INL とデジタル入力コードとの関係

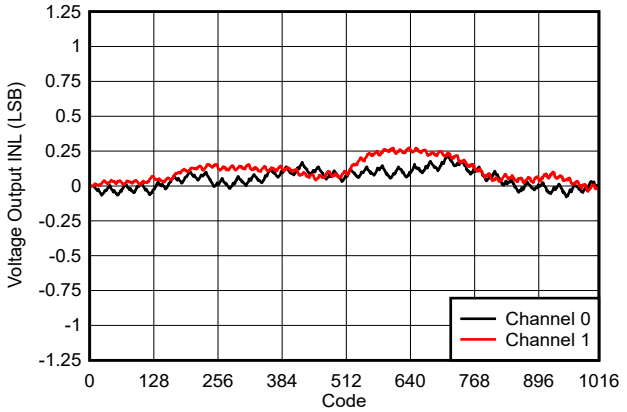


図 5-5. 電圧出力 INL とデジタル入力コードとの関係

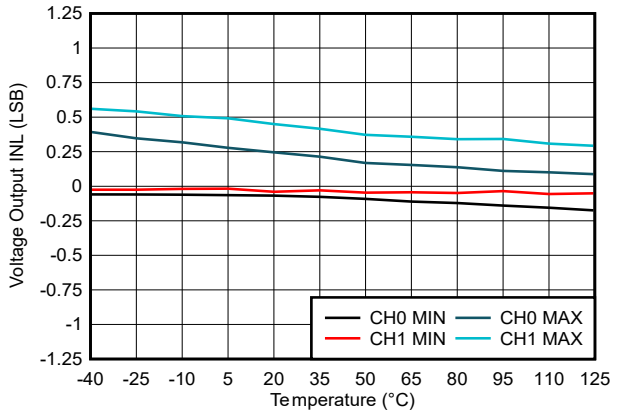


図 5-6. 電圧出力 INL と温度との関係

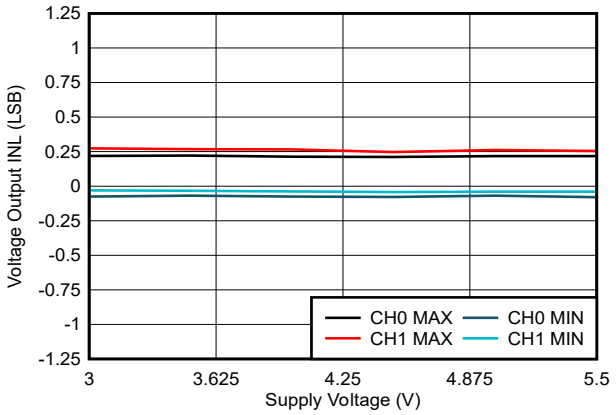
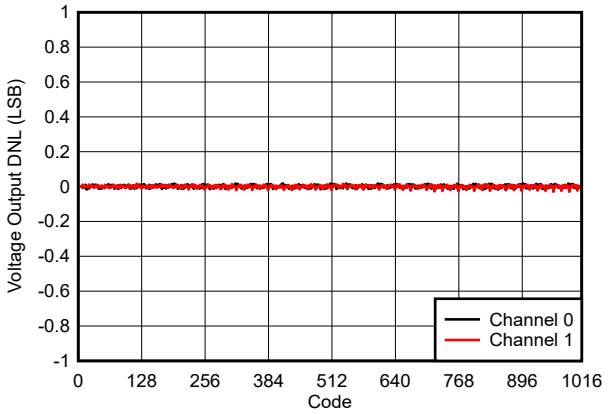


図 5-7. 電圧出力 INL と電源電圧との関係



内部リファレンス、ゲイン = 4 ×

図 5-8. 電圧出力 DNL とデジタル入力コードとの関係

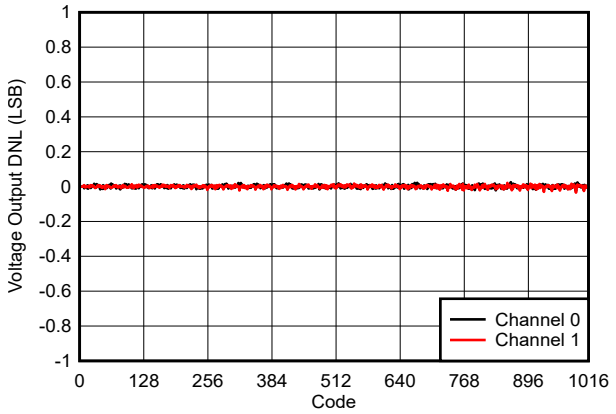


図 5-9. 電圧出力 DNL とデジタル入力コードとの関係

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

5.18 代表的特性：電圧出力 (続き)

T_A = 25°C の場合、V_{DD} = 5.5V、リファレンスとしての VDD、ゲイン = 1 ×、10 ビット分解能、DAC 出力は無負荷 (特に記述のない限り)

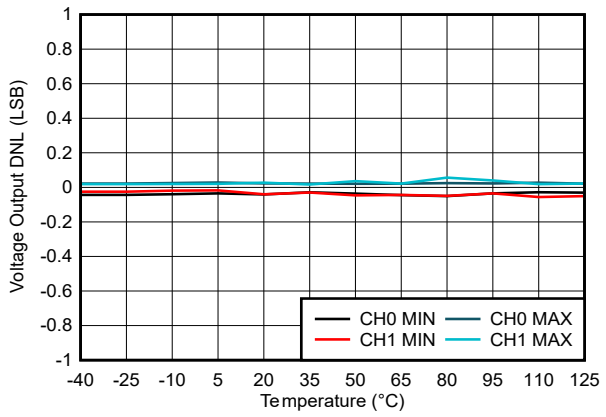


図 5-10. 電圧出力 DNL と温度との関係

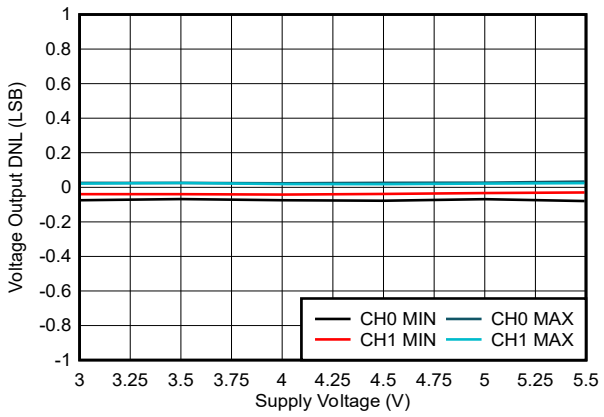
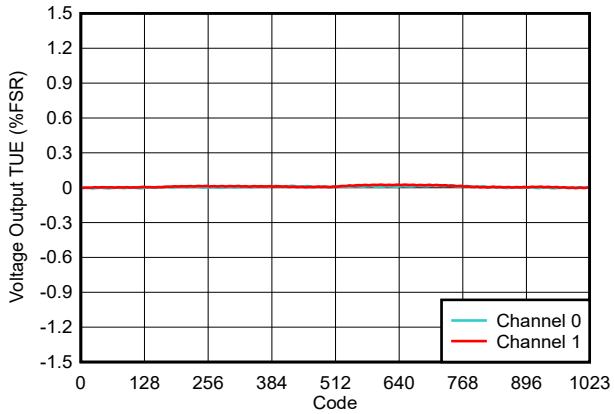


図 5-11. 電圧出力 DNL と電源電圧との関係



内部リファレンス、ゲイン = 4 ×

図 5-12. 電圧出力 TUE とデジタル入力コードとの関係

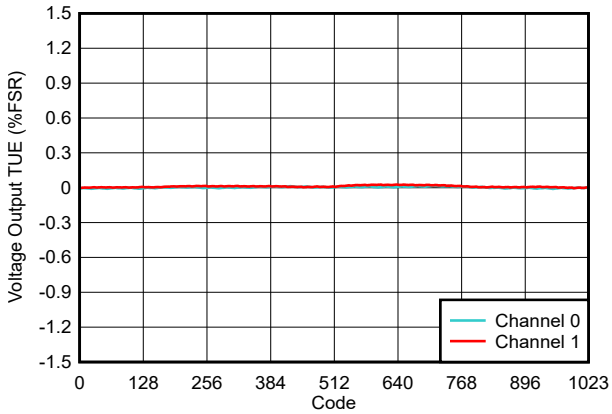
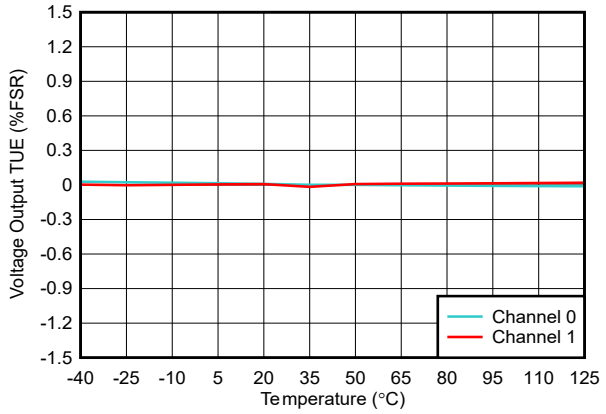
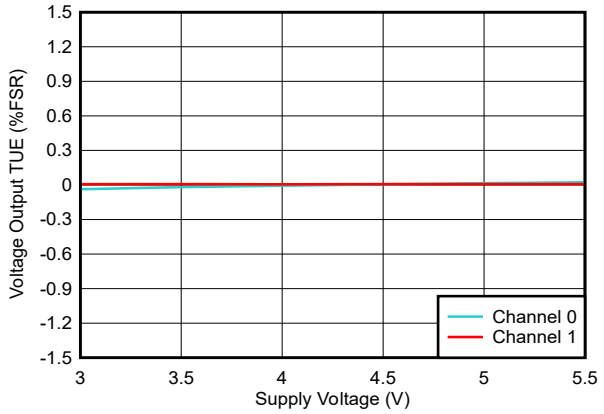


図 5-13. 電圧出力 TUE とデジタル入力コードとの関係



ミッドスケールでの DAC チャネル

図 5-14. 電圧出力 TUE と温度との関係



ミッドスケールでの DAC チャネル

図 5-15. 電圧出力 TUE と電源電圧との関係

5.18 代表的特性：電圧出力 (続き)

T_A = 25°C の場合、V_{DD} = 5.5V、リファレンスとしての VDD、ゲイン = 1 ×、10 ビット分解能、DAC 出力は無負荷 (特に記述のない限り)

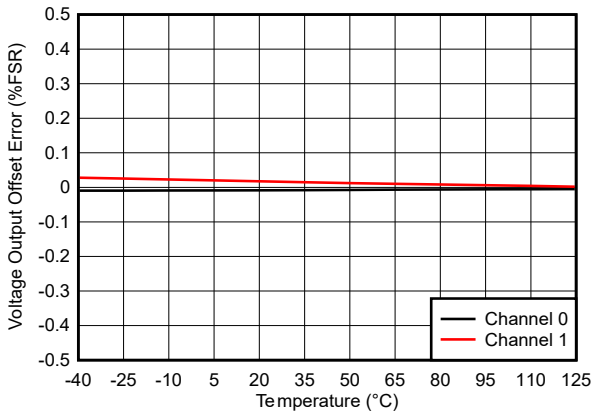


図 5-16. 電圧出力オフセット誤差と温度との関係

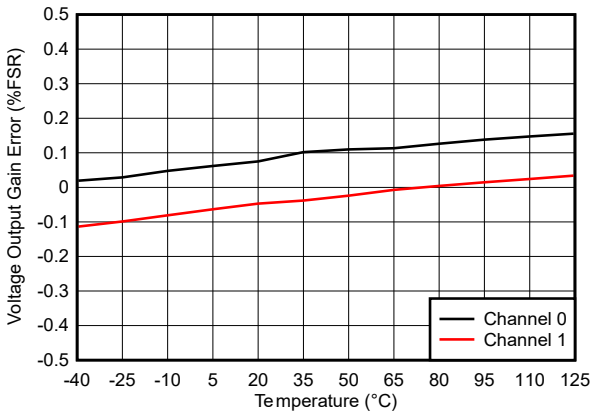


図 5-17. 電圧出力ゲイン誤差と温度との関係

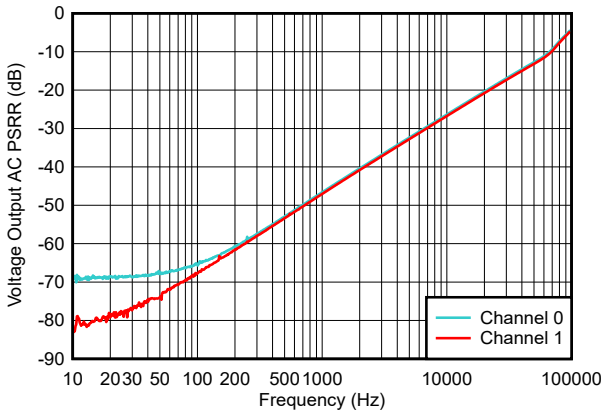


図 5-18. 電圧出力 AC PSRR と周波数との関係

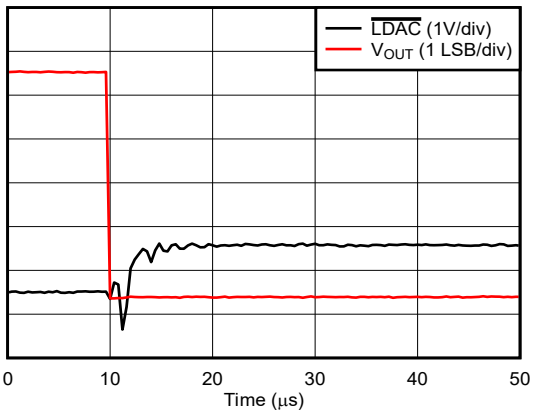


図 5-19. 電圧出力のコード間グリッチ：立ち上がりエッジ

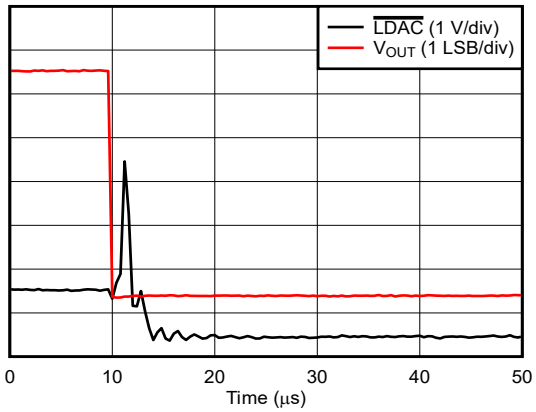
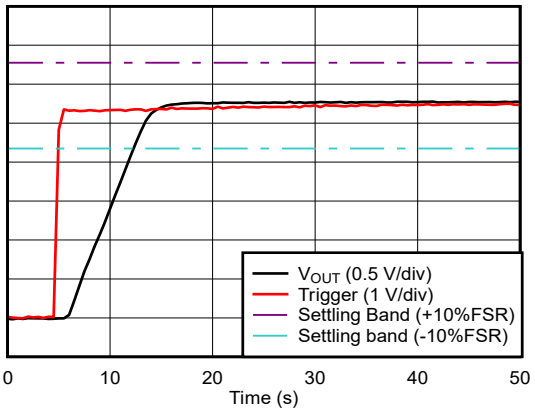


図 5-20. 電圧出力のコード間グリッチ：立ち下がりエッジ



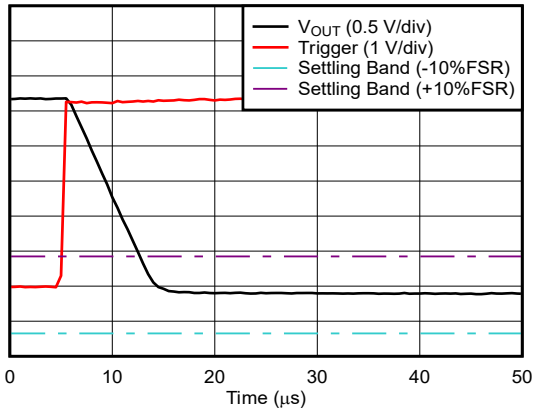
ゼロスケールからフルスケールまでのスイング

図 5-21. 出力電圧セトリング時間：立ち上がりエッジ

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

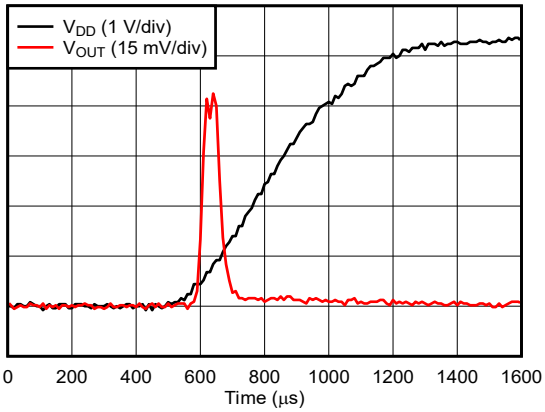
5.18 代表的特性：電圧出力 (続き)

T_A = 25°C の場合、V_{DD} = 5.5V、リファレンスとしての VDD、ゲイン = 1 ×、10 ビット分解能、DAC 出力は無負荷 (特に記述のない限り)



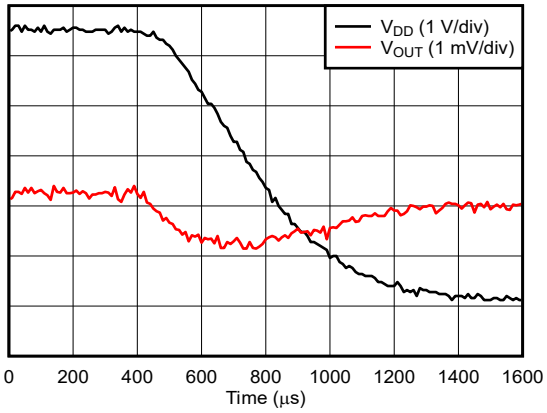
フルスケールからゼロスケールまでのスイング

図 5-22. 出力電圧セトリング時間：立ち下がりエッジ



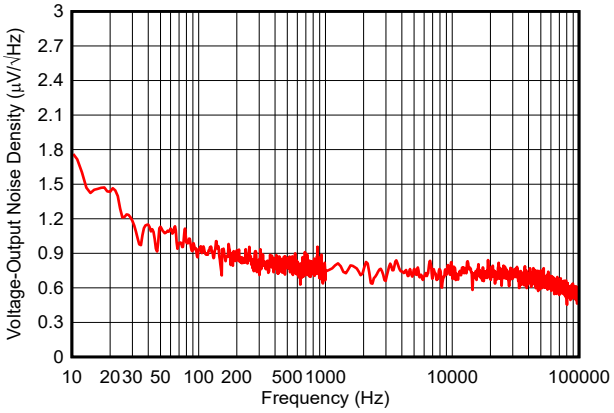
ハイ インピーダンス パワーダウン モードでの DAC

図 5-23. 電圧出力パワーオン グリッチ



ゼロスケールの DAC

図 5-24. 電圧出力パワーオフ グリッチ



内部リファレンス、ゲイン = 4 ×

図 5-25. 電圧出力ノイズ密度

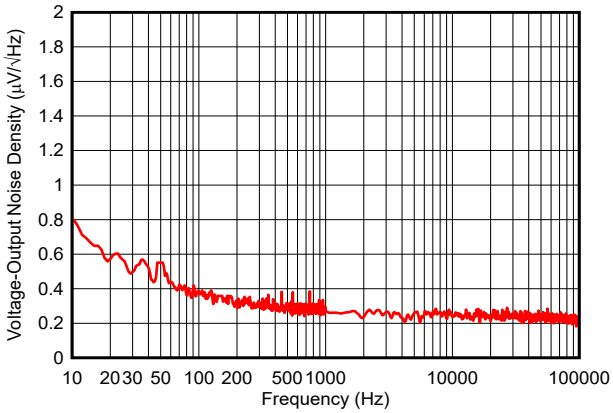
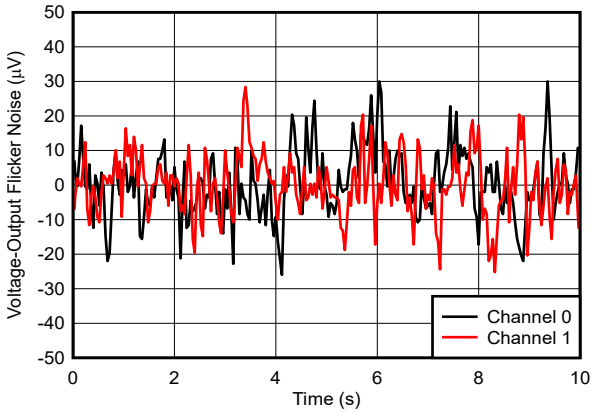


図 5-26. 電圧出力ノイズ密度

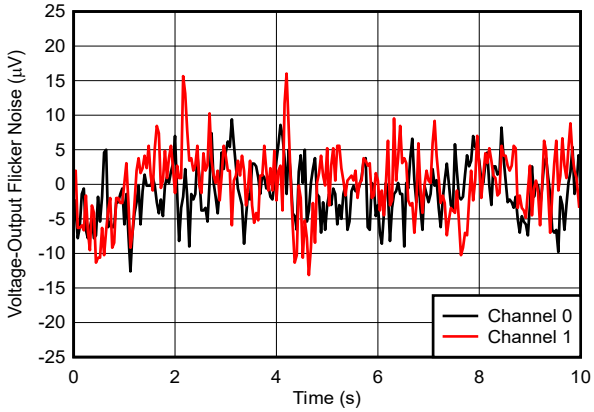


内部リファレンス、ゲイン = 4 ×、f = 0.1Hz ～ 10Hz

図 5-27. 電圧出力フリッカー ノイズ

5.18 代表的特性：電圧出力 (続き)

T_A = 25°C の場合、V_{DD} = 5.5V、リファレンスとしての VDD、ゲイン = 1 ×、10 ビット分解能、DAC 出力は無負荷 (特に記述のない限り)



f = 0.1Hz～10Hz

図 5-28. 電圧出力フリッカー ノイズ

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

5.19 代表的特性：電流出力

T_A = 25℃ の場合、V_{DD} = 5.5V、IOUT-GAIN = 2/3、ダイオード負荷 (特に記述のない限り)

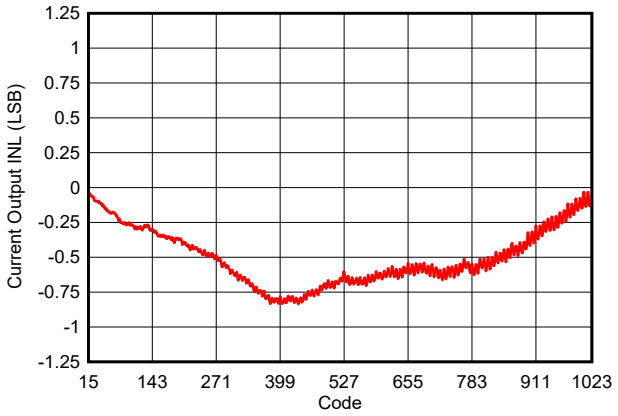


図 5-29. 電流出力 INL とデジタル入力コードとの関係

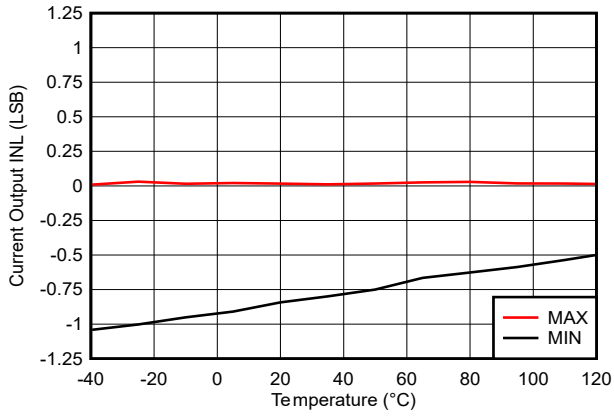


図 5-30. 電流出力 INL と温度との関係

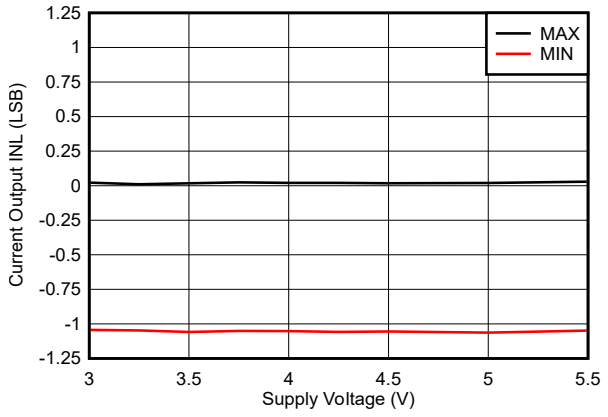


図 5-31. 電流出力 INL と電源電圧との関係

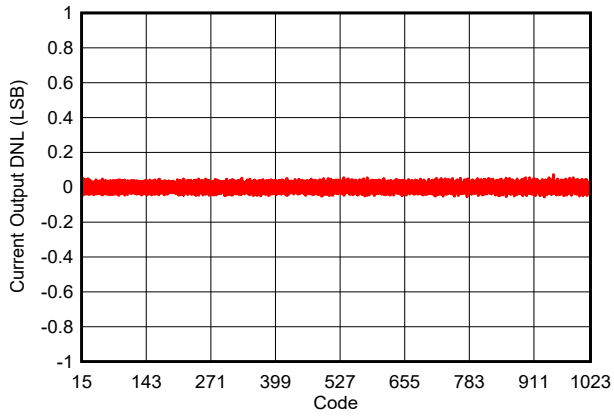


図 5-32. 電流出力 DNL とデジタル入力コードとの関係

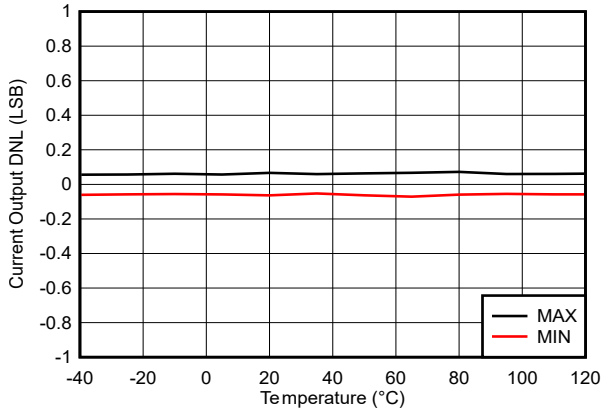


図 5-33. 電流出力 DNL と温度との関係

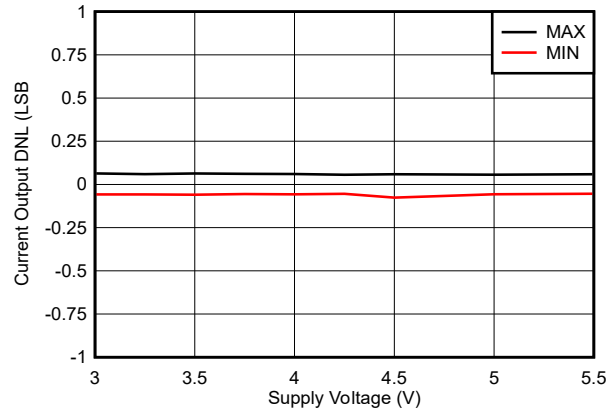


図 5-34. 電流出力 DNL と電源電圧との関係

5.19 代表的特性：電流出力 (続き)

T_A = 25℃ の場合、V_{DD} = 5.5V、IOUT-GAIN = 2/3、ダイオード負荷 (特に記述のない限り)

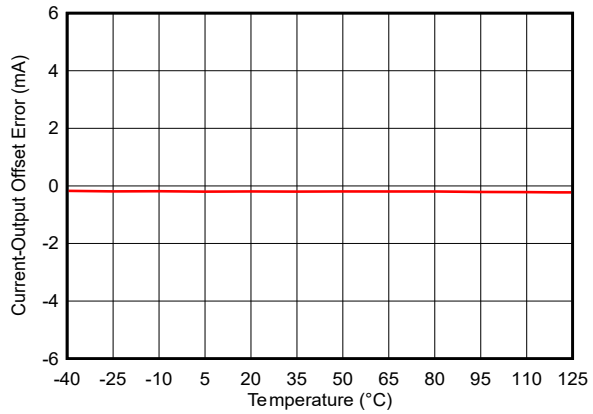


図 5-35. 電流出力オフセット誤差と温度との関係

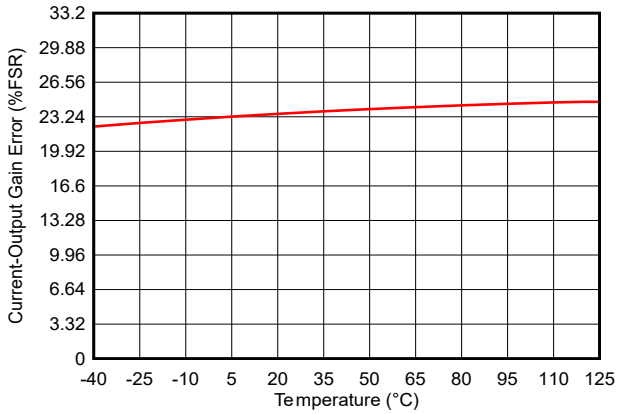
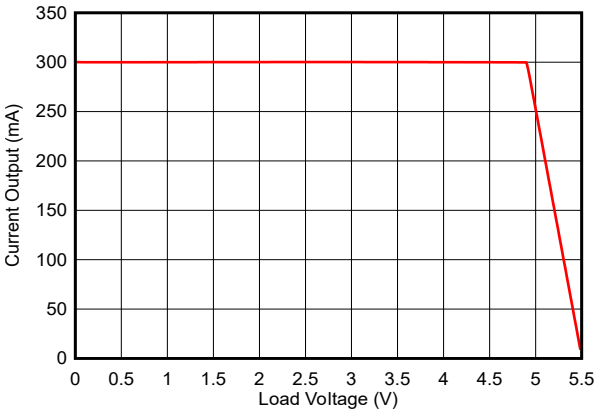
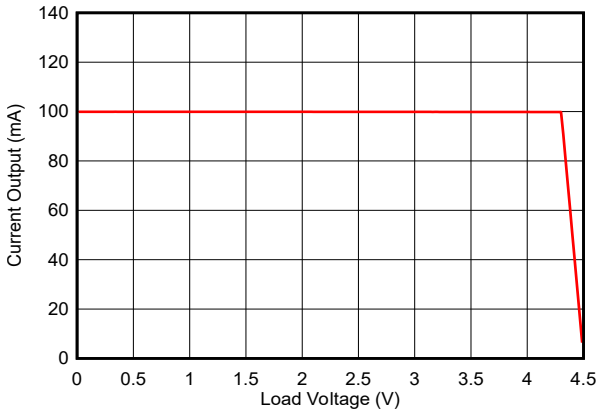


図 5-36. 電圧測定ゲイン誤差と温度との関係



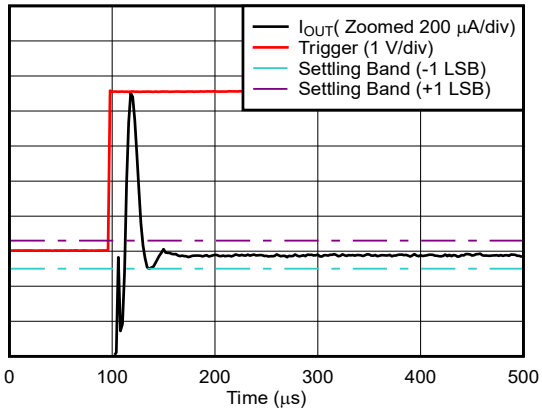
IOUT = 300mA

図 5-37. 電流出力と負荷電圧との関係



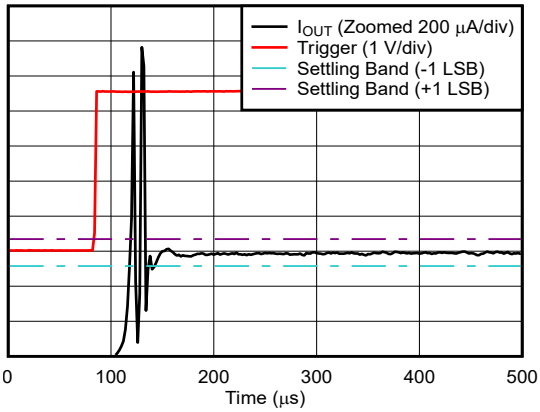
IOUT = 100mA

図 5-38. 電流出力と負荷電圧との関係



¼ スケールから ¾ スケールまでのスイング

図 5-39. 電流出力セトリング タイム、立ち上がりエッジ



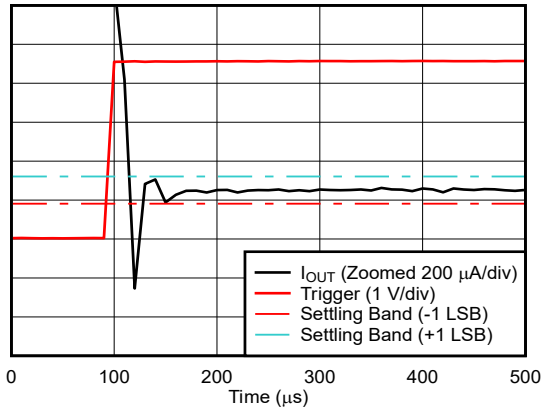
ゼロスケールからフルスケールまでのスイング

図 5-40. 電流出力セトリング タイム、立ち上がりエッジ

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

5.19 代表的特性：電流出力 (続き)

T_A = 25℃ の場合、V_{DD} = 5.5V、IOUT-GAIN = 2/3、ダイオード負荷 (特に記述のない限り)



¾ スケールから ¼ スケールまで

図 5-41. 電流出力セトリング タイム、立ち下がりエッジ

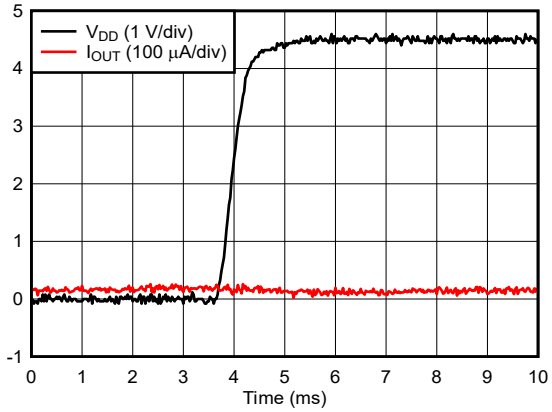


図 5-42. 電流出力パワーオン グリッチ

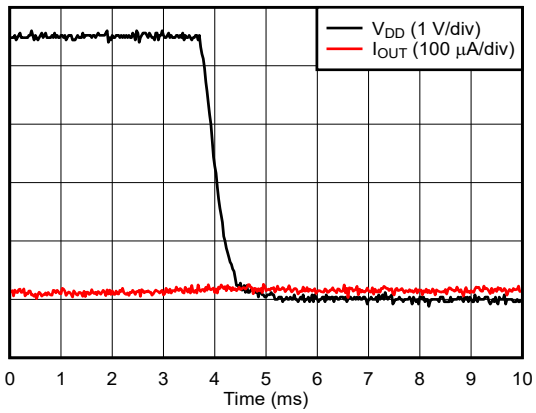
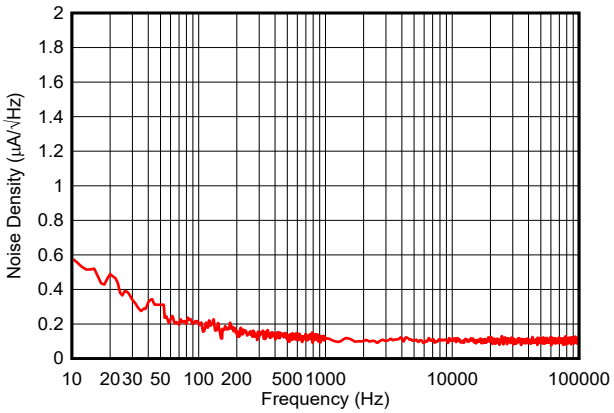
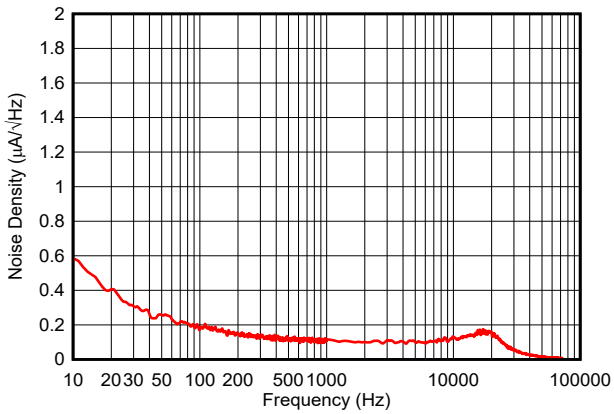


図 5-43. 電流出力パワーオフ グリッチ



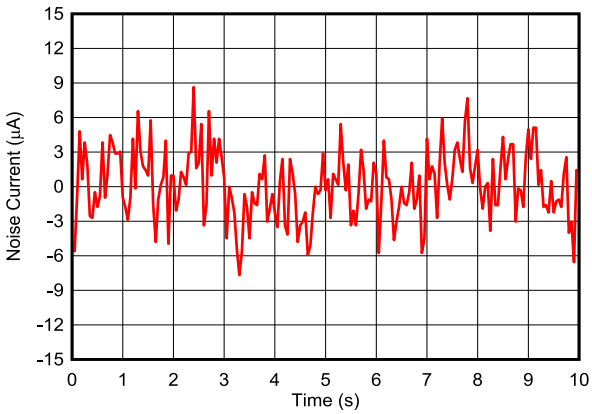
ダイオード負荷

図 5-44. 電流出力ノイズ密度



誘導性負荷

図 5-45. 電流出力ノイズ密度

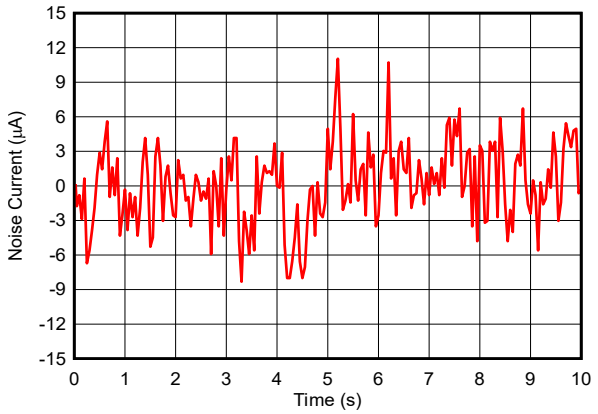


f = 0.1Hz ～ 10Hz、ダイオード負荷

図 5-46. 電流出力フリッカー ノイズ

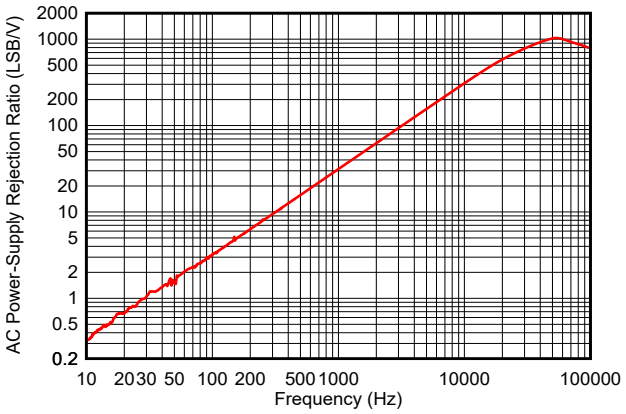
5.19 代表的特性：電流出力 (続き)

T_A = 25℃ の場合、V_{DD} = 5.5V、IOUT-GAIN = 2/3、ダイオード負荷 (特に記述のない限り)



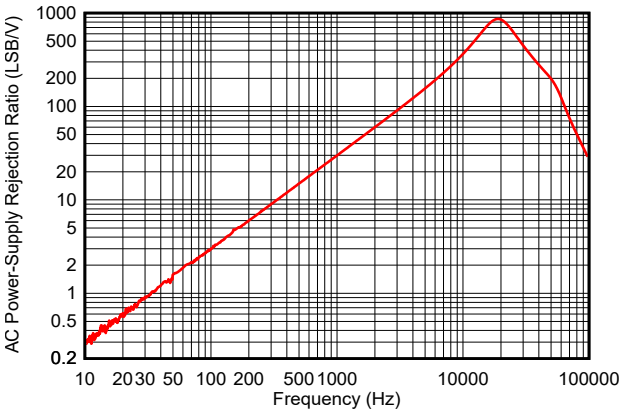
f = 0.1Hz ～ 10Hz、誘導性負荷

図 5-47. 電流出力フリッカー ノイズ



ダイオード負荷

図 5-48. 電流出力 AC PSRR と周波数との関係



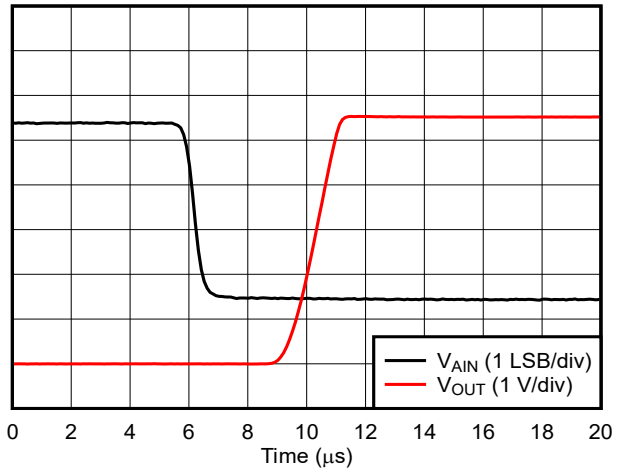
誘導性負荷

図 5-49. 電流出力 AC PSRR と周波数との関係

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

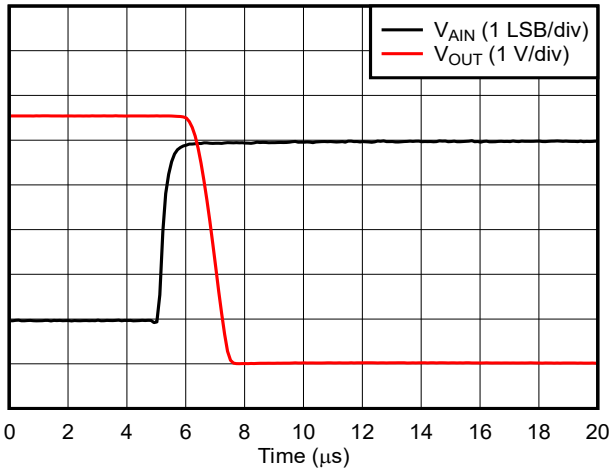
5.20 代表的特性：コンパレータ

T_A = 25°C の場合、V_{DD} = 5.5V、リファレンスとしての VDD、ゲイン = 1 ×、10 ビット分解能、FB1 ピンはハイ インピーダンス モード、DAC 出力は無負荷 (特に記述のない限り)



プッシュプル モードでのコンパレータ出力

図 5-50. コンパレータ応答時間：Low から High への遷移



プッシュプル モードでのコンパレータ出力

図 5-51. コンパレータ応答時間：High から Low への遷移

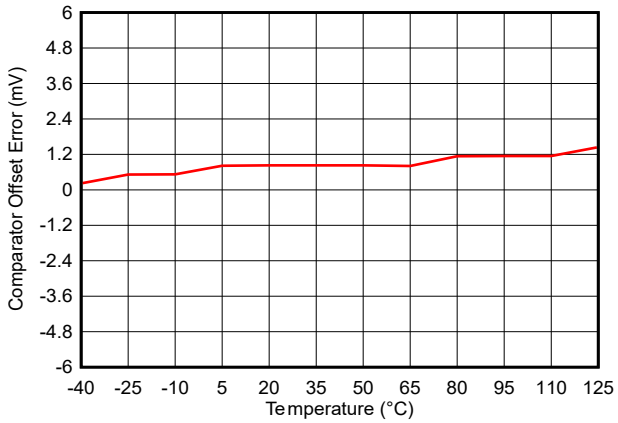


図 5-52. コンパレータ オフセット誤差と温度との関係

5.21 代表的特性：ADC

T_A = 25°C の場合、V_{DD} = 5.5V、リファレンスとしての VDD、ゲイン = 1 ×、10 ビット分解能、ハイ インピーダンス入力 (特に記述のない限り)

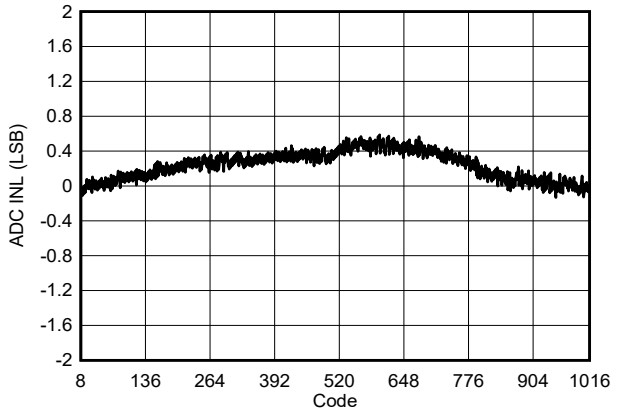


図 5-53. ADC INL とデジタル出力コードとの関係

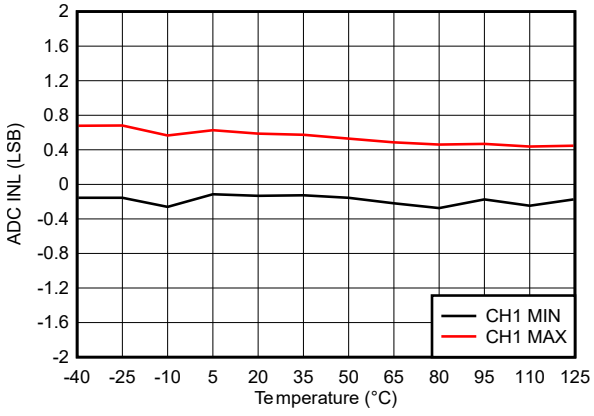


図 5-54. ADC INL と温度との関係

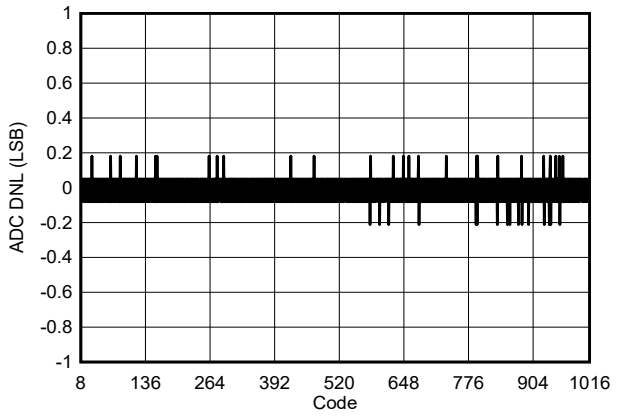


図 5-55. ADC DNL とデジタル出力コードとの関係

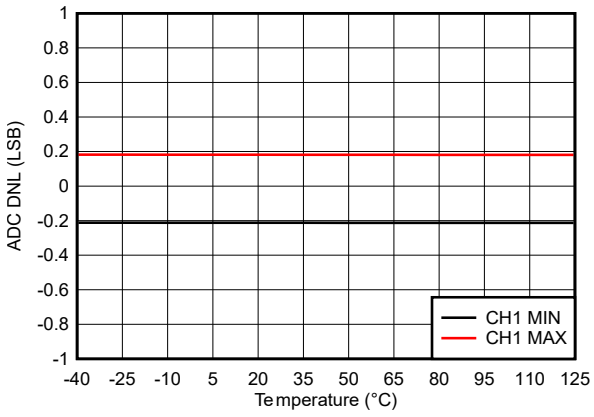


図 5-56. ADC DNL と温度との関係

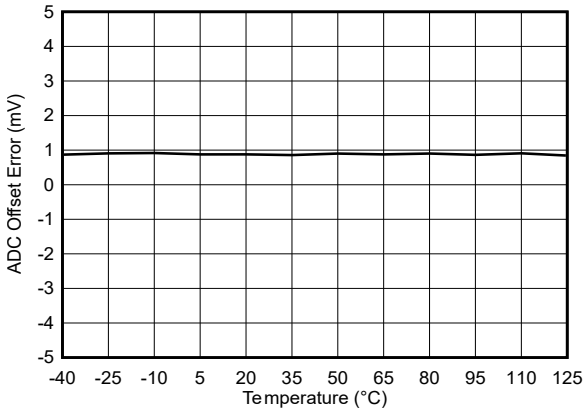


図 5-57. ADC オフセット誤差と温度との関係

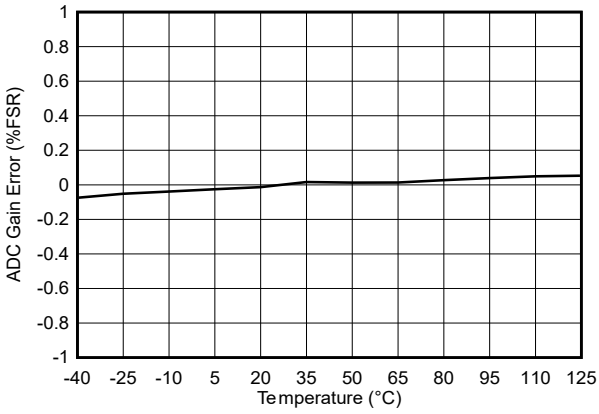
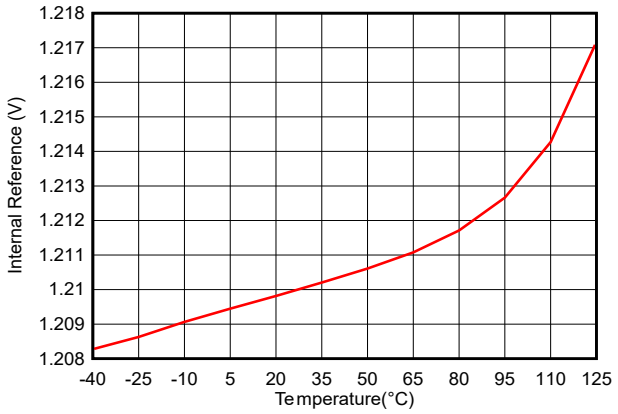


図 5-58. ADC ゲイン誤差と温度との関係

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

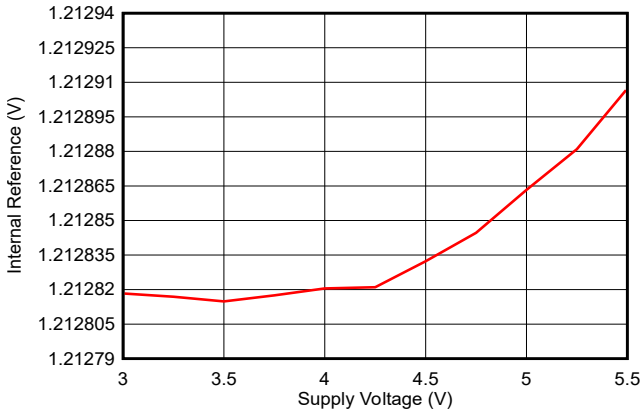
5.22 代表的特性：総則

T_A = 25℃ の場合、V_{DD} = 5.5V、DAC 出力は無負荷 (特に記述のない限り)



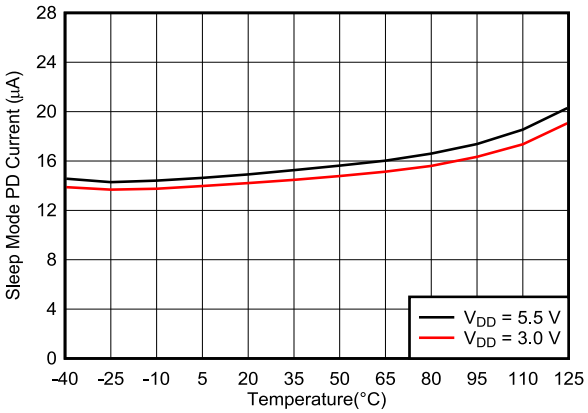
内部リファレンス

図 5-59. 内部リファレンスと温度との関係



内部リファレンス

図 5-60. 内部リファレンスと電源電圧との関係



スリープ モード、内部リファレンス ディスエーブル

図 5-61. パワーダウン電流と温度との関係

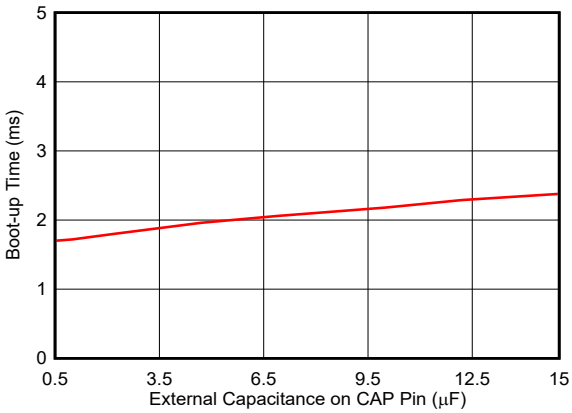


図 5-62. ブートアップ時間と CAP ピンの容量との関係

6 詳細説明

6.1 概要

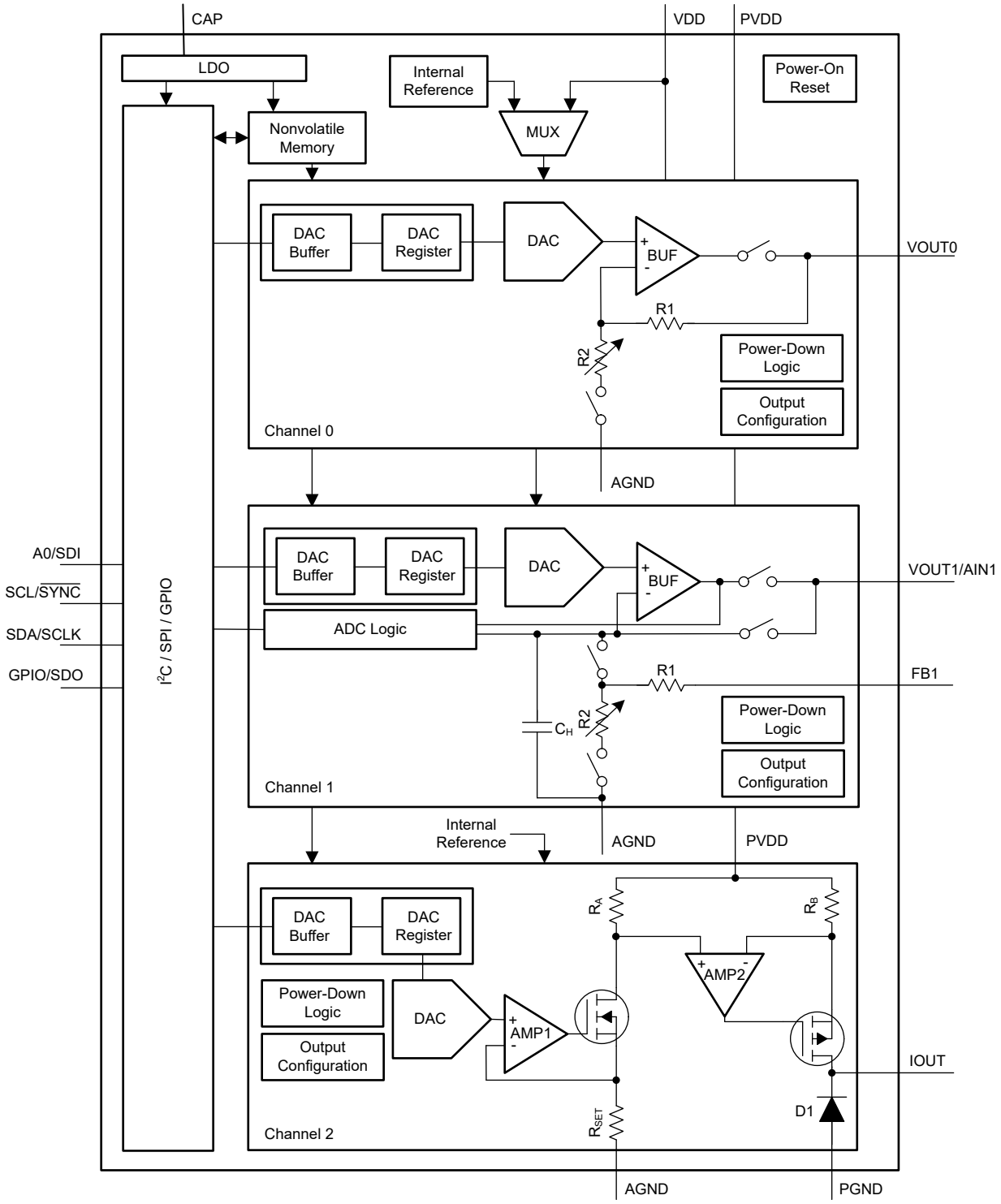
10 ビットの AFE532A3W および 8 ビットの AFE432A3W (AFEx32A3W) は、3 チャネル、バッファ付き、電圧出力、電流出力、および ADC 入力のスマート AFE です。DAC チャネル 2 は電流源として機能します。DAC チャネル 1 は電圧出力、コンパレータ入力、ADC 入力として構成可能です。VDD がオフのとき、DAC 出力はハイ インピーダンスに変更されます。この機能は、電圧マージン測定アプリケーションに便利です。このスマート AFE には、NVM、内部リファレンス電圧、自動検出が可能な I^2C または SPI、フォースセンス出力、汎用入力が内蔵されています。このデバイスはデフォルトでハイ インピーダンスのパワーダウン モードをサポートしており、このモードは NVM を使用する電圧出力チャネルの場合に 10kΩ GND または 100kΩ GND に構成できます。AFEx32A3W にはパワーオン リセット (POR) 回路があり、すべてのレジスタがデフォルト設定、または NVM を使用してユーザーがプログラムした設定から確実に開始されます。AFEx32A3W は、内部リファレンス、または電源をリファレンスとして使用して動作します。

AFEx32A3W は、I^2C スタンダード モード (100kbps)、高速モード (400kbps)、高速モード プラス (1Mbps) をサポートしています。I^2C インターフェイスは、A0 ピンを使用して 4 つのターゲット アドレスで構成できます。SPI モードでは、デフォルトで最大 50MHz の SCLK 入力を持つ 3 線式インターフェイスをサポートしています。GPIO/SDO 入力は、NVM で SDO として構成して、SPI 読み取り機能を実現できます。GPIO/SDO 入力は $\overline{\text{LDAC}}$、$\overline{\text{PD}}$、$\overline{\text{STATUS}}$、$\overline{\text{FAULT-DUMP}}$、$\overline{\text{RESET}}$、$\overline{\text{PROTECT}}$ 機能としても構成できます。

AFEx32A3W にはデジタル スルーレート制御も含まれており、「*正弦波*」、「*余弦波*」、「*三角波*」、「*のこぎり波*」などの標準的な波形生成をサポートしています。このデバイスは、三角波またはのこぎり波と FB1 ピンの組み合わせにより、パルス幅変調 (PWM) 出力を生成できます。チャネル 1 のフォースセンス出力は、プログラム可能なコンパレータとして使用できます。コンパレータ モードでは、プログラマブル ヒステリシス、ラッチ コンパレータ、ウィンドウ コンパレータ、NVM へのフォルトダンプが可能です。これらの機能により、AFEx32A3W は動作するプロセッサに依存する従来型 DAC の制限を超えることができます。「*プロセッサなし*」で動作し、「*スマート*」機能セットが備わっているため、AFEx32A3W はスマート AFE と呼ばれます。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.2 機能ブロック図


CAP
VDD
PVDD
LDO
Internal Reference
Power-On Reset
Nonvolatile Memory
MUX
DAC Buffer
DAC Register
DAC
BUF
VOUT0
R1
R2
Power-Down Logic
Output Configuration
Channel 0
AGND
A0/SDI
SCL/SYNC
SDA/SCLK
GPIO/SDO
I²C / SPI / GPIO
DAC Buffer
DAC Register
DAC
BUF
VOUT1/AIN1
ADC Logic
R1
FB1
CH
R2
Power-Down Logic
Output Configuration
Channel 1
Internal Reference
AGND
PVDD
DAC Buffer
DAC Register
RA
RB
AMP2
Power-Down Logic
DAC
AMP1
Output Configuration
IOUT
D1
RSET
Channel 2
AGND
PGND

6.3 機能説明

6.3.1 スマート アナログ フロント エンド (AFE) アーキテクチャ

AFEx32A3W デバイスの電圧出力 DAC チャネルは、電圧出力アンプとチャネル 1 の外部フィードバック ピンを備えた文字列アーキテクチャで構成されています。セクション 6.2 に、3V ～ 5.5V の電源で動作する DAC アーキテクチャをブロック図で示します。DAC の電圧リファレンス電圧は 1.21V です 。オプションとして、電源をリファレンス電圧として使用します。電圧出力モードは、複数のプログラム可能な出力範囲をサポートしています。

AFEx32A3W デバイスは、VDD がオフのときはハイ インピーダンス出力をサポートするため、最大 1.25V の強制電圧で出力ピンで非常に低いリーク電流を維持できます。また、DAC 出力ピンはデフォルトでハイ インピーダンス モードで起動するため、電圧マージン測定とスケーリングのアプリケーションに最適です。パワーアップ モードを 10kΩ GND または 100kΩ GND に変更するには、COMMON-CONFIG レジスタの対応する DAC-PDN-x フィールドをプログラムし、これらのビットをデバイス NVM にロードします。

AFEx32A3W デバイスは、チャネル 1 のコンパレータ モードをサポートしています。FB1 ピンは、コンパレータの入力として機能します。DAC アーキテクチャは、レジスタ設定を使用してコンパレータ出力の反転をサポートしています。コンパレータ出力は、プッシュプルまたはオープン ドレインとして使用できます。コンパレータ モードは、「*margin-high*」および「*margin-low*」レジスタ フィールド、ラッチ コンパレータ、およびウィンドウ コンパレータを使用して、プログラム可能なヒステリシスをサポートします。コンパレータ出力は、デバイスから内部アクセスできます。

AFEx32A3W は、チャネル 1 の ADC 入力をサポートしています。このモードで FB1 を VDD にプルし、VOUT1/AIN1 ピンをアナログ入力として使用します。ADC モードを有効にするには、このチャネルをコンパレータとして構成する必要があります。チャネル 0 は、閉ループのバッファ付き電圧出力 DAC として機能します。

チャネル 2 は電流源として機能し、300mA 出力時に最小 770mV のヘッドルームを確保します。電流出力を使用する際は、デバイスの接合部温度が推奨制限範囲内に維持されていることを確認してください。

AFEx32A3W デバイスには、「*プロセッサなし*」の動作と高集積を可能にする「*スマート*」機能セットが含まれています。NVM により、予測可能な起動が可能になります。プロセッサが存在しない場合、またはプロセッサまたはソフトウェアが故障した場合、GPIO は SPI または I^2C インターフェイスなしで DAC 出力をトリガします。統合機能と FB1 ピンにより、制御アプリケーションで PWM 出力が可能になります。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.3.2 デジタル入力/出力

AFEx32A3W には 4 つのデジタル I/O ピンがあり、I²C、SPI、GPIO インターフェイスを含めることができます。これらのデバイスは、電源投入後の最初の通信が成功したときに I²C および SPI プロトコルを自動的に検出し、検出されたインターフェイスに接続します。インターフェイス プロトコルが接続されると、プロトコルの変更は無視されます。I²C インターフェイスは、A0 ピンを使用して 4 つのアドレス オプションから選択します。SPI インターフェイスは、デフォルトでは 3 線式インターフェイスです。このモードでは、読み戻し機能は使用できません。GPIO/SDO ピンは、レジスタ マップで設定して、SDO 機能として NVM にプログラムできます。SPI 読み戻しモードは書き込みモードよりも低速です。プログラミング インターフェイス ピンは次のとおりです。

- I²C：SCL、SDA、A0
- SPI：SCLK、SDI、$\overline{\text{SYNC}}$、SDO/GPIO

GPIO/SDO は、SDO 以外の複数の機能として構成できます。これらは $\overline{\text{LDAC}}$、$\overline{\text{PD}}$、$\overline{\text{STATUS}}$、$\overline{\text{PROTECT}}$、$\overline{\text{FAULT-DUMP}}$、$\overline{\text{RESET}}$ です。出力として使用する場合、すべてのデジタル ピンはオープン ドレインです。したがって、すべての出力ピンは、外部抵抗を使用して目的の I/O 電圧にプルアップする必要があります。

6.3.3 不揮発性メモリ (NVM)

AFEx32A3W には NVM ビットが含まれています。これらのメモリ ビットはユーザーがプログラムおよび消去することができ、電源がない場合でも設定値が保持されます。セクション 7 に強調表示されている灰色のセル内に示されているすべてのレジスタ ビットは、COMMON-TRIGGER レジスタで NVM-PROG = 1 を設定することによって NVM に保存できます。NVM-PROG は自動リセット ビットです。AFEx32A3W のすべてのレジスタのデフォルト値は、POR イベントが発行された直後に NVM から読み込まれます。

また、AFEx32A3W は、COMMON-TRIGGER レジスタに NVM-RELOAD ビットも実装しています。このビットを 1 に設定すると、デバイスは NVM リロード動作を開始します。完了後、デバイスは NVM-RELOAD ビットを 0 に自動的に設定します。NVM の書き込みまたはリロード動作中は、デバイスに対するすべての読み取り/書き込み動作がブロックされます。「*電気的特性：全般*」セクションに、NVM 書き込みサイクルのタイミング仕様を示します。プロセッサは、SPI または I²C インターフェイスでの読み取りまたは書き込み動作を再開する前に、指定された期間待機する必要があります。

6.4 デバイスの機能モード

6.4.1 電圧出力モード

それぞれの DAC チャネル 0 および DAC チャネル 1 の電圧出力モードを開始するには、COMMON-CONFIG レジスタの DAC-PDN-0 および DAC-PDN-1 フィールドのパワーアップ オプションを選択します。閉ループ アンプ出力の場合、チャネル 1 の VOUT1/AIN1 ピンと FB1 ピンを外部で短絡します。オープン FB1 ピンにより、チャネル 1 のアンプ出力が飽和します。必要な電圧出力を実現するには、適切なリファレンス オプションを選択し、必要な出力範囲のアンプ ゲインを選択して、チャネル 0 とチャネル 1 の DAC-0-DATA レジスタと DAC-1-DATA レジスタそれぞれに DAC コードをプログラムします。

6.4.1.1 基準電圧と DAC 伝達関数

図 6-1 に示されているように、AFEx32A3W では、使用可能な 2 つの電圧リファレンス オプション (内部リファレンスと電源) があります。電圧出力モードとコンパレータ モードの DAC 伝達関数は、電圧リファレンスの選択に基づいて異なります。

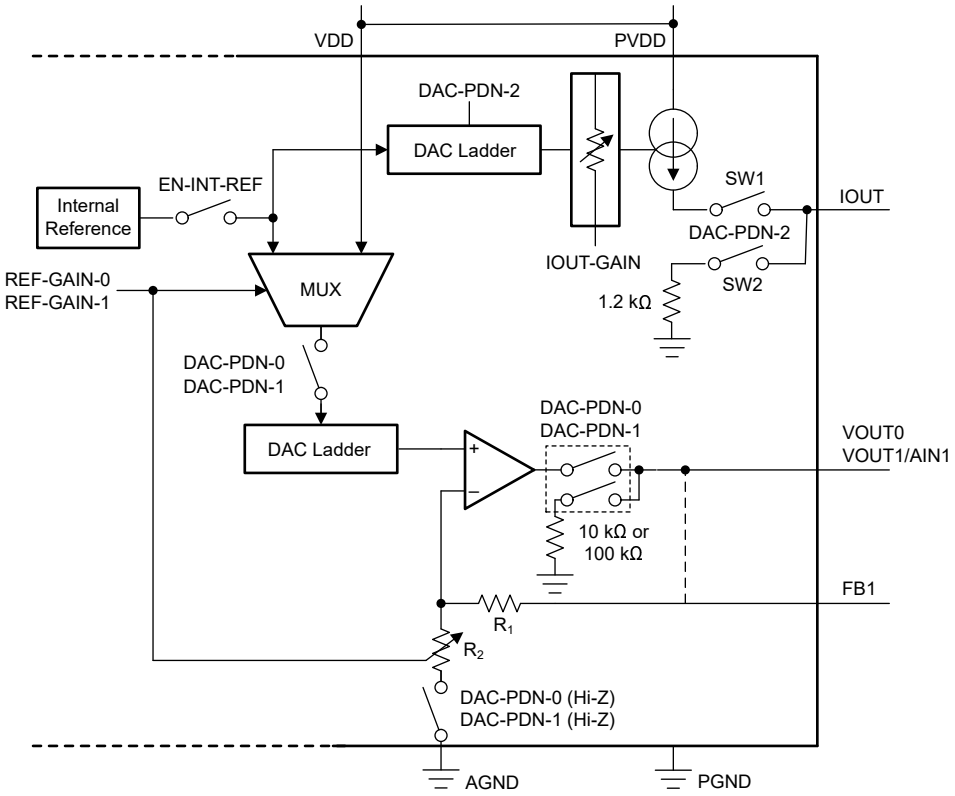


図 6-1. 電圧リファレンスの選択とパワーダウン ロジック

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.4.1.1.1 内部リファレンス

AFEx32A3W には内部リファレンスが搭載されていますが、これはデフォルトで無効になっています。内部リファレンスを有効にするには、COMMON-CONFIG レジスタのビット EN-INT-REF に 1 を書き込みます。内部リファレンスは、固定 1.21V 電圧 (標準値) を生成します。チャネル 0 では、DAC-0-GAIN-CONFIG レジスタの REF-GAIN-0 ビットを使用して、DAC 出力電圧 (V_{OUT}) で 1.5×、2×、3×、4×のゲインを実現します。チャネル 1 でも同様に、DAC-1-GAIN-CMP-CONFIG レジスタの REF-GAIN-1 ビットを使用します。式 1 に、内部リファレンスを使用した DAC 伝達関数をボルト単位で示します。

$$V_{OUT} = \frac{DAC_DATA}{2^N} \times V_{REF} \times GAIN \quad (1)$$

ここで

- N は分解能 (ビット単位)、AFE532A3W の場合は 10、AFE432A3W の場合は 8 です。
- DAC_DATA は、DAC-x-DATA レジスタの DAC-x-DATA ビットにロードされるバイナリ コードに等価な 10 進数です。DAC_DATA 範囲は 0 ～ 2^N - 1 です。
- V_{REF} は内部リファレンス電圧 = 1.21V (標準値) です。
- REF-GAIN-x ビットに基づき、ゲイン = 1.5×、2×、3×、4×となります。

6.4.1.1.2 基準電圧としての電源

AFEx32A3W は、電源ピン (VDD) をリファレンス電圧として動作できます。式 2 に、電源ピンをリファレンスとして使用する場合の DAC 伝達関数をボルト単位で示します。出力段のゲインは常に 1 × です。

$$V_{OUT} = \frac{DAC_DATA}{2^N} \times V_{DD} \quad (2)$$

ここで

- N は分解能 (ビット単位)、AFE532A3W の場合は 10、AFE432A3W の場合は 8 です。
- DAC_DATA は、DAC-x-DATA レジスタの DAC-x-DATA ビットにロードされるバイナリ コードに等価な 10 進数です。
- DAC_DATA 範囲は 0 ～ 2^N - 1 です。
- V_{DD} は DAC のリファレンス電圧として使用されます。

6.4.2 電流出力モード

DAC チャネル 2 (IOUT) の電流出力を有効にするには、COMMON-CONFIG レジスタの DAC-PDN-2 ビットに 00b を書き込みます。DAC-2-GAIN-CONFIG レジスタの IOUT-GAIN ビットに書き込むことで、目的の電流出力範囲を選択します。式 3 に、出力電流の伝達関数を示します (単位:アンペア)。

$$I_{OUT} = \frac{DAC_DATA}{2^N} \times GAIN \times K \quad (3)$$

ここで

- N は分解能 (ビット単位)、AFE532A3W の場合は 10、AFE432A3W の場合は 8 です。
- DAC_DATA は、DAC-2-DATA レジスタで指定されているように、DAC-2-DATA ビットにロードされるバイナリ コードに等価な 10 進数です。
- GAIN は、DAC-2-GAIN-CONFIG レジスタで指定されているように、IOUT-GAIN 設定の値です。
- K は伝達関数定数で、0.5241 (標準値) です。

6.4.3 コンパレータ モード

DAC チャネル 1 は、電圧出力モードでプログラマブル コンパレータとして構成できます。チャネル 1 のコンパレータ モードに移行するには、DAC-1-GAIN-CMP-CONFIG レジスタの CMP-1-EN ビットに 1 を書き込みます。コンパレータ出力は、CMP-1-OD-EN ビットを使用してプッシュプルまたはオープン ドレインとして構成できます。出力ピンのコンパレータ出力を有効にするには、CMP-1-OUT-EN ビットに 1 を書き込みます。コンパレータ出力を反転するには、CMP-1-INV-EN ビットに 1 を書き込みます。FB1 ピンのインピーダンスは有限です。デフォルトでは、FB1 ピンはハイ インピーダンス モードになっています。FB1 ピンのハイ インピーダンスを無効にするには、CMP-1-HIZ-IN-DIS ビットに 1 を書き込みます。表 6-1 に、各種ビット設定に対するピンのコンパレータ出力を示します。コンパレータ出力は、CMP-STATUS レジスタの CMP-FLAG-1 ビットで示されます。

注

ハイ インピーダンス入力モードでは、コンパレータの入力範囲は次のように制限されます。

- ゲイン = 1 ×、1.5 ×、または 2 ×の場合：$V_{FB1} \leq (V_{REF} \times$ ゲイン$)/3$
- ゲイン = 3 ×、または 4 × の場合：$V_{FB1} \leq (V_{REF} \times$ ゲイン$)/6$

それより高い入力電圧はクリップされます。

表 6-1. コンパレータ出力構成

CMP-1-EN	CMP-1-OUT-EN	CMP-1-OD-EN	CMP-1-INV-EN	CMPX-OUT ピン
0	X	X	X	コンパレータ ディスエーブル
1	0	X	X	出力なし
1	1	0	0	プッシュ プル出力
1	1	0	1	プッシュプルと反転出力
1	1	1	0	オープン ドレイン出力
1	1	1	1	オープン ドレインと反転出力

図 6-2 に、DAC チャネル 1 をコンパレータとして構成した場合のインターフェイス回路を示します。図 6-3 に、プログラマブル コンパレータ動作を示します。表 6-2 に示されているように、コンパレータはそれぞれの DAC-1-CMP-MODE-CONFIG レジスタの CMP-1 MODE ビットを使用して、ヒステリシスなし、ヒステリシス付き、ウィンドウ コンパレータ モードに構成できます。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

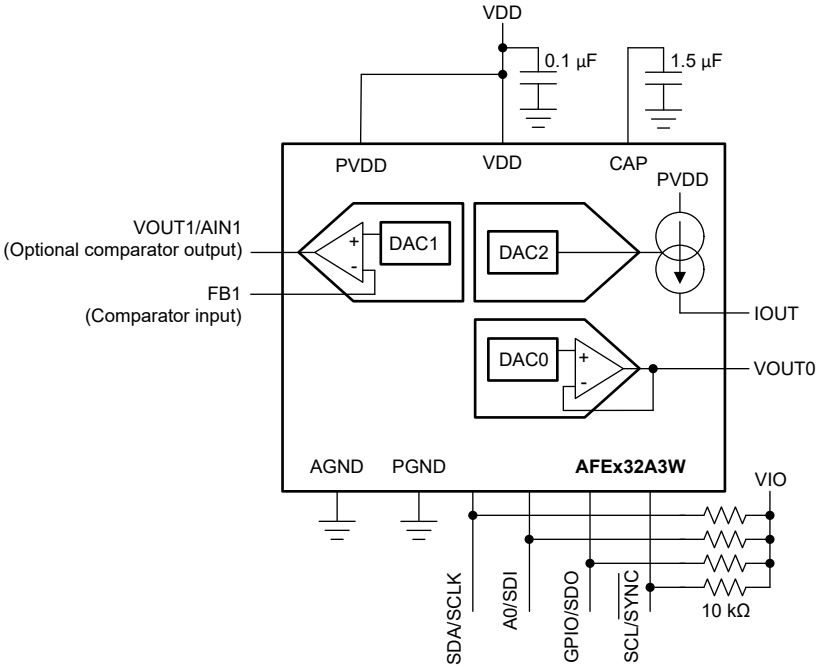


図 6-2. コンパレータ インターフェイス

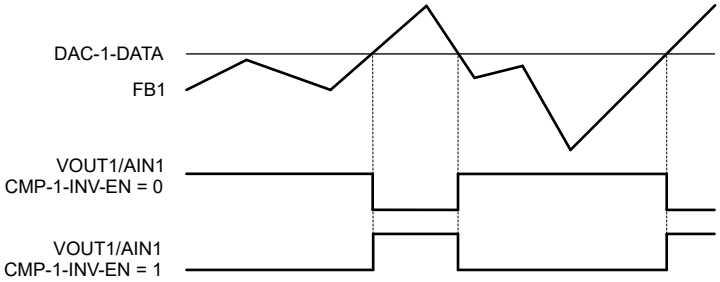


図 6-3. プログラマブル コンパレータ動作

表 6-2. コンパレータ モードの選択

CMP-1 モード ビット フィールド	コンパレータの構成
00	通常のコンパレータ モード。ヒステリシスまたはウィンドウ動作はありません。
01	ヒステリシス コンパレータ モード。DAC-1-MARGIN-HIGH および DAC-1-MARGIN-LOW レジスタは、ヒステリシスを設定します。
10	ウィンドウ コンパレータ モード。DAC-1-MARGIN-HIGH および DAC-1-MARGIN-LOW レジスタは、ウィンドウ境界を設定します。
11	無効な設定

6.4.3.1 プログラマブル ヒステリシス コンパレータ

表 6-2 に示されているように、CMP-1-MODE ビットが 01b に設定されている場合、コンパレータ モードがヒステリシスを提供します。図 6-4 では、DAC-1-MARGIN-HIGH と DAC-1-MARGIN-LOW レジスタによってヒステリシスが供給されています。

DAC-1-MARGIN-HIGH がフル コードに設定されるか、DAC-1-MARGIN-LOW がゼロ コードに設定されると、コンパレータはラッチ コンパレータとして動作し、スレッショルドを超えた後に出力がラッチされます。ラッチされた出力は、COMMON-DAC-TRIG レジスタの対応する RESET-CMP-FLAG-1 ビットに書き込むことでリセットできます。図 6-5 に、アクティブ Low 出力のラッチ コンパレータの動作を示します。図 6-6 に、アクティブ High 出力のラッチ コンパレータの動作を示します。

注

DAC-1-MARGIN-HIGH レジスタの値は、DAC-1-MARGIN-LOW レジスタの値よりも大きくする必要があります。ヒステリシス モードのコンパレータ出力は非反転型のみにできます。つまり、DAC-1-GAIN-CMP-CONFIG レジスタの CMP-1-INV-EN ビットを 0 に設定する必要があります。リセットをラッチ モードで有効にするには、入力電圧が DAC-1-MARGIN-HIGH と DAC-1-MARGIN-LOW の範囲内である必要があります。

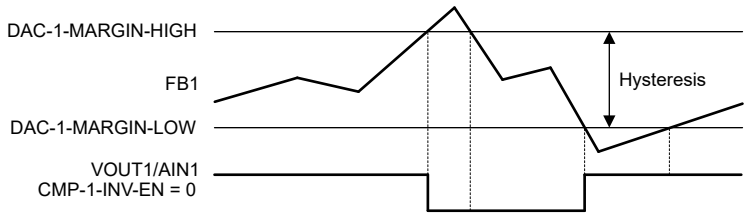


図 6-4. プログラマブル ヒステリシス (出力のラッチなし)

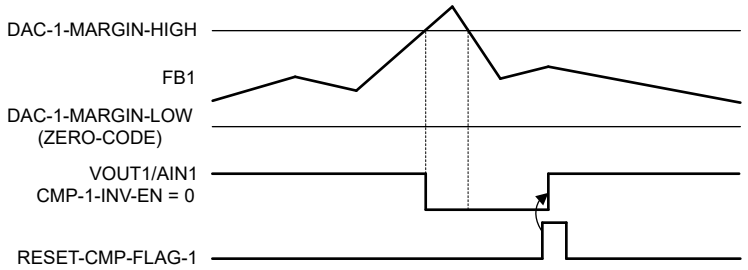


図 6-5. ラッチ コンパレータ (アクティブ Low 出力)

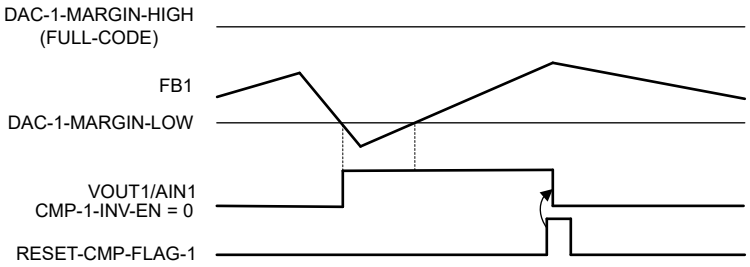


図 6-6. ラッチ コンパレータ (アクティブ High 出力)

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.4.3.2 プログラマブル ウィンドウ コンパレータ

チャネル 1 のウィンドウ コンパレータ モードは、CMP-1-MODE ビットを 10b に設定することで有効になります (表 6-2 も参照)。図 6-7 に示されているように、ウィンドウ境界は DAC-1-MARGIN-HIGH と DAC-1-MARGIN-LOW レジスタによって設定されます。ウィンドウ コンパレータの出力は、CMP-STATUS レジスタの WIN-CMP-1 ビットで示されます。コンパレータ出力 (WIN-CMP-1) は、COMMON-CONFIG レジスタの WIN-LATCH-EN ビットに 1 を書き込むことでラッチできます。ラッチされた後、コンパレータ出力は、COMMON-DAC-TRIG レジスタの対応する RESET-CMP-FLAG-1 ビットを使用してリセットできます。リセットを有効にするには、入力がウィンドウ範囲内にある必要があります。

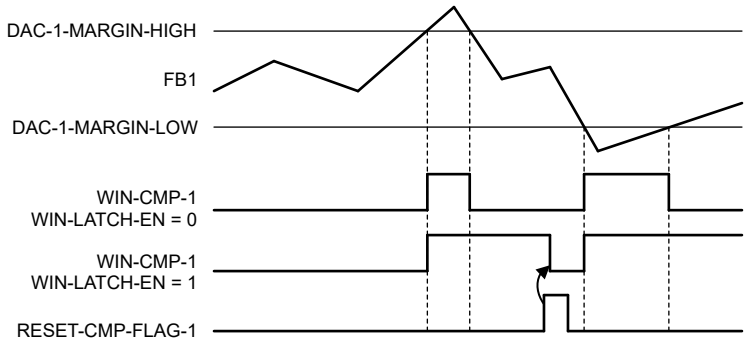


図 6-7. ウィンドウ コンパレータの動作

チャネルごとに 1 つのコンパレータを使用して、ウィンドウの「*margin-high*」と「*margin-low*」の両方をチェックします。そのため、ウィンドウ コンパレータ機能には有限の応答時間があります (「*電気的特性:コンパレータ モード*」セクションを参照)。WIN-CMP-1 ビットの静的動作は出力ピンに反映されません。CMP-1-OUT-EN ビットを 0 に設定します。WIN-CMP-1 ビットは、通信インターフェイスを使用してデジタル形式で読み取る必要があります。このビットは、GPIO/SDO ピンに割り当てることもできます (表 6-10 も参照)。

注

- DAC-1-MARGIN-HIGH レジスタの値は、DAC-1-MARGIN-LOW レジスタの値より大きくする必要があります。
- ウィンドウ コンパレータから最適な応答時間を得るには、DAC-1-FUNC-CONFIG レジスタの SLEW-RATE-1 ビットを 0000b (スルーなし)、LOG-SLEW-EN-1 ビットを 0b に設定します。
- DAC-1-GAIN-CMP-CONFIG レジスタの CMP-1-OUT-EN ビットを 0b に設定すると、VOUT1/AIN1 ピンの不要なトグルが排除されます。

6.4.4 A/D コンバータ (ADC) の特性

AFEx32A3W は、チャネル 1 の内蔵 ADC をサポートしています。プルアップ抵抗を使用して FB1 を VDD に接続します。チャネル 1 はコンパレータとして構成する必要があります。式 4 に、ADC の伝達関数を示します。

$$\text{ADC_DATA} = \left(\text{INTEGER}\right)\left(\frac{V_{IN}}{V_{FS}}\right) \times 2^{N} \tag{4}$$

ここで、

- ADC_DATA は ADC-DATA レジスタの出力です。
- V_{IN} は VOUT1/AIN1 ピンの入力電圧です。
- 表 6-3 に示されているように、V_{FS} はフルスケール入力電圧です。
- N は ADC のビット数 10 です。
- (INTEGER) は整数除算を表します。

表 6-3. フルスケール アナログ入力 (V_{FS})

リファレンス (VREF)	ゲイン	V_{FS}
電源	1 ×	VDD/3
内部	1.5 ×	(VREF × ゲイン) /3
	2 ×	(VREF × ゲイン) /3
	3 ×	(VREF × ゲイン) /6
	4 ×	(VREF × ゲイン) /6

チャネル 1 の ADC を構成し、データを読み取るには、次の手順に従います。

1. DAC-1-GAIN-CMP-CONFIG レジスタの REF-GAIN-1 ビットを使用してゲインを構成します。
2. DAC-1-GAIN-CMP-CONFIG レジスタの CMP-1-EN ビットに 1 を書き込むことで、DAC チャネル 1 をコンパレータとして構成します。
3. ADC (ADC-EN ビット) を有効にし、ADC-CONFIG-TRIG レジスタで平均化の数 (ADC-AVG) を選択します。
4. ADC-CONFIG-TRIG レジスタの TRIG-ADC ビットに 1 を書き込み、ADC 変換を開始します。
5. ADC-DATA レジスタを使用して ADC データを読み取ります。データは、ADC - DRDY ビットが 1 のとき有効です。ADC の読み戻しごとに、手順 4 と 5 を繰り返します。

図 6-8 に、チャネル 1 の ADC のインターフェイス例を示します。

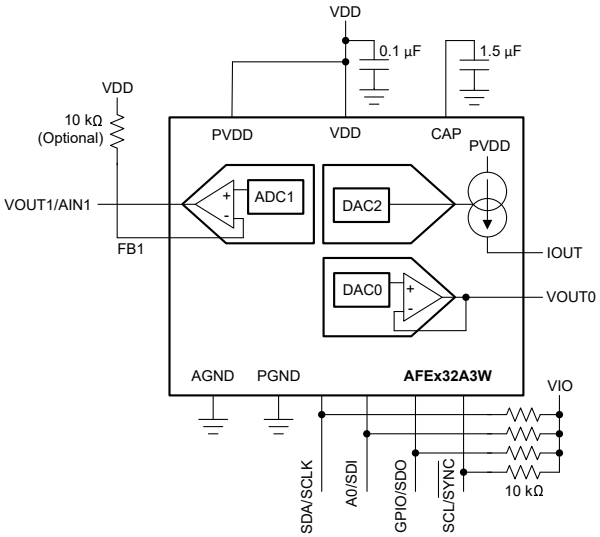


図 6-8. ADC インターフェイス

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.4.5 フォルトダンプ モード

AFEx32A3W には、フォルトダンプ ビットがトリガされたとき、またはフォルトダンプにマッピングされた GPIO がトリガされたときに、いくつかのレジスタを NVM に保存する機能があります (表 6-9 も参照)。この機能は、システムレベルの障害管理で、障害がトリガされる直前にデバイスまたはシステムの状態をキャプチャし、障害が発生した後で診断できるようにするのに役立ちます。フォルトダンプがトリガされたときに保存されるレジスタは次のとおりです。

- CMP-STATUS[7:0]
- DAC-0-DATA[15:8]
- DAC-1-DATA[15:8]
- DAC-2-DATA[15:8]
- ADC-DATA [15:0]

注

フォルトダンプ サイクルの進行中は、データに変更を加えると最終的な結果が破損する可能性があります。NVM 書き込みサイクル中は、コンパレータと DAC コードが安定していることを確認してください。

表 6-4 に、NVM のレジスタの保存形式を示します。

表 6-4. フォルトダンプの NVM 保存形式

NVM 行	B31-B24	B23-B16	B15-B8	B7-B0
Row1	CMP-STATUS[7:0]	ADC-DATA[15:0]		未使用
Row2	DAC-2-DATA[15:8]	未使用	DAC-0-DATA[15:8]	DAC-1-DATA[15:8]

フォルトダンプ後に NVM でキャプチャされたデータは、次の特定のシーケンスで読み取ることができます。

1. COMMON-CONFIG レジスタで EE-READ-ADDR ビットを 0b に設定して、NVM の row1 を選択します。
2. COMMON-TRIGGER レジスタの READ-ONE-TRIG に 1 を書き込んで、選択された NVM 行の読み出しをトリガします。このビットは自動リセットされます。このアクションにより、選択された NVM 行からのデータが SRAM アドレス 0x9D (NVM の LSB 16 ビット) および 0x9E (NVM の MSB 16 ビット) にコピーされます。
3. SRAM データを読み取るには、次の手順に従います。
   a. SRAM-CONFIG レジスタに 0x009D を書き込みます。
   b. SRAM-DATA レジスタからデータを読み取り、LSB 16 ビットを取得します。
   c. SRAM-CONFIG レジスタに 0x009E を書き込みます。
   d. SRAM-DATA レジスタからデータを再度読み取り、MSB ビットを取得します。
4. COMMON-CONFIG レジスタで EE-READ-ADDR ビットを 1b に設定し、NVM の row2 を選択します。手順 2 ～ 3 を繰り返します。

6.4.6 特定用途向けモード

このセクションでは、AFEx32A3W で利用できる特定用途向けの機能モードについて詳しく説明します。

6.4.6.1 電圧マージン設定とスケーリング

電圧マージン測定またはスケーリングは、AFEx32A3W の主なアプリケーションです。このセクションでは、ハイ インピーダンス出力、スルーレート制御、$\overline{\text{PROTECT}}$ 入力など、このアプリケーションで利用できる具体的な機能について説明します。

6.4.6.1.1 ハイ インピーダンス出力および $\overline{\text{PROTECT}}$ 入力

VDD がオフのとき、すべての DAC 出力チャネルはハイ インピーダンス状態のままとなります。図 6-9 に、電圧マージン測定アプリケーションで使用される AFEx32A3W の概略回路図を示します。ほとんどのリニア レギュレータおよび DC/DC コンバータの帰還電圧は ≤1.25V です。出力の低いリーク電流は ≤ 1.25V の V_{FB} で維持されます。したがって、実用的な目的のために、電圧マージン設定およびスケーリング アプリケーションで DAC の VDD がオフになっている場合、DAC 出力はハイ インピーダンスのように見えます。この機能により、DAC の電源シーケンスを追加しなくても、AFEx32A3W システムにシームレスに統合できます。

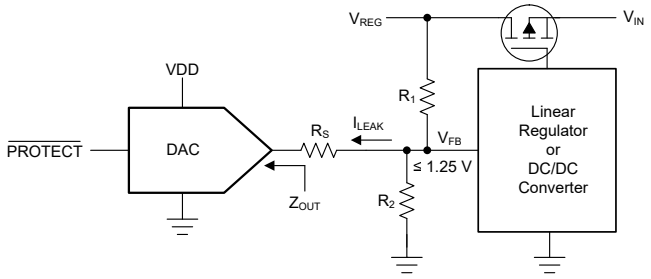


図 6-9. ハイ インピーダンス (Hi-Z) 出力および $\overline{\text{PROTECT}}$ 入力

DAC チャネルは、ブートアップ時にハイ インピーダンスへのパワーダウンを行います。出力は、DC/DC コンバータまたはリニア レギュレータの公称出力に対応するように事前にプログラムされたコードで起動できます。この機能により、DC/DC コンバータやリニア レギュレータの帰還ループに影響を及ぼすことなく、DAC のスムーズなパワーアップとパワーダウンが可能になります。

表 6-9 に、AFEx32A3W の GPIO/SDO ピンを $\overline{\text{PROTECT}}$ 機能として構成する方法を示します。$\overline{\text{PROTECT}}$ は、DAC 出力を予測可能な状態にし、スルーまたは直接遷移します。この機能は、フォルト状態 (電圧低下など)、サブシステム障害、ソフトウェア クラッシュに起因して、プロセッサの関与なしに DAC 出力が事前定義された状態に達する必要があるシステムで役立ちます。検出されたイベントは $\overline{\text{PROTECT}}$ 入力として構成されている GPIO/SDO ピンに供給できます。$\overline{\text{PROTECT}}$ 機能は、COMMON-TRIGGER レジスタの PROTECT ビットを使用してトリガすることもできます。表 6-5 に、DEVICE-MODE-CONFIG レジスタの PROTECT-CONFIG フィールドで $\overline{\text{PROTECT}}$ 機能の動作を構成する方法を示します。

注

- $\overline{\text{PROTECT}}$ 機能がトリガされた後、機能が完了するまで、通信インターフェイスで書き込み機能は無効になります。
- $\overline{\text{PROTECT}}$ 機能がトリガされると、CMP-STATUS レジスタの PROTECT-FLAG ビットは 1 に設定されます。このビットは、CMP-STATUS レジスタを読み出すことでポーリングできます。$\overline{\text{PROTECT}}$ 機能の完了後、CMP-STATUS レジスタの読み取りコマンドによって PROTECT-FLAG ビットがリセットされます。

表 6-5. $\overline{\text{PROTECT}}$ 機能の構成

PROTECT-CONFIG フィールド	機能
00	ハイ インピーダンス パワーダウン (スルーなし) に切り換えます。
01	NVM に保存された DAC コード (スルーなし) に切り換えてから、ハイ インピーダンス パワーダウンに切り換えます。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

表 6-5. $\overline{\text{PROTECT}}$ 機能の構成 (続き)

PROTECT-CONFIG フィールド	機能
10	margin-low コードまでスルーしてから、ハイ インピーダンス パワーダウンに切り換えます。
11	margin-high コードまでスルーしてから、ハイ インピーダンス パワーダウンに切り換えます。

6.4.6.1.2 プログラマブル スルーレート制御

DAC データ レジスタに書き込むと、DAC 出力の電圧 (V_{OUTX}) または電流 (I_{OUT}) は、「*電気的特性*」に規定されているスルーレートとセトリング タイムに従って新しいコードに直ちに遷移します。

スルーレート制御機能により、ユーザーは出力電圧 (V_{OUT}) が変化するレートを制御できます。この機能を有効にすると (SLEW-RATE-x[3:0] ビットを使用)、DAC 出力は、DAC-x-FUNC-CONFIG レジスタの CODE-STEP-x ビットと SLEW-RATE-x ビットで設定されたステップ サイズとステップあたりの時間間隔を使用して、現在のコードから DAC-x-MARGIN-HIGH または DAC-x-MARGIN-LOW レジスタのコードに変更されます (DAC に margin high または margin low コマンドが発行された場合)。

- SLEW-RATE-x は、デジタル スルーを更新するステップあたりの時間を定義します。
- CODE-STEP-x は、対応するチャネルについて、各更新時に出力値が変化する LSB の数を定義します。

表 6-6 および 表 6-7 に、CODE-STEP-x と SLEW-RATE-x で使用可能なさまざまな設定を示します。デフォルトのスルーレート制御設定をスルーなしで使用すると、出力は出力ドライブ回路と接続された負荷によって制限されるレートで直ちに変化します。

スルーレート制御機能を使用する場合、プログラムされたスルーレートで出力の変化が発生します。図 6-10 に示されているように、この構成では出力で階段が形成されます。出力スルー動作中は、CODE-STEP-x、SLEW-RATE-x、または DAC-x-DATA データに書き込まないでください。式 5 に、スルー時間 (t_{SLEW}) を計算する式を示します。

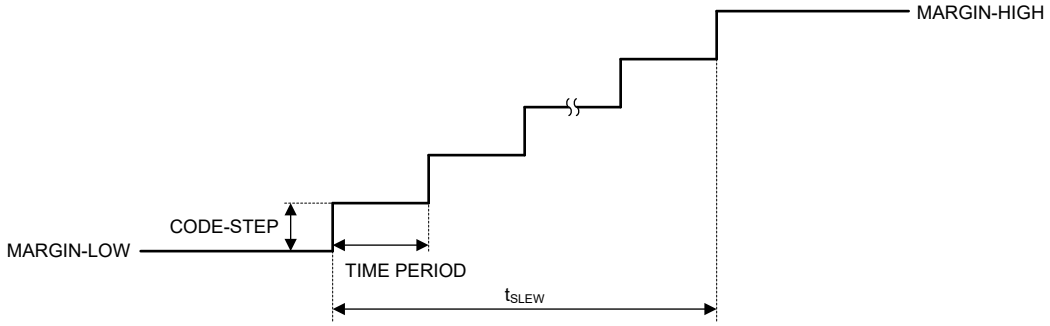


図 6-10. プログラマブル スルーレート制御

$$t_{SLEW} = SLEW_RATE \times CEILING\left(\frac{MARGIN_HIGH - MARGIN_LOW}{CODE_STEP} + 1\right) \quad (5)$$

ここで

- SLEW_RATE は、表 6-7 に規定されている SLEW-RATE-x 設定です。
- CODE_STEP は、表 6-6 に規定されている CODE-STEP-x 設定です。
- MARGIN_HIGH は、DAC-x-MARGIN-HIGH レジスタの DAC-x-MARGIN-HIGH ビットの 10 進値です。
- MARGIN_LOW は、DAC-x-MARGIN-LOW レジスタの DAC-x-MARGIN-LOW ビットの 10 進値です。

表 6-6. コード ステップ

レジスタ	CODE-STEP-x[2]	CODE-STEP-x[1]	CODE-STEP-x[0]	コード ステップ サイズ
DAC-x-FUNC-CONFIG	0	0	0	1 LSB (デフォルト)
	0	0	1	2 LSB
	0	1	0	3 LSB
	0	1	1	4 LSB
	1	0	0	6 LSB
	1	0	1	8 LSB
	1	1	0	16 LSB
	1	1	1	32 LSB

表 6-7. スルー レート

レジスタ	SLEW-RATE-x[3]	SLEW-RATE-x[2]	SLEW-RATE-x[1]	SLEW-RATE-x[0]	期間 (ステップごと)
DAC-x-FUNC-CONFIG	0	0	0	0	スルーなし (デフォルト)
	0	0	0	1	4µs
	0	0	1	0	8µs
	0	0	1	1	12µs
	0	1	0	0	18µs
	0	1	0	1	27µs
	0	1	1	0	40.5µs
	0	1	1	1	60.75µs
	1	0	0	0	91.13µs
	1	0	0	1	136.69µs
	1	0	1	0	239.2µs
	1	0	1	1	418.61µs
	1	1	0	0	732.56µs
	1	1	0	1	1281.98µs
	1	1	1	0	2563.96µs
	1	1	1	1	5127.92µs

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.4.6.2 機能の生成

AFEx32A3W は、連続機能または波形生成機能を実装しています。これらのデバイスは、すべてのチャネルに対して三角波、のこぎり波、正弦波を独立して生成できます。

6.4.6.2.1 三角波生成

図 6-11 に示されているように、三角波では、最小レベルと最大レベルについて、それぞれ DAC-x-MARGIN-LOW (FUNCTION-MIN) と DAC-x-MARGIN-HIGH (FUNCTION-MAX) レジスタを使用しています。波形の周波数は、最小レベルと最大レベル、CODE-STEP と SLEW-RATE の設定によって異なります (式 6 を参照)。時定数がスルーレート設定よりも大きい外部 RC 負荷は、内部周波数の計算で支配的になります。CODE-STEP-x と SLEW-RATE-x の設定は、DAC-x-FUNC-CONFIG レジスタで利用できます。DAC-x-FUNC-CONFIG レジスタの FUNC-CONFIG-x ビット フィールドに 0b000 を書き込んで、三角波を選択します。

$$f_{TRIANGLE} = \frac{1}{2 \times TIME_STEP \times CEILING\left(\frac{FUNCTION_MAX - FUNCTION_MIN}{CODE_STEP}\right)} \quad (6)$$

ここで、

- TIME_STEP は、表 6-7 で規定されている SLEW-RATE-x 設定です。
- CODE_STEP は、表 6-6 に規定されている CODE-STEP-x 設定です。
- FUNCTION_MAX は、DAC-x-MARGIN-HIGH レジスタの DAC-x-MARGIN-HIGH ビットの 10 進値です。
- FUNCTION_MIN は、DAC-x-MARGIN-LOW レジスタの DAC-x-MARGIN-LOW ビットの 10 進値です。

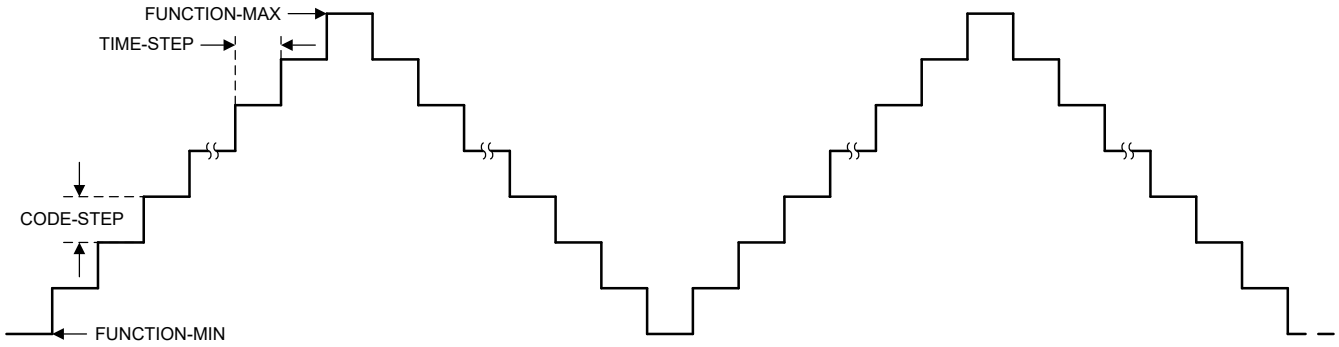


図 6-11. 三角波

6.4.6.2.2 のこぎり波生成

図 6-12 に示されているように、のこぎり波と逆のこぎり波では、最小レベルと最大レベルについて、それぞれ DAC-x-MARGIN-LOW (FUNCTION-MIN) と DAC-x-MARGIN-HIGH (FUNCTION-MAX) レジスタを使用しています。波形の周波数は、最小レベルと最大レベル、CODE-STEP と SLEW-RATE の設定によって異なります (式 7 を参照)。時定数がスルーレート設定よりも大きい外部 RC 負荷は、内部周波数の計算で支配的になります。CODE-STEP-x と SLEW-RATE-x の設定は、DAC-x-FUNC-CONFIG レジスタで利用できます。DAC-x-FUNC-CONFIG レジスタの FUNC-CONFIG-x ビット フィールドに 0b001 を書き込み、のこぎり波を選択し、0b010 を書き込み、逆のこぎり波を選択します。

$$f_{SAWTOOTH} = \frac{1}{TIME_STEP \times CEILING\left(\frac{FUNCTION_MAX - FUNCTION_MIN}{CODE_STEP} + 1\right)} \quad (7)$$

ここで、

- TIME_STEP は、表 6-7 で規定されている SLEW-RATE-x 設定です。
- CODE_STEP は、表 6-6 に規定されている CODE-STEP-x 設定です。
- FUNCTION_MAX は、DAC-x-MARGIN-HIGH レジスタの DAC-x-MARGIN-HIGH ビットの 10 進値です。
- FUNCTION_MIN は、DAC-x-MARGIN-LOW レジスタの DAC-x-MARGIN-LOW ビットの 10 進値です。

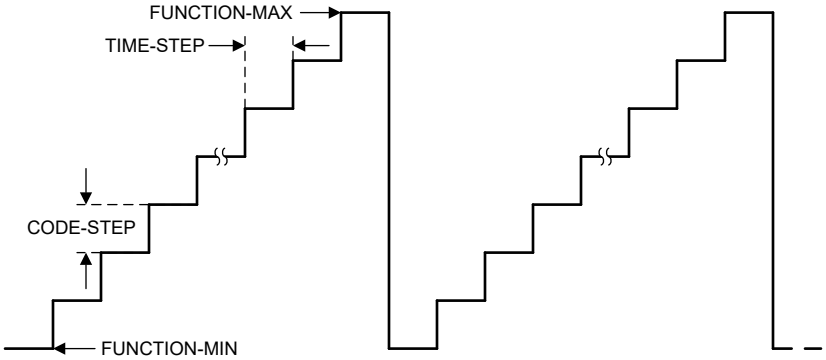


図 6-12. のこぎり波

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.4.6.2.3 正弦波形生成

正弦波機能では、サイクルごとに 24 のプログラムされたポイントを使用します。正弦波の周波数は、SLEW-RATE 設定で決まります (式 8 を参照)。

$$f_{SINE_WAVE} = \frac{1}{24 \times SLEW_RATE} \tag{8}$$

SLEW_RATE は、表 6-7 に規定されている SLEW-RATE-x 設定です。

時定数がスルーレート設定よりも大きい外部 RC 負荷は、内部周波数の計算で支配的になります。SLEW-RATE-x 設定は、DAC-x-FUNC-CONFIG レジスタで利用できます。DAC-x-FUNC-CONFIG レジスタの FUNC-CONFIG-x ビット フィールドに 0b100 を書き込んで、正弦波を選択します。正弦波のコードは固定されています。内部リファレンス電圧オプションでフルスケール出力を変更するには、出力アンプのゲイン設定を使用します。ゲイン設定には、それぞれ DAC-0-GAIN-CONFIG、DAC-1-GAIN-CMP-CONFIG、DAC-2-GAIN-CONFIG レジスタの DAC-GAIN-0、DAC-GAIN-1、IOUT-GAIN ビットからアクセスできます。表 6-8 に、12 ビット分解能の正弦波にハードコードされたディスクリート ポイントのリストを示します。図 6-13 に、正弦波の画像表現を示します。正弦波には、DAC-x-FUNC-CONFIG レジスタの PHASE-SEL-x ビットを使用して選択する 4 つの位相設定があります。

表 6-8. 正弦波データ ポイント

シーケンス	12-BIT の値		シーケンス	12-BIT の値
0 (0° 位相開始)	0x800		12	0x800
1	0x9A8		13	0x658
2	0xB33		14	0x4CD
3	0xC87		15	0x379
4	0xD8B		16 (240° 位相開始)	0x275
5	0xE2F		17	0x1D1
6 (90° 位相開始)	0xE66		18	0x19A
7	0xE2F		19	0x1D1
8 (120° 位相開始)	0xD8B		20	0x275
9	0xC87		21	0x379
10	0xB33		22	0x4CD
11	0x9A8		23	0x658

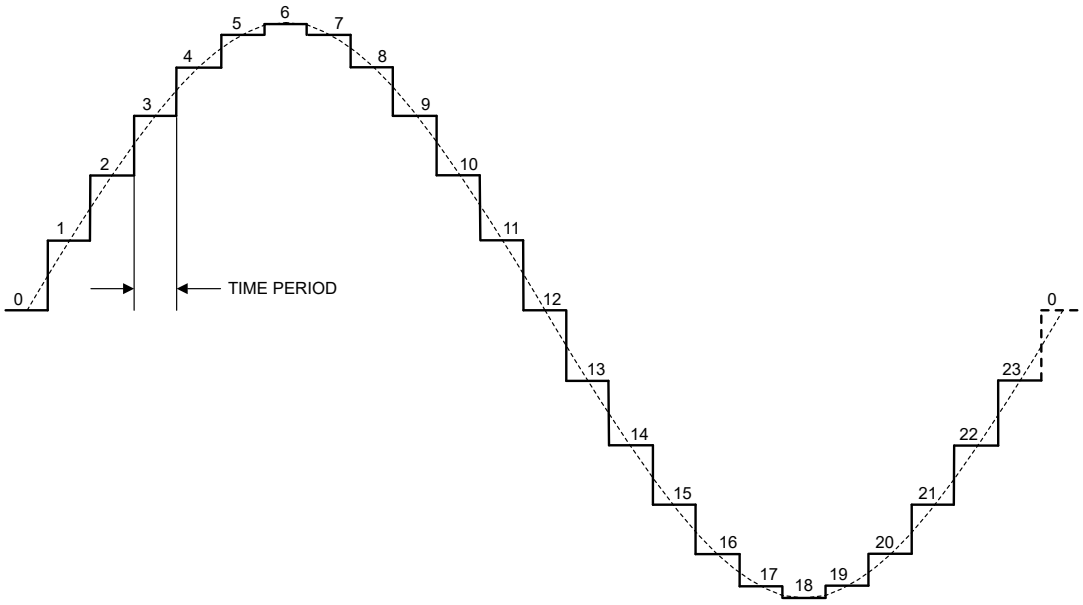


図 6-13. 正弦波生成

6.4.7 デバイスのリセットと障害管理

このセクションでは、AFEx32A3W のパワーオン リセット (POR)、ソフトウェア リセット、その他の診断、および障害管理機能について詳しく説明します。

6.4.7.1 パワーオン リセット (POR)

AFEx32A3W ファミリは、電源投入時に出力電圧を制御するパワーオン リセット (POR) 機能を備えています。V_{DD} 電源が立ち上がると、POR イベントが発行されます。POR によりすべてのレジスタがデフォルト値に初期化され、デバイスとの通信は POR (ブートアップ) 遅延後にのみ有効になります。AFEx32A3W のすべての構成レジスタのデフォルト値は、POR イベントが発行された後、NVM から読み込まれます。

デバイスに電源投入されると、POR 回路によってデバイスがデフォルトモードに設定されます。図 6-14 に示されているように、POR 回路では、電源投入時に内部コンデンサが放電されデバイスがリセットされるように、特定の V_{DD} レベルが必要です。POR が確実に発生するようにするには、V_{DD} が少なくとも 1ms 間 0.7V 未満になる必要があります。V_{DD} が 1.65V 未満に低下しても 0.7V を超えている場合 (未定義領域として表示)、指定されたすべての温度および電源条件下でデバイスがリセットされる場合とリセットされない場合があります。この場合は、POR を開始します。V_{DD} が 1.65V を超えると、POR は発生しません。

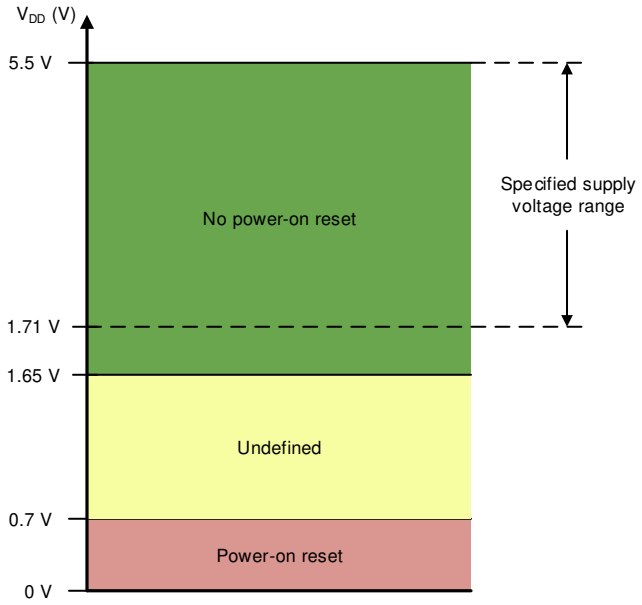


図 6-14. V_{DD} POR 回路のスレッショルド レベル

6.4.7.2 外部リセット

デバイスへの外部リセットは、GPIO/SDO ピンまたはレジスタ マップを介してトリガできます。デバイス ソフトウェア リセットイベントを開始するには、COMMON-TRIGGER レジスタの RESET フィールドに予約コード 1010b を書き込みます。ソフトウェア リセットにより、POR イベントが開始されます。表 6-9 に、GPIO/SDO ピンを $\overline{\text{RESET}}$ ピンとして構成する方法を示します。デバイスのリセット後に設定がクリアされないように、この構成を NVM にプログラムする必要があります。$\overline{\text{RESET}}$ 入力は Low パルスである必要があります。$\overline{\text{RESET}}$ 入力の立ち下がりエッジの後、デバイスはブートアップ シーケンスを開始します。$\overline{\text{RESET}}$ 入力の立ち上がりエッジは、何の影響も及ぼしません。

6.4.7.3 レジスタ マップ ロック

AFEx32A3W は、DAC レジスタへの偶発的な (意図しない) 書き込みを防止するレジスタ マップ ロック機能を実装しています。COMMON-CONFIG レジスタの DEV-LOCK ビットが 1 に設定されると、デバイスはすべてのレジスタをロックします。しかし、I^2C インターフェイスを使用している場合、COMMON-TRIGGER レジスタによるソフトウェア リセット機能はブ

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

ロックされません。DEV-LOCK 設定をバイパスするには、COMMON-TRIGGER レジスタの DEV-UNLOCK ビットに 0101b を書き込みます。

6.4.7.4 NVM 巡回冗長検査 (CRC)

AFEx32A3W には、NVM に保存されたデータが破損していないように、NVM に巡回冗長検査 (CRC) 機能が実装されています。AFEx32A3W には、次の 2 種類の CRC アラーム ビットが実装されています。

- NVM-CRC-FAIL-USER
- NVM-CRC-FAIL-INT

NVM-CRC-FAIL-USER ビットは、ユーザーがプログラム可能な NVM ビットのステータスを示し、NVM-CRC-FAIL-INT ビットは、内部 NVM ビットのステータスを示します。CRC 機能は、NVM プログラム動作 (書き込みまたはリロード) が実行されるたび、およびデバイスの起動中に、NVM データとともに 16 ビット CRC (CRC-16-CCITT) を保存することによって実装されます。デバイスは NVM データを読み取り、保存されている CRC を使用してデータを検証します。CRC アラーム ビット (GENERAL-STATUS スレジスタの NVM-CRC-FAIL-USER と NVM-CRC-FAIL-INT) は、デバイスの NVM からデータが読み取られた後、エラーを報告します。アラーム ビットはブートアップ時にのみ設定されます。

6.4.7.4.1 NVM-CRC-FAIL-USER ビット

NVM-CRC-FAIL-USER ビットのロジック 1 は、ユーザーがプログラム可能な NVM データが破損していることを示しています。この条件の間、DAC 内のすべてのレジスタが工場出荷時リセットの値で初期化され、任意の DAC レジスタへの書き込みまたは読み出しが可能になります。アラーム ビットを 0 にリセットするには、ソフトウェア リセット (*セクション 6.4.7.2* も参照) コマンドを発行するか、DAC の電源を入れ直します。ソフトウェア リセット時やパワー サイクル時も、ユーザーがプログラム可能な NVM ビットがリロードされます。問題が解決しない場合は、NVM を再プログラムします。

6.4.7.4.2 NVM-CRC-FAIL-INT ビット

NVM-CRC-FAIL-INT ビットのロジック 1 は、内部 NVM データが破損していることを示しています。この条件の間、DAC 内のすべてのレジスタが工場出荷時リセットの値で初期化され、任意の DAC レジスタへの書き込みまたは読み出しが可能になります。一時的な障害が発生した場合、アラーム ビットを 0 にリセットするには、ソフトウェア リセット (*セクション 6.4.7.2* も参照) コマンドを発行するか、DAC の電源を入れ直します。NVM に永続的な障害が発生すると、デバイスは使用できなくなります。

6.4.8 汎用入出力 (GPIO) モード

I^2C と SPI と共に、AFEx32A3W は GPIO もサポートしており、NVM で複数の機能を構成できます。このピンにより、プログラミング インターフェイスを使用せずに DAC 出力チャネルを更新し、ステータス ビットを読み取ることができるため、「*プロセッサなし*」での動作が可能になります。GPIO-CONFIG レジスタで、GPI-EN ビットに 1 を書き込んで GPIO/SDO ピンを入力として設定するか、GPO-EN ビットに 1 を書き込んでピンを出力として設定します。GPIO/SDO ピンには、グローバルおよびチャネル固有の機能が割り当てられています。チャネル固有の機能については、GPIO-CONFIG レジスタの GPI-CH-SEL フィールドを使用してチャネルを選択します。表 6-9 に、入力として GPIO で利用可能な機能オプションを示します。表 6-10 に、出力としての GPIO のオプションを示します。GP 入力動作の一部は、デバイスがブートアップした後にエッジ トリガされます。電源投入後、デバイスは GPI レベルを登録し、関連するコマンドを実行します。この機能により、電源オンでの初期出力状態を構成できます。デフォルトでは、GPIO/SDO ピンはどの動作にもマッピングされていません。GPIO/SDO ピンが特定の入力機能にマッピングされると、競合状態を回避するために、対応するソフトウェア ビット機能が無効になります。$\overline{\text{RESET}}$ 入力として使用する場合、GPIO/SDO ピンは、デバイス リセットをトリガするためにアクティブ Low パルスを送信する必要があります。機能の他すべての制約は、GPIO ベースのトリガに適用されます。

注

未使用時は、GPIO/SDO ピンを High または Low にプルします。GPIO/SDO ピンを $\overline{\text{RESET}}$ として使用する場合、その構成を NVM にプログラムする必要があります。それ以外の場合は、デバイスのリセット後に設定はクリアされます。

表 6-9. 汎用入力機能マップ

レジスタ	ビット フィールド	値	チャネル	GPIO エッジ/レベル	機能
GPIO-CONFIG	GPI-CONFIG	0010	すべて	立ち下がりエッジ	$\overline{\text{FAULT-DUMP}}$ をトリガ
				立ち上がりエッジ	影響なし
		0100	GPI-CH-SEL に従います	立ち下がりエッジ	チャネル パワーダウン。DAC-PDN-x 設定に基づくプルダウン抵抗
				立ち上がりエッジ	チャネルのパワーアップ
		0101	すべて	立ち下がりエッジ	$\overline{\text{PROTECT}}$ 機能をトリガ
				立ち上がりエッジ	影響なし
		0111	すべて	立ち下がりエッジ	$\overline{\text{CLR}}$ 機能をトリガ
				立ち上がりエッジ	影響なし
		1000	GPI-CH-SEL に従い、SYNC-CONFIG-x と GPI-CH-SEL の両方をすべてのチャネルに設定する必要があります。	立ち下がりエッジ	$\overline{\text{LDAC}}$ 機能をトリガ
				立ち上がりエッジ	影響なし
		1001	GPI-CH-SEL に従います	立ち下がりエッジ	機能生成を停止
				立ち上がりエッジ	機能生成を開始
		1010	GPI-CH-SEL に従います	立ち下がりエッジ	margin-low をトリガします
				立ち上がりエッジ	margin-high をトリガします
		1011	すべて	Low パルス	デバイス $\overline{\text{RESET}}$ をトリガします。$\overline{\text{RESET}}$ 構成は NVM にプログラムする必要があります。
				立ち上がりエッジ	影響なし
		1100	すべて	立ち下がりエッジ	NVM プログラミングを許可
				立ち上がりエッジ	NVM プログラミングをブロック
		1101	すべて	立ち下がりエッジ	レジスタ マップの更新を許可
				立ち上がりエッジ	レジスタ マップの書き込みをブロック (I^2C または SPI 経由の DEV-UNLOCK フィールドおよび I^2C 経由の RESET フィールドへの書き込みを除く)
		その他	該当なし	該当なし	該当なし

表 6-10. 汎用出力 ($\overline{\text{STATUS}}$) 機能マップ

レジスタ	ビット フィールド	値	機能
GPIO-CONFIG	GPO-CONFIG	0000	ADC-DRDY
		0001	NVM-BUSY
		0100	DAC-2-BUSY
		0110	DAC-0-BUSY
		0111	DAC-1-BUSY
		1011	WIN-CMP-1
		その他	該当なし

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.5 プログラミング

AFEx32A3W は、3 線式 SPI または 2 線式 I²C インターフェイスでプログラムされます。4 線式 SPI モードは、GPIO/SDO ピンを SDO にマッピングすることで有効化されます。SPI 読み戻しは、標準の SPI 書き込み動作よりも低い SCLK で動作します。インターフェイスのタイプは、デバイスの電源投入後に通信する最初のプロトコルに基づいて決定されます。インターフェイスのタイプが判別されると、デバイスはデバイスの電源が入っている間、タイプの変更を無視します。インターフェイスのタイプは、パワーサイクル後に変更できます。

6.5.1 SPI プログラミング モード

AFEx32A3W の SPI アクセス サイクルを開始するには、$\overline{\text{SYNC}}$ ピンを Low にアサートします。シリアル クロック SCLK は、連続クロックとしても、ゲート クロックとしても動作します。SDI データは、SCLK の立ち下がりエッジに同期します。AFEx32A3W の SPI フレームは 24 ビット長です。そのため、$\overline{\text{SYNC}}$ ピンは、少なくとも 24 の SCLK の立ち下がりエッジの間、Low に維持されます。$\overline{\text{SYNC}}$ ピンが High にデアサートされると、アクセス サイクルは終了します。アクセス サイクルに最小クロック エッジよりも短い場合、通信は無視されます。デフォルトでは、SDO 機能は有効になっていません (3 線式 SPI)。3 線式 SPI モードでは、アクセス サイクルで最小クロック エッジ数を超える場合、デバイスは最初の 24 ビットのみを使用します。$\overline{\text{SYNC}}$ が High のとき、SCLK および SDI 信号がブロックされ、SDO はハイ インピーダンスになり、バスに接続されている他のデバイスからのデータの読み戻しが可能になります。

表 6-11 および 図 6-15 に、24 ビット SPI アクセス サイクルの形式を示します。SDI への最初のバイト入力は命令サイクルです。命令サイクルは、要求を読み取りコマンドまたは書き込みコマンドとして識別し、アクセスする 7 ビット アドレスを特定します。サイクルの最後の 16 ビットは、データ サイクルを形成します。

表 6-11. SPI 読み取り/書き込みアクセス サイクル

ビット	フィールド	説明
23	R/$\overline{\text{W}}$	アドレス指定されたレジスタに対する読み取りまたは書き込みコマンドとして通信を識別します。R/$\overline{\text{W}}$ = 0 は書き込み動作を設定します。R/$\overline{\text{W}}$ = 1 は読み取り動作を設定します
22-16	A[6:0]	レジスタ アドレス:読み取りまたは書き込み操作中にアクセスするレジスタを指定します
15-0	DI[15:0]	データ サイクル ビット。書き込みコマンドの場合、データ サイクルのビットはアドレス A[6:0] のレジスタに書き込まれる値となります。読み取りコマンドの場合、データ サイクルのビットは「*無効*」値となります。

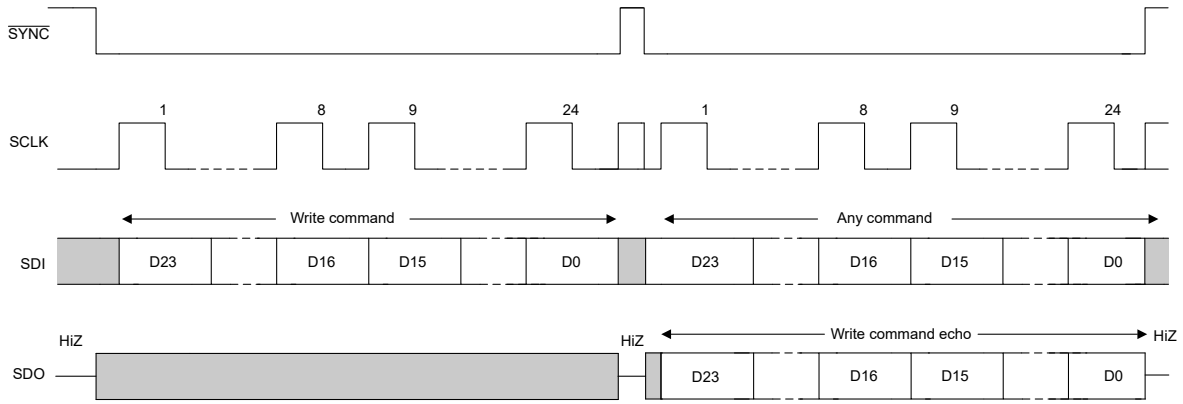


図 6-15. SPI 書き込みサイクル

読み取り操作を行うには、まず INTERFACE-CONFIG レジスタの SDO-EN ビットを設定して SDO 機能を有効にする必要があります。この構成を 4 線式 SPI と呼びます。読み取り操作は、読み取りコマンドのアクセス サイクルを発行することで開始されます。読み取りコマンドの後、要求されたデータを取得するために、2 回目のアクセス サイクルを発行する必要があります。表 6-12 および 図 6-16 に、出力データ フォーマットを示します。データは、FSDO ビットに応じて、SCLK の立ち下がりエッジまたは立ち上がりエッジで SDO ピンにクロックアウトされます (図 5-3 も参照してください)。

表 6-12. SDO 出力アクセスサイクル

ビット	フィールド	説明
23	R/$\overline{\text{W}}$	前回のアクセス サイクルのエコー R/$\overline{\text{W}}$

表 6-12. SDO 出力アクセスサイクル (続き)

ビット	フィールド	説明
22-16	A[6:0]	前回のアクセス サイクルのエコー レジスタ アドレス
15-0	DI[15:0]	前のアクセス サイクルで要求されたデータの読み戻し

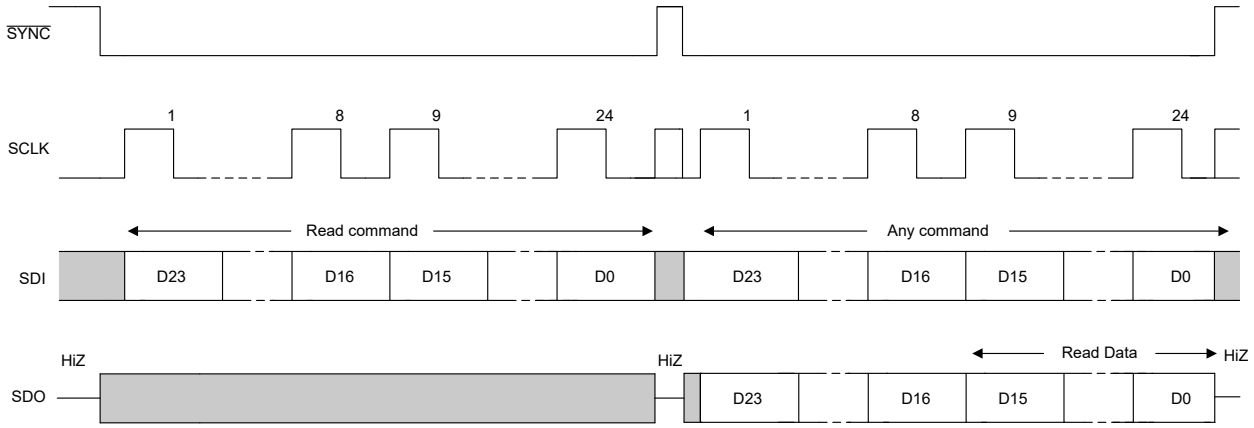


図 6-16. SPI 読み取りサイクル

デイジーチェーン動作は、SDO ピンでも有効です。図 6-17 に示されているように、デイジーチェーン モードでは、複数のデバイスが「チェーン」内に接続され、1 つのデバイスの SDO ピンが次のデバイスの SDI ピンに接続されます。SPI ホストは、チェーン内の最初のデバイスの SDI ピンを駆動します。チェーン内の最後のデバイスの SDO ピンは、SPI ホストの POCI ピンに接続されます。4 線式 SPI モードでは、アクセス サイクルに 24 のクロック エッジの倍数が含まれる場合、チェーン内のデバイス最初のデバイスで最後の 24 ビットのみが使用されます。アクセス サイクルに、24 の倍数でないクロック エッジが含まれている場合、SPI パケットはデバイスによって無視されます。図 6-18 に、デイジーチェーン書き込みサイクルのパケット形式を示します。

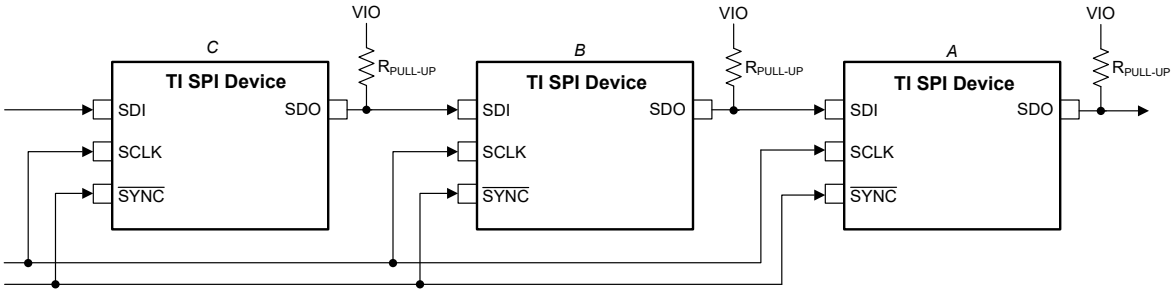


図 6-17. SPI デイジーチェーン接続

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

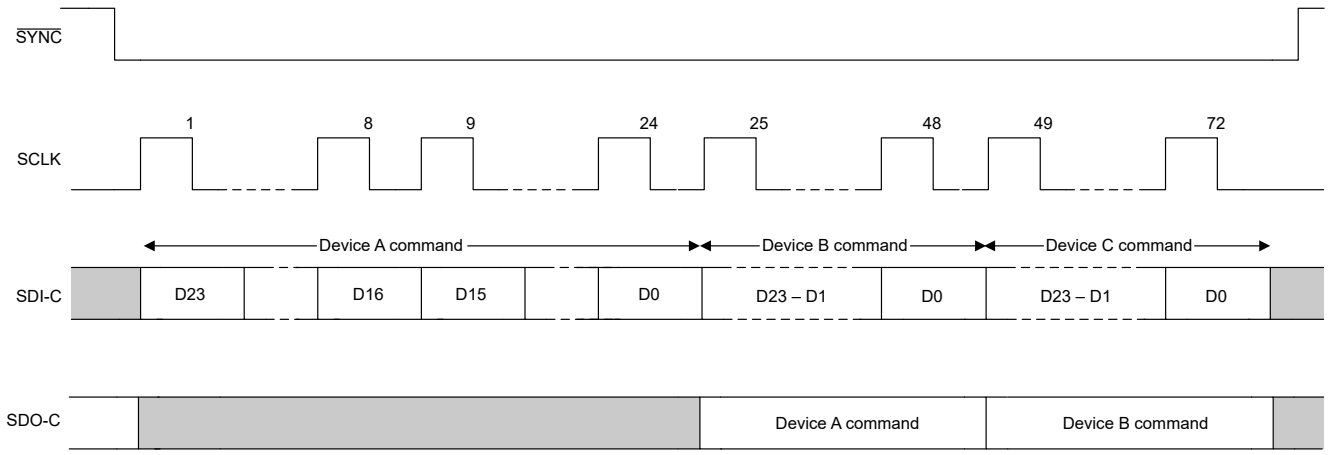


図 6-18. SPI デイジーチェーン書き込みサイクル

6.5.2 I²C プログラミング モード

AFEx32A3W デバイスには 2 線式シリアル インターフェイス (SCL および SDA) と 1 つのアドレス ピン (A0) があります。「*ピン構成および機能*」セクションのピン図も参照してください。I²C バスは、プルアップ構造を持つデータ ライン (SDA) とクロック ライン (SCL) で構成されます。バスがアイドルのときは、SDA ラインと SCL ラインの両方が High にプルされます。I²C 互換のデバイスはすべて、オープン ドレインの I/O ピンである SDA および SCL を介して I²C バスに接続します。

I²C 仕様では、通信を制御するデバイスを「*コントローラ*」、コントローラによって制御されるデバイスを「*ターゲット*」と呼んでいます。コントローラは SCL 信号を生成します。また、コントローラは、バス上に特別なタイミング条件 (スタート条件、繰り返しスタート条件、停止条件) を生成し、データ転送の開始または停止を示します。デバイス アドレッシングはコントローラが実行します。I²C バス上のコントローラは通常、マイコンまたはデジタル信号プロセッサ (DSP) です。AFEx32A3W ファミリは、I²C バス上でターゲットとして動作します。ターゲットは、コントローラのコマンドに対してアクノリッジ (受信確認) を返し、コントローラの制御時にデータを受信または送信します。

通常、AFEx32A3W ファミリはターゲット レシーバとして動作します。コントローラはターゲット レシーバである AFEx32A3W に書き込みます。しかし、コントローラが AFEx32A3W の内部レジスタ データを必要とする場合、AFEx32A3W はターゲット トランスミッタとして動作します。この場合、コントローラは AFEx32A3W から読み取りを行います。I²C の用語によっては、読み出しと書き込みとはコントローラを指しています。

AFEx32A3W ファミリは、以下のデータ転送モードをサポートしています。

- スタンダード モード (100Kbps)
- 高速モード (400Kbps)
- 高速モード プラス (1.0Mbps)

スタンダード モードと高速モードのデータ転送プロトコルは全く同じであるため、本文書ではこれらのモードを *F/S モード*と呼びます。高速モード プラス プロトコルは、データ転送速度の点でサポートされていますが、出力電流はサポートされていません。Low レベル出力電流は 3mA で、スタンダード モードおよび高速モードの場合と同様です。AFEx32A3W ファミリは 7 ビット アドレッシングをサポートしています。10 ビット アドレッシング モードはサポートしていません。また、ジェネラル コール リセット機能をサポートしています。次のシーケンスを送信すると、デバイス内でソフトウェア リセットが起動します。スタートまたは繰り返しスタート、0x00、0x06、停止。リセットは、2 番目のバイトに続く ACK ビットの立ち上がりエッジでデバイス内でアサートされます。

指定のタイミング信号を除いて、I²C インターフェイスではシリアル バイトを扱います。各バイトの最後に、9 回目のクロック サイクルで確認応答信号が生成および検出されます。アクノリッジは、9 回目のクロック サイクルの High 期間中 SDA ラインを Low にすることで行われます。図 6-19 に示されているように、アクノリッジなしは、9 回目のクロック サイクルの High 期間中 SDA ラインを High のまま保持することで行われます。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

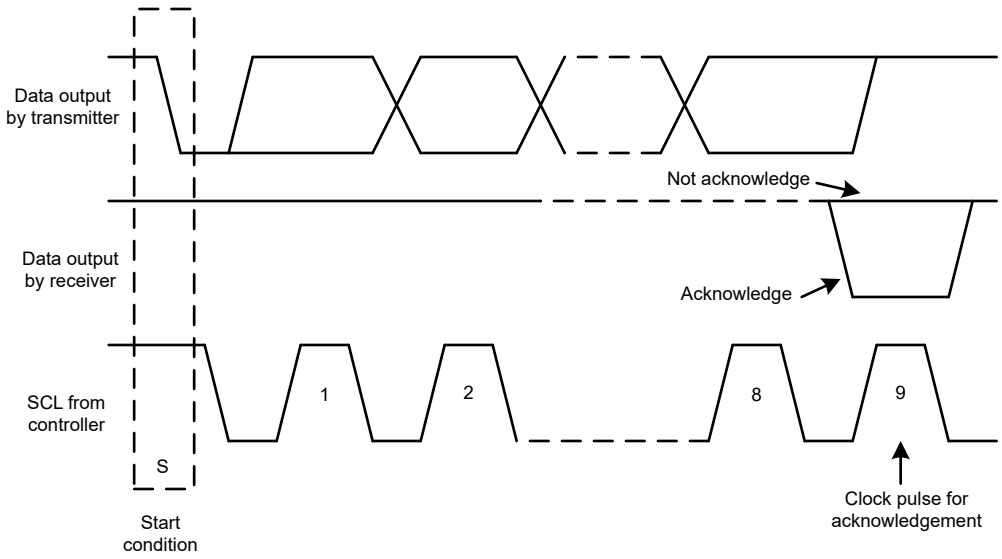


図 6-19. I²C バスにおけるアクノリッジとアクノリッジなし

6.5.2.1 F/S モードのプロトコル

次の手順では、F/S モードでのトランザクションの完了について説明します。

1. コントローラは、スタート条件を生成することで、データ転送を開始します。図 6-20 に示されているように、SCL が High の状態で SDA ラインに High から Low への遷移が発生すると、スタート条件となります。すべての I²C 互換デバイスは、スタート条件を認識します。
2. 次に、コントローラは SCL パルスを生成し、7 ビットのアドレスと読み取り/書き込み方向ビット (R/$\overline{W}$) を SDA ライン上で送信します。すべての送信中、コントローラはデータが有効であることを確認します。図 6-21 に示されているように、有効なデータ条件では、クロック パルスの High 期間全体にわたって SDA ラインが安定している必要があります。すべてのデバイスは、コントローラによって送信されたアドレスを認識して、そのアドレスをそれぞれの内部固定アドレスと比較します。一致するアドレスを持つターゲット デバイスだけが、9 番目の SCL サイクルの High 期間全体にわたって SDA ラインを Low にすることで、アクノリッジ (受信確認) を生成します (図 6-19 も参照)。コントローラがこのアクノリッジを検出すると、ターゲットとの通信リンクが確立されます。
3. コントローラはさらに SCL サイクルを生成して、ターゲットにデータを送信 (R/$\overline{W}$ ビット 0) または受信 (R/$\overline{W}$ ビット 1) します。どちらの場合も、トランスミッタから送信されたデータに対してレシーバがアクノリッジを返す必要があります。したがって、アクノリッジ信号は、どちらがレシーバかに応じて、コントローラが生成する場合とターゲットが生成する場合があります。9 ビットの有効なデータ シーケンスは、8 つのデータ ビットと 1 つのアクノリッジ ビットで構成され、必要なだけ継続できます。
4. データ転送の終了を通知するために、コントローラは SCL ラインが High の状態で SDA ラインを Low から High に引き上げることでストップ条件を生成します。図 6-20 を参照してください。このアクションによってバスが解放され、アドレス指定されたターゲットとの通信リンクが停止します。すべての I²C 互換デバイスが、ストップ条件を認識します。ストップ条件の受信によって、バスは解放され、すべてのターゲット デバイスはスタート条件および一致するアドレスが送信されるのを待ちます。

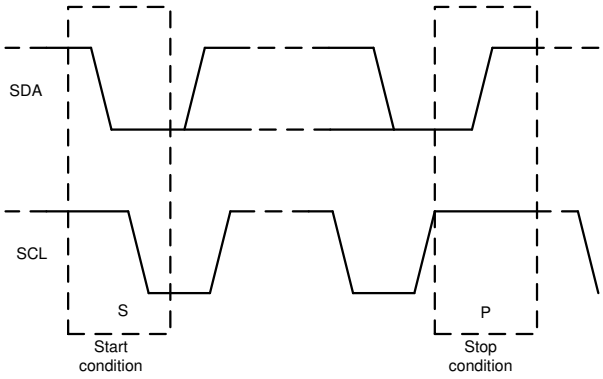


図 6-20. START 条件と STOP 条件

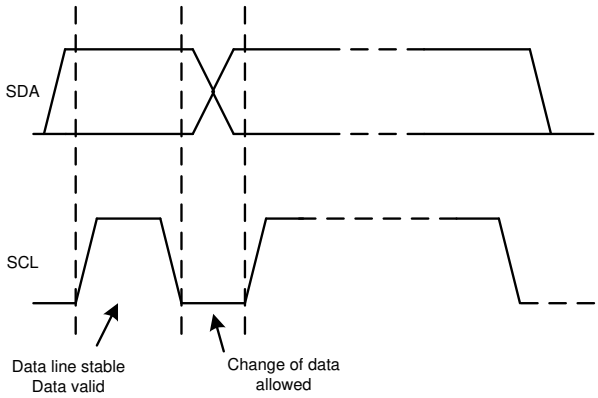


図 6-21. I²C バスでのビット転送

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.5.2.2 I²C 更新シーケンス

表 6-13 は、1 回の更新の場合、AFEx32A3W ではスタート条件、有効な I²C アドレス バイト、コマンド バイト、2 つのデータ バイトが必要であることを示しています。

表 6-13. シーケンスの更新

MSB	...	LSB	ACK	MSB	...	LSB	ACK	MSB	...	LSB	ACK	MSB	...	LSB	ACK
アドレス (A) バイト セクション 6.5.2.2.1				コマンド バイト セクション 6.5.2.2.2				データ バイト - MSDB				データ バイト - LSDB			
DB [31:24]				DB [23:16]				DB [15:8]				DB [7:0]			

図 6-22 に示されているように、各バイトの受信後、AFEx32A3W ファミリは 1 つのクロック パルスの High 期間中に SDA ラインを Low にすることで、アクノリッジ (受信確認) を行います。この 4 つのバイトと確認応答サイクルにより、1 回の更新を実行するために必要な 36 のクロック サイクルが生成されます。有効な I²C アドレス バイトによって、AFEx32A3W が選択されます。

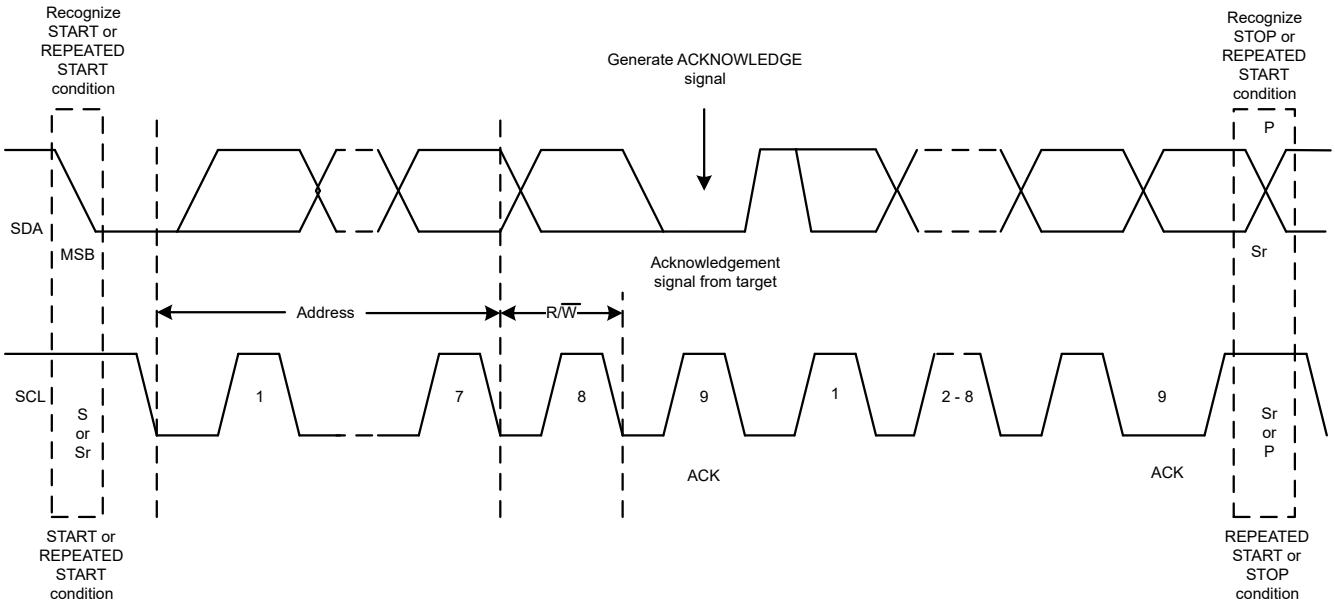


図 6-22. I²C バス プロトコル

コマンド バイトは、選択された AFEx32A3W デバイスの動作モードを設定します。このバイトによって動作モードが選択されると、データ更新を実行するために、AFEx32A3W デバイスは最上位データ バイト (MSDB) と最下位データ バイト (LSDB) の 2 つのデータ バイトを受信する必要があります。AFEx32A3W デバイスは、LSDB に続くアクノリッジ信号の立ち下がりエッジで更新を実行します。

高速モード (クロック = 400kHz) を使用する場合、最大 DAC 更新レートは 10kSPS に制限されます。高速モード プラス (クロック = 1MHz) を使用すると、最大 DAC 更新レートは 25kSPS に制限されます。ストップ条件を受信すると、AFEx32A3W デバイスは I²C バスを解放し、新しいスタート条件を待ちます。

6.5.2.2.1 アドレス バイト

表 6-14 に、スタート条件に続いてコントローラ デバイスから受信した最初のバイトであるアドレス バイトを示します。アドレスの最初の 4 ビット (MSB) は工場出荷時に 1001b にプリセットされています。アドレスの次の 3 ビットは、A0 ピンによって制御されます。A0 ピン入力は、VDD、AGND、SCL、SDA に接続できます。各データ フレームの最初のバイトにおいて A0 ピンがサンプリングされて、アドレスが決定します。デバイスはアドレス ピンの値をラッチし、その結果として、表 6-15 に従ってその特定のアドレスに応答します。

表 6-14. アドレス バイト

備考	MSB							LSB
—	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2	AD1	AD0	R/$\overline{W}$
ジェネラル アドレス	1	0	0	1	表 6-15 を参照 (ターゲット アドレス列)			0 または 1
ブロードキャスト アドレス	1	0	0	0	1	1	1	0

表 6-15. アドレス形式

ターゲット アドレス	A0 ピン
000	AGND
001	VDD
010	SDA
011	SCL

AFEx32A3W は、複数の AFEx32A3W デバイスの同期更新やパワーダウンに使用できるブロードキャスト アドレス指定をサポートしています。ブロードキャスト アドレスを使用すると、アドレス ピンの状態に関係なく、AFEx32A3W は応答します。ブロードキャストは、書き込みモードでのみサポートされます。

6.5.2.2.2 コマンド バイト

「*レジスタ マップ*」セクションの「*レジスタ名*」表に、ADDRESS 列のコマンド バイトが一覧されています。

6.5.2.3 I²C 読み出しシーケンス

レジスタを読み取るには、次のコマンド シーケンスを使用する必要があります。

1. スタートまたは繰り返しスタート コマンドとターゲット アドレスおよび書き込みを 0 に設定した R/$\overline{W}$ ビットを送信します。デバイスは、このイベントをアクノリッジします。
2. 読み取り対象レジスタのコマンド バイトを送信します。デバイスは、このイベントを再度アクノリッジします。
3. 繰り返しスタートとターゲット アドレス、読み取りを 1 に設定した R/$\overline{W}$ ビットを送信します。デバイスは、このイベントをアクノリッジします。
4. デバイスは、アドレス指定されたレジスタの MSDB バイトを書き込みます。コントローラはこのバイトをアクノリッジする必要があります。
5. 最後にデバイスは、レジスタの LSDB を書き込みます。

ブロードキャスト アドレスを読み取りに使用することはできません。

表 6-16. 読み出しシーケンス

S	MSB	…	R/$\overline{W}$ (0)	ACK	MSB	…	LSB	ACK	Sr	MSB	…	R/$\overline{W}$ (1)	ACK	MSB	…	LSB	ACK	MSB	…	LSB	ACK
	アドレス バイト セクション 6.5.2.2.1				コマンド バイト セクション 6.5.2.2.2				Sr	アドレス バイト セクション 6.5.2.2.1				MSDB				LSDB			
コントローラから				ターゲット	コントローラから			ターゲット	コントローラから				ターゲット	ターゲットから			コントローラ	ターゲットから			コントローラ

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

7 レジスタ マップ

表 7-1. レジスタ マップ : チャネル固有のレジスタ

レジスタ(1) (2)	最上位データ バイト (MSDB)								最下位データ バイト (LSDB)							
	BIT15	BIT14	BIT13	BIT12	BIT11	BIT10	BIT9	BIT8	BIT7	BIT6	BIT5	BIT4	BIT3	BIT2	BIT1	BIT0
NOP	NOP															
DAC-0-MARGIN-HIGH	DAC-0-MARGIN-HIGH												X			
DAC-1-MARGIN-HIGH	DAC-1-MARGIN-HIGH												X			
DAC-2-MARGIN-HIGH	DAC-2-MARGIN-HIGH												X			
DAC-0-MARGIN-LOW	DAC-0-MARGIN-LOW												X			
DAC-1-MARGIN-LOW	DAC-1-MARGIN-LOW												X			
DAC-2-MARGIN-LOW	DAC-2-MARGIN-LOW												X			
DAC-0-GAIN-CONFIG	X			REF-GAIN			X									
DAC-1-GAIN-CMP-CONFIG	X			REF-GAIN			X					CMP-1-OD-EN	CMP-1-OUT-EN	CMP-1-HIZ-IN-DIS	CMP-1-INV-EN	CMP-1-EN
DAC-2-GAIN-CONFIG	X			IOUT-GAIN			X									
DAC-1-CMP-MODE-CONFIG	X				CMP-1-MODE		X									
DAC-0-FUNC-CONFIG	CLR-SEL-0	SYNC-CONFIG-0	BRD-CONFIG-0	FUNC-GEN-CONFIG-BLOCK-0												
DAC-1-FUNC-CONFIG	CLR-SEL-1	SYNC-CONFIG-1	BRD-CONFIG-1	FUNC-GEN-CONFIG-BLOCK-1												
DAC-2-FUNC-CONFIG	CLR-SEL-2	SYNC-CONFIG-2	BRD-CONFIG-2	FUNC-GEN-CONFIG-BLOCK-1												
DAC-0-DATA	DAC-0-DATA												X			
DAC-1-DATA	DAC-1-DATA												X			
DAC-2-DATA	DAC-2-DATA												X			
ADC-CONFIG-TRIG	予約済み		ADC-EN	ADC-AVG		予約済み										TRIG-ADC
ADC-DATA	ADC-DATA												X			ADC-DRDY

表 7-2. レジスタ マップ：共通レジスタ

レジスタ(1) (2)	最上位データ バイト (MSDB)								最下位データ バイト (LSDB)							
	BIT15	BIT14	BIT13	BIT12	BIT11	BIT10	BIT9	BIT8	BIT7	BIT6	BIT5	BIT4	BIT3	BIT2	BIT1	BIT0
COMMON-CONFIG	WIN-LATCH-EN	DEV-LOCK	EE-READ-ADDR	EN-INT-REF	DAC-PDN-1		予約済み	DAC-PDN-0	予約済み					DAC-PDN-2		予約済み
COMMON-TRIGGER	DEV-UNLOCK				リセット				LDAC	CLR	X	FAULT-DUMP	PROTECT	READ-ONE-TRIG	NVM-PROG	NVM-RELOAD
COMMON-DAC-TRIG	X	TRIG-MAR-LO-2	TRIG-MAR-HI-2	START-FUNC-2	X					TRIG-MAR-LO-0	TRIG-MAR-HI-0	START-FUNC-0	RESET-CMP-FLAG-1	TRIG-MAR-LO-1	TRIG-MAR-HI-1	START-FUNC-1
GENERAL-STATUS	NVM-CRC-FAIL-INT	NVM-CRC-FAIL-USER	ADC-DRDY	DAC-BUSY-1	DAC-BUSY-0	X	DAC-BUSY-2	NVM-BUSY	DEVICE-ID						VERSION-ID	
CMP-STATUS	X							PROTECT-FLAG	WIN-CMP-1	X			CMP-FLAG-1	X		
GPIO-CONFIG	GF-EN	X	GPO-EN	GPO-CONFIG				GPI-CH-SEL				GPI-CONFIG				GPI-EN
DEVICE-MODE-CONFIG	予約済み						PROTECT-CONFIG		予約済み			X				
INTERFACE-CONFIG	X			TIMEOUT-EN	X			予約済み	X					FSDO-EN	X	SDO-EN
SRAM-CONFIG	X								SRAM-ADDR							
SRAM-DATA	SRAM-DATA															
BRDCAST-DATA	BRDCAST-DATA												X			

(1) 灰色で強調表示されているセルは、NVM に保存されているレジスタ ビットまたはフィールドを示しています。
(2) X = 未使用。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

表 7-3. レジスタ名

I²C/SPI アドレス	レジスタ名	セクション
00h	NOP	セクション 7.1
01h	DAC-2-MARGIN-HIGH	セクション 7.4
02h	DAC-2-MARGIN-LOW	セクション 7.7
03h	DAC-2-GAIN-CONFIG	セクション 7.10
06h	DAC-2-FUNC-CONFIG	セクション 7.14
0Dh	DAC-0-MARGIN-HIGH	セクション 7.2
0Eh	DAC-0-MARGIN-LOW	セクション 7.6
0Fh	DAC-0-GAIN-CONFIG	セクション 7.8
12h	DAC-0-FUNC-CONFIG	セクション 7.12
13h	DAC-1-MARGIN-HIGH	セクション 7.3
14h	DAC-1-MARGIN-LOW	セクション 7.6
15h	DAC-1-GAIN-CMP-CONFIG	セクション 7.9
17h	DAC-1-CMP-MODE-CONFIG	セクション 7.11
18h	DAC-1-FUNC-CONFIG	セクション 7.13
19h	DAC-2-DATA	セクション 7.17
1Bh	DAC-0-DATA	セクション 7.15
1Ch	DAC-1-DATA	セクション 7.16
1Dh	ADC-CONFIG-TRIG	セクション 7.18
1Eh	ADC-DATA	セクション 7.19
1Fh	COMMON-CONFIG	セクション 7.20
20h	COMMON-TRIGGER	セクション 7.21
21h	COMMON-DAC-TRIG	セクション 7.22
22h	GENERAL-STATUS	セクション 7.23
23h	CMP-STATUS	セクション 7.24
24h	GPIO-CONFIG	セクション 7.25
25h	DEVICE-MODE-CONFIG	セクション 7.26
26h	INTERFACE-CONFIG	セクション 7.27
2Bh	SRAM-CONFIG	セクション 7.28
2Ch	SRAM-DATA	セクション 7.29
50h	BRDCAST-DATA	セクション 7.30

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

表 7-4. アクセス タイプ コード

アクセス タイプ	コード	説明
X	X	未使用
読み取りタイプ		
R	R	読み出し
書き込みタイプ		
W	W	書き込み
リセットまたはデフォルト値		
-n		リセット後の値またはデフォルト値

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

7.1 NOP レジスタ (アドレス = 00h) [リセット = 0000h]

図 7-1. NOP レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
NOP															
R-0h															

表 7-5. NOP レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-0	NOP	R	0000h	無操作

7.2 DAC-0-MARGIN-HIGH レジスタ (アドレス = 0Dh) [リセット = 0000h]

図 7-2. DAC-0-MARGIN-HIGH レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
DAC-0-MARGIN-HIGH[9:0] DAC-0-MARGIN-HIGH[7:0]												X			
R/W-000h												X-0h			

表 7-6. DAC-0-MARGIN-HIGH レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-4	DAC-0-MARGIN-HIGH[9:0] DAC-0-MARGIN-HIGH[7:0]	R/W	000h	DAC チャネル 0 出力の margin-high コード。 データはストレート バイナリ形式です。MSB 左揃え。次のビット整列を使用します: AFE532A3W:{DAC-0-MARGIN-HIGH[9:0], X, X} AFE432A3W:{DAC-0-MARGIN-HIGH[7:0], X, X, X, X} X = ドントケア ビット。
3-0	X	X	0h	未使用

7.3 DAC-1-MARGIN-HIGH レジスタ (アドレス = 13h) [リセット = 0000h]

図 7-3. DAC-1-MARGIN-HIGH レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
DAC-1-MARGIN-HIGH[9:0] DAC-1-MARGIN-HIGH[7:0]												X			
R/W-000h												X-0h			

表 7-7. DAC-1-MARGIN-HIGH レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-4	DAC-1-MARGIN-HIGH[9:0] DAC-1-MARGIN-HIGH[7:0]	R/W	000h	DAC チャネル 1 出力の margin-high コード。 データはストレート バイナリ形式です。MSB 左揃え。次のビット整列を使用します: AFE532A3W:{DAC-1-MARGIN-HIGH[9:0], X, X} AFE432A3W:{DAC-1-MARGIN-HIGH[7:0], X, X, X, X} X = ドントケア ビット。
3-0	X	X	0h	未使用

7.4 DAC-2-MARGIN-HIGH レジスタ (アドレス = 01h) [リセット = 0000h]

図 7-4. DAC-2-MARGIN-HIGH レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
DAC-2-MARGIN-HIGH[9:0] DAC-2-MARGIN-HIGH[7:0]												X			
R/W-000h												X-0h			

表 7-8. DAC-2-MARGIN-HIGH レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-4	DAC-2-MARGIN-HIGH[9:0] DAC-2-MARGIN-HIGH[7:0]	R/W	000h	DAC チャネル 2 出力の margin-high コード。 データはストレート バイナリ形式です。MSB 左揃え。次のビット整列を使用します: AFE532A3W:{DAC-2-MARGIN-HIGH[9:0], X, X} AFE432A3W:{DAC-2-MARGIN-HIGH[7:0], X, X, X, X} X = ドントケア ビット。
3-0	X	X	0h	未使用

7.5 DAC-0-MARGIN-LOW レジスタ (アドレス = 0Eh) [リセット = 0000h]

図 7-5. DAC-0-MARGIN-LOW レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
DAC-0-MARGIN-LOW[9:0] DAC-0-MARGIN-LOW[7:0]												X			
R/W-000h												X-0h			

表 7-9. DAC-0-MARGIN-LOW レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-4	DAC-0-MARGIN-LOW[9:0] DAC-0-MARGIN-LOW[7:0]	R/W	000h	DAC チャネル出力の margin-low コード。 データはストレート バイナリ形式です。MSB 左揃え。次のビット整列を使用します。 {DAC-0-MARGIN-LOW[9:0], X, X} {DAC-0-MARGIN-LOW[7:0], X, X, X, X} X = ドントケア ビット。
3-0	X	X	0	未使用

7.6 DAC-1-MARGIN-LOW レジスタ (アドレス = 14h) [リセット = 0000h]

図 7-6. DAC-1-MARGIN-LOW レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
DAC-1-MARGIN-LOW[9:0] DAC-1-MARGIN-LOW[7:0]												X			
R/W-000h												X-0h			

表 7-10. DAC-1-MARGIN-LOW レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-4	DAC-0-MARGIN-LOW[9:0] DAC-0-MARGIN-LOW[7:0]	R/W	000h	DAC チャネル 1 出力の margin-low コード。 データはストレート バイナリ形式です。MSB 左揃え。次のビット整列を使用します。 {DAC-1-MARGIN-LOW[9:0], X, X} {DAC-1-MARGIN-LOW[7:0], X, X, X, X} X = ドントケア ビット。
3-0	X	X	0	未使用

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

7.7 DAC-2-MARGIN-LOW レジスタ (アドレス = 02h) [リセット = 0000h]

図 7-7. DAC-2-MARGIN-LOW レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
DAC-2-MARGIN-LOW[9:0] DAC-2-MARGIN-LOW[7:0]												X			
R/W-000h												X-0h			

表 7-11. DAC-2-MARGIN-LOW レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-4	DAC-2-MARGIN-LOW[9:0] DAC-2-MARGIN-LOW[7:0]	R/W	000h	DAC チャネル 2 出力の margin-low コード。 データはストレート バイナリ形式です。MSB 左揃え。次のビット整列を使用します。 {DAC-2-MARGIN-LOW[9:0], X, X} {DAC-2-MARGIN-LOW[7:0], X, X, X, X} X = ドントケア ビット。
3-0	X	X	0	未使用

7.8 DAC-0-GAIN-CONFIG レジスタ (アドレス = 0Fh) [リセット = 0000h]

図 7-8. DAC-0-GAIN-CONFIG レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
X			REF-GAIN-0			X									
X-0h			R/W-0h			X-000h									

表 7-12. DAC-0-GAIN-CONFIG レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-13	X	X	0h	未使用
12-10	REF-GAIN-0	R/W	0h	001 : ゲイン = 1 ×、リファレンス電圧 VDD。 010 : ゲイン = 1.5×、内部リファレンス。 011 : ゲイン = 2×、内部リファレンス。 100 : ゲイン = 3×、内部リファレンス。 101 : ゲイン = 4×、内部リファレンス。 その他 : 無効。
9-0	X	X	000h	未使用

7.9 DAC-1-GAIN-CMP-CONFIG レジスタ (アドレス = 15h) [リセット = 0000h]

図 7-9. DAC-1-GAIN-CMP-CONFIG レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
X			REF-GAIN-1			X					CMP-1-OD-EN	CMP-1-OUT-EN	CMP-1-HIZ-IN-DIS	CMP-1-INV-EN	CMP-1-EN
X-0h			R/W-0h			X-0h					R/W-0h	R/W-0h	R/W-0h	R/W-0h	R/W-0h

表 7-13. DAC-1-GAIN-CMP-CONFIG レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-13	X	X	0h	未使用
12-10	REF-GAIN-1	R/W	0h	001:ゲイン = 1 ×、リファレンス電圧 VDD。 010:ゲイン = 1.5×、内部リファレンス。 011:ゲイン = 2×、内部リファレンス。 100:ゲイン = 3×、内部リファレンス。 101:ゲイン = 4×、内部リファレンス。 その他:無効。
9-5	X	X	0h	未使用
4	CMP-1-OD-EN	R/W	0h	0:VOUT1/AIN1 ピンをプッシュプルに設定します。 1:コンパレータ モードでは、VOUT1/AIN1 ピンをオープン ドレインとして設定します。 (CMP-1-EN = 1 および CMP-1-OUT-EN = 1)。
3	CMP-1-OUT-EN	R/W	0h	0:コンパレータ出力を生成しますが、内部で消費されます。 1:コンパレータ出力をそれぞれの VOUT1/AIN1 ピンに出力します。
2	CMP-1-HIZ-IN-DIS	R/W	0h	0:FB1 入力はハイ インピーダンスです。 1:「*電気的特性:電圧出力*」セクションに基づき、FB1 入力には有限インピーダンスがあります。 ADC モードでこのビットを 0 に設定します。
1	CMP-1-INV-EN	R/W	0h	0:コンパレータ出力を反転しません。 1:コンパレータ出力を反転します。
0	CMP-1-EN	R/W	0h	0:コンパレータ モードを無効化します。 1:コンパレータ モードを有効にします。DAC チャネル 1 を有効化する必要があります。

7.10 DAC-2-GAIN-CONFIG レジスタ (アドレス = 03h) [リセット = 0000h]

図 7-10. DAC-2-GAIN-CONFIG レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
X			IOUT-GAIN			X									
X-0h			R/W-0h			X-000h									

表 7-14. DAC-2-GAIN-CONFIG レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-13	X	X	0h	未使用
12-10	IOUT-GAIN	R/W	0h	000:ゲイン = 2/3。 001:ゲイン = 1/2。 その他:無効。
9-0	X	X	000h	未使用

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

7.11 DAC-1-CMP-MODE-CONFIG レジスタ (アドレス = 17h) [リセット = 0000h]

図 7-11. DAC-1-CMP-MODE-CONFIG レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
X				CMP-1-MODE		X									
X-0h				R/W-0h		X-000h									

表 7-15. DAC-1-CMP-MODE-CONFIG レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-12	X	X	0h	未使用
11-10	CMP-1-MODE	R/W	0h	00:ヒステリシスまたはウィンドウ機能はありません。 01:DAC-1-MARGIN-HIGH および DAC-1-MARGIN-LOW レジスタを使用してヒステリシスを提供します。 10:DAC-1-MARGIN-HIGH および DAC-1-MARGIN-LOW レジスタでウィンドウ境界を設定するウィンドウ コンパレータ モード。 11:無効。
9-0	X	X	000h	未使用

7.12 DAC-0-FUNC-CONFIG レジスタ (アドレス = 12h) [リセット = 0000h]

図 7-12. DAC-0-FUNC-CONFIG レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
CLR-SEL-0	SYNC-CONFIG-0	BRD-CONFIG-0	FUNC-GEN-CONFIG-BLOCK-0												
R/W-0h	R/W-0h	R/W-0h	R/W-000h												

表 7-16. DAC-0-FUNC-CONFIG レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15	CLR-SEL-0	R/W	0h	0:DAC チャネル 0 をゼロスケールにクリアします。 1:DAC チャネル 0 をミッドスケールにクリアします。
14	SYNC-CONFIG-0	R/W	0h	0:書き込みコマンドの直後に、DAC チャネル 0 の出力が更新されます。 1:DAC チャネル 0 出力は、$\overline{\text{LDAC}}$ ピンの立ち下がりエッジ、または COMMON-TRIGGER レジスタの LDAC ビットが 1 に設定されたときに更新されます。
13	BRD-CONFIG-0	R/W	0h	0:ブロードキャスト コマンドを使って DAC チャネル 0 を更新しないでください。 1:ブロードキャスト コマンドで DAC チャネル 0 を更新。

表 7-17. リニア スルー モード : FUNC-GEN-CONFIG-BLOCK-0 のフィールド説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
12-11	PHASE-SEL-0	R/W	0h	00:0° 01:120° 10:240° 11:90°
10-8	FUNC-CONFIG-0	R/W	0h	000:三角波 001:のこぎり波 010:逆のこぎり波 100:正弦波 111:機能生成を無効化します その他:無効
7	LOG-SLEW-EN-0	R/W	0h	0:リニア スルーを有効化します
6-4	CODE-STEP-0	R/W	0h	リニア スルー モードの CODE-STEP: 000:1-LSB 001:2-LSB 010:3-LSB 011:4-LSB 100:6-LSB 101:8-LSB 110:16-LSB 111:32-LSB

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

表 7-17. リニア スルー モード：FUNC-GEN-CONFIG-BLOCK-0 のフィールド説明 (続き)

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
3-0	SLEW-RATE-0	R/W	0h	リニア スルー モードの SLEW-RATE： 0000：margin-high および margin-low ではスルーなし。波形生成で無効。 0001：4µs/ステップ 0010：8µs/ステップ 0011：12µs/ステップ 0100：18µs/ステップ 0101：27.04µs/ステップ 0110：40.48µs/ステップ 0111：60.72µs/ステップ 1000：91.12µs/ステップ 1001：136.72µs/ステップ 1010：239.2µs/ステップ 1011：418.64µs/ステップ 1100：732.56µs/ステップ 1101：1282µs/ステップ 1110：2563.96µs/ステップ 1111：5127.92µs/ステップ

表 7-18. 対数スルー モード：FUNC-GEN-CONFIG-BLOCK-0 のフィールド説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
12-11	PHASE-SEL-0	R/W	0h	00：0° 01：120° 10：240° 11：90°
10-8	FUNC-CONFIG-0	R/W	0h	000：三角波 001：のこぎり波 010：逆のこぎり波 100：正弦波 111：機能生成を無効化します その他：無効
7	LOG-SLEW-EN-0	R/W	0h	1：対数スルーを有効化します。 対数スルー モードでは、DAC 出力が DAC-0-MARGIN-LOW コードから DAC-0-MARGIN-HIGH コードへ (またはその逆) 3.125% ステップで移行します。 正の方向に回転する場合、次のステップは現在のステップの (1 + 0.03125) 倍になります。 負の方向に回転する場合、次のステップは現在のステップの (1 - 0.03125) 倍になります。 DAC-0-MARGIN-LOW が 0 の場合、スルーはコード 1 から開始されます。 各ステップの時間間隔は、RISE-SLEW-0 と FALL-SLEW-0 によって定義されます。
6-4	RISE-SLEW-0	R/W	0h	対数スルー モード(DAC-0-MARGIN-LOW から DAC-0-MARGIN-HIGH) のスルーレート： 000：4µs/ステップ 001：12µs/ステップ 010：27.04µs/ステップ 011：60.72µs/ステップ 100：136.72µs/ステップ 101：418.64µs/ステップ 110：1282µs/ステップ 111：5127.92µs/ステップ

表 7-18. 対数スルー モード : FUNC-GEN-CONFIG-BLOCK-0 のフィールド説明 (続き)

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
3-1	FALL-SLEW-0	R/W	0h	対数スルー モード(DAC-0-MARGIN-HIGH から DAC-0-MARGIN-LOW) のスルーレート: 000 : 4µs/ステップ 001 : 12µs/ステップ 010 : 27.04µs/ステップ 011 : 60.72µs/ステップ 100 : 136.72µs/ステップ 101 : 418.64µs/ステップ 110 : 1282µs/ステップ 111 : 5127.92µs/ステップ
0	X	X	0h	未使用

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

7.13 DAC-1-FUNC-CONFIG レジスタ (アドレス = 18h) [リセット = 0000h]

図 7-13. DAC-1-FUNC-CONFIG レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
CLR-SEL-1	SYNC-CONFIG-1	BRD-CONFIG-1	FUNC-GEN-CONFIG-BLOCK-1												
R/W-0h	R/W-0h	R/W-0h	R/W-000h												

表 7-19. DAC-1-FUNC-CONFIG レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15	CLR-SEL-1	R/W	0h	0:DAC チャネル 1 をゼロ スケールにクリアします。 1:DAC チャネル 1 をミッド スケールにクリアします。
14	SYNC-CONFIG-1	R/W	0h	0:書き込みコマンドの直後に、DAC チャネル 1 の出力が更新されます。 1:DAC チャネル 1 出力は、$\overline{\text{LDAC}}$ ピンの立ち下がりエッジ、または COMMON-TRIGGER レジスタの LDAC ビットが 1 に設定されたときに更新されます。
13	BRD-CONFIG-1	R/W	0h	0:ブロードキャスト コマンドを使って DAC チャネル 1 を更新しないでください。 1:ブロードキャスト コマンドで DAC チャネル 1 を更新。

表 7-20. リニア スルー モード : FUNC-GEN-CONFIG-BLOCK-1 のフィールド説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
12-11	PHASE-SEL-1	R/W	0h	00:0° 01:120° 10:240° 11:90°
10-8	FUNC-CONFIG-1	R/W	0h	000:三角波 001:のこぎり波 010:逆のこぎり波 100:正弦波 111:機能生成を無効化します その他:無効
7	LOG-SLEW-EN-1	R/W	0h	0:リニア スルーを有効化します
6-4	CODE-STEP-1	R/W	0h	リニア スルー モードの CODE-STEP: 000:1-LSB 001:2-LSB 010:3-LSB 011:4-LSB 100:6-LSB 101:8-LSB 110:16-LSB 111:32-LSB

表 7-20. リニア スルー モード：FUNC-GEN-CONFIG-BLOCK-1 のフィールド説明 (続き)

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
3-0	SLEW-RATE-1	R/W	0h	リニア スルー モードの SLEW-RATE： 0000：margin-high および margin-low ではスルーなし。波形生成で無効。 0001：4µs/ステップ 0010：8µs/ステップ 0011：12µs/ステップ 0100：18µs/ステップ 0101：27.04µs/ステップ 0110：40.48µs/ステップ 0111：60.72µs/ステップ 1000：91.12µs/ステップ 1001：136.72µs/ステップ 1010：239.2µs/ステップ 1011：418.64µs/ステップ 1100：732.56µs/ステップ 1101：1282µs/ステップ 1110：2563.96µs/ステップ 1111：5127.92µs/ステップ

表 7-21. 対数スルー モード：FUNC-GEN-CONFIG-BLOCK-1 のフィールド説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
12-11	PHASE-SEL-1	R/W	0h	00：0° 01：120° 10：240° 11：90°
10-8	FUNC-CONFIG-1	R/W	0h	000：三角波 001：のこぎり波 010：逆のこぎり波 100：正弦波 111：機能生成を無効化します その他：無効
7	LOG-SLEW-EN-1	R/W	0h	1：対数スルーを有効化します。 対数スルー モードでは、DAC 出力が DAC-1-MARGIN-LOW コードから DAC-1-MARGIN-HIGH コードへ (またはその逆) 3.125% ステップで移行します。 正の方向に回転する場合、次のステップは現在のステップの (1 + 0.03125) 倍になります。 負の方向に回転する場合、次のステップは現在のステップの (1 - 0.03125) 倍になります。 DAC-1-MARGIN-LOW が 0 の場合、スルーはコード 1 から開始されます。 各ステップの時間間隔は、RISE-SLEW-0 と FALL-SLEW-0 によって定義されます。
6-4	RISE-SLEW-1	R/W	0h	対数スルー モード(DAC-1-MARGIN-LOW から DAC-1-MARGIN-HIGH) のスルーレート： 000：4µs/ステップ 001：12µs/ステップ 010：27.04µs/ステップ 011：60.72µs/ステップ 100：136.72µs/ステップ 101：418.64µs/ステップ 110：1282µs/ステップ 111：5127.92µs/ステップ

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

表 7-21. 対数スルー モード : FUNC-GEN-CONFIG-BLOCK-1 のフィールド説明 (続き)

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
3-1	FALL-SLEW-1	R/W	0h	対数スルー モード(DAC-1-MARGIN-HIGH から DAC-1-MARGIN-LOW) のスルーレート: 000 : 4µs/ステップ 001 : 12µs/ステップ 010 : 27.04µs/ステップ 011 : 60.72µs/ステップ 100 : 136.72µs/ステップ 101 : 418.64µs/ステップ 110 : 1282µs/ステップ 111 : 5127.92µs/ステップ
0	X	X	0h	未使用

7.14 DAC-2-FUNC-CONFIG レジスタ (アドレス = 06h) [リセット = 0000h]

図 7-14. DAC-2-FUNC-CONFIG レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
CLR-SEL-2	SYNC-CONFIG-2	BRD-CONFIG-2	FUNC-GEN-CONFIG-BLOCK-2												
R/W-0h	R/W-0h	R/W-0h	R/W-000h												

表 7-22. DAC-2-FUNC-CONFIG レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15	CLR-SEL-2	R/W	0h	0:DAC チャネル 2 をゼロスケールにクリアします。 1:DAC チャネル 2 をミッドスケールにクリアします。
14	SYNC-CONFIG-2	R/W	0h	0:書き込みコマンドの直後に、DAC チャネル 2 の出力が更新されます。 1:DAC チャネル 2 出力は、$\overline{\text{LDAC}}$ ピンの立ち下がりエッジ、または COMMON-TRIGGER レジスタの LDAC ビットが 1 に設定されたときに更新されます。
13	BRD-CONFIG-2	R/W	0h	0:ブロードキャスト コマンドを使って DAC チャネル 2 を更新しないでください。 1:ブロードキャスト コマンドで DAC チャネル 2 を更新。

表 7-23. リニア スルー モード : FUNC-GEN-CONFIG-BLOCK-2 のフィールド説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
12-11	PHASE-SEL-2	R/W	0h	00:0° 01:120° 10:240° 11:90°
10-8	FUNC-CONFIG-2	R/W	0h	000:三角波 001:のこぎり波 010:逆のこぎり波 100:正弦波 111:機能生成を無効化します その他:無効
7	LOG-SLEW-EN-2	R/W	0h	0:リニア スルーを有効化します
6-4	CODE-STEP-2	R/W	0h	リニア スルー モードの CODE-STEP: 000:1-LSB 001:2-LSB 010:3-LSB 011:4-LSB 100:6-LSB 101:8-LSB 110:16-LSB 111:32-LSB

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

表 7-23. リニア スルー モード：FUNC-GEN-CONFIG-BLOCK-2 のフィールド説明 (続き)

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
3-0	SLEW-RATE-2	R/W	0h	リニア スルー モードの SLEW-RATE： 0000：margin-high および margin-low ではスルーなし。波形生成で無効。 0001：4µs/ステップ 0010：8µs/ステップ 0011：12µs/ステップ 0100：18µs/ステップ 0101：27.04µs/ステップ 0110：40.48µs/ステップ 0111：60.72µs/ステップ 1000：91.12µs/ステップ 1001：136.72µs/ステップ 1010：239.2µs/ステップ 1011：418.64µs/ステップ 1100：732.56µs/ステップ 1101：1282µs/ステップ 1110：2563.96µs/ステップ 1111：5127.92µs/ステップ

表 7-24. 対数スルー モード：FUNC-GEN-CONFIG-BLOCK-2 のフィールド説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
12-11	PHASE-SEL-2	R/W	0h	00：0° 01：120° 10：240° 11：90°
10-8	FUNC-CONFIG-2	R/W	0h	000：三角波 001：のこぎり波 010：逆のこぎり波 100：正弦波 111：機能生成を無効化します その他：無効
7	LOG-SLEW-EN-2	R/W	0h	1：対数スルーを有効化します。 対数スルー モードでは、DAC 出力が DAC-2-MARGIN-LOW コードから DAC-2-MARGIN-HIGH コードへ (またはその逆) 3.125% ステップで移行します。 正の方向に回転する場合、次のステップは現在のステップの (1 + 0.03125) 倍になります。 負の方向に回転する場合、次のステップは現在のステップの (1 - 0.03125) 倍になります。 DAC-2-MARGIN-LOW が 0 の場合、スルーはコード 1 から開始されます。 各ステップの時間間隔は、RISE-SLEW-0 と FALL-SLEW-0 によって定義されます。
6-4	RISE-SLEW-2	R/W	0h	対数スルー モード(DAC-2-MARGIN-LOW から DAC-2-MARGIN-HIGH) のスルーレート： 000：4µs/ステップ 001：12µs/ステップ 010：27.04µs/ステップ 011：60.72µs/ステップ 100：136.72µs/ステップ 101：418.64µs/ステップ 110：1282µs/ステップ 111：5127.92µs/ステップ

表 7-24. 対数スルー モード : FUNC-GEN-CONFIG-BLOCK-2 のフィールド説明 (続き)

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
3-1	FALL-SLEW-2	R/W	0h	対数スルー モード(DAC-2-MARGIN-HIGH から DAC-2-MARGIN-LOW) のスルーレート: 000 : 4µs/ステップ 001 : 12µs/ステップ 010 : 27.04µs/ステップ 011 : 60.72µs/ステップ 100 : 136.72µs/ステップ 101 : 418.64µs/ステップ 110 : 1282µs/ステップ 111 : 5127.92µs/ステップ
0	X	X	0h	未使用

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

7.15 DAC-0-DATA レジスタ (アドレス = 1Bh) [リセット = 0000h]

図 7-15. DAC-0-DATA レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
DAC-0-DATA[9:0] DAC-0-DATA[7:0]												X			
R/W-000h												X-0h			

表 7-25. DAC-0-DATA レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-4	DAC-0-DATA[9:0] DAC-0-DATA[7:0]	R/W	000h	DAC 出力のデータ。 データはストレート バイナリ形式です。MSB 左揃え。次のビット整列を使用します: AFE532A3W:{DAC-0-DATA[9:0], X, X} AFE432A3W:{DAC-0-DATA[7:0], X, X, X, X} X = ドントケア ビット。
3-0	X	X	0h	未使用

7.16 DAC-1-DATA レジスタ (アドレス = 1Ch) [リセット = 0000h]

図 7-16. DAC-1-DATA レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
DAC-1-DATA[9:0] DAC-1-DATA[7:0]												X			
R/W-000h												X-0h			

表 7-26. DAC-1-DATA レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-4	DAC-1-DATA[9:0] DAC-1-DATA[7:0]	R/W	000h	DAC 出力のデータ。 データはストレート バイナリ形式です。MSB 左揃え。次のビット整列を使用します: AFE532A3W:{DAC-1-DATA[9:0], X, X} AFE432A3W:{DAC-1-DATA[7:0], X, X, X, X} X = ドントケア ビット。
3-0	X	X	0h	未使用

7.17 DAC-2-DATA レジスタ (アドレス = 19h) [リセット = 0000h]

図 7-17. DAC-2-DATA レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
DAC-2-DATA[9:0] DAC-2-DATA[7:0]												X			
R/W-000h												X-0h			

表 7-27. DAC-2-DATA レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-4	DAC-2-DATA[9:0] DAC-2-DATA[7:0]	R/W	000h	DAC 出力のデータ。 データはストレート バイナリ形式です。MSB 左揃え。次のビット整列を使用します: AFE532A3W:{DAC-2-DATA[9:0], X, X} AFE432A3W:{DAC-2-DATA[7:0], X, X, X, X} X = ドントケア ビット。
3-0	X	X	0h	未使用

7.18 ADC-CONFIG-TRIG レジスタ (アドレス = 1Dh) [リセット = 0000h]

図 7-18. ADC-CONFIG-TRIG レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
予約済み		ADC-EN	ADC-AVG		予約済み										TRIG-ADC
R/W-0h		R/W-0h	R/W-0h		R/W-000h										W-0h

表 7-28. ADC-CONFIG-TRIG レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-14	予約済み	R/W	0h	常に 0h を書き込みます。
13	ADC-EN	R/W	0h	0:ADC は無効。 1:チャネル 1 で ADC は有効。このビットを設定する前に、チャネル 1 でコンパレータ モードを有効にする必要があります。プルアップ抵抗を使用して FB1 を VDD に接続します。
12-11	ADC-AVG	R/W	0h	00:4 個のサンプルが平均化されます。 01:8 個のサンプルが平均化されます。 10:16 個のサンプルが平均化されます。 11:32 個のサンプルが平均化されます。
10-1	予約済み	R/W	000h	常に 0b01 1110 0000 (1E0h) を書き込みます。
0	TRIG-ADC	W	0h	1 を書き込んで ADC 変換を開始します。このビットは自動リセットされます。GENERAL-STATUS または ADC-DATA レジスタの ADC-DRDY ビットで、ADC データの有効性を確認します。

7.19 ADC-DATA レジスタ (アドレス = 1Eh) [リセット = 0001h]

図 7-19. ADC-DATA レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
ADC-DATA												X			ADC-DRDY
R/W-000h												X-0h			R-1h

表 7-29. ADC-DATA レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-4	ADC-DATA[9:0]	R/W	000h	ADC データ。 データはストレート バイナリ形式です。MSB 左揃え。読み戻しには、次のビット整列を使用します。 {ADC-DATA[9:0], X, X} X = ドントケア ビット。
3-1	X	X	0h	未使用
0	ADC-DRDY	R	1h	0:ADC がトリガされた後のデフォルト状態。ADC データは無効。 1:ADC がトリガされないときのデフォルト状態。値 1 は、ADC がトリガされた後、ADC データが有効であることを示します。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

7.20 COMMON-CONFIG レジスタ (アドレス = 1Fh) [リセット = 0FFFh]

図 7-20. COMMON-CONFIG レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
WIN-LATCH-EN	DEV-LOCK	EE-READ-ADDR	EN-INT-REF	DAC-PDN-1		予約済み	DAC-PDN-0		予約済み				DAC-PDN-2		予約済み
R/W-0h	R/W-0h	R/W-0h	R/W-0h	R/W-3h		R/W-1h	R/W-3h		R/W-Fh				R/W-3h		R/W-1h

表 7-30. COMMON-CONFIG レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15	WIN-LATCH-EN	R/W	0h	0:ラッチなしのウィンドウ コンパレータ出力。 1:ラッチ付きウィンドウ コンパレータ出力。
14	DEV-LOCK	R/W	0h	0:デバイスがロックされていません 1:デバイスはロックされています。デバイスはすべてのレジスタをロックします。このビットを 0 (デバイスのロックを解除) に戻すには、まず COMMON-TRIGGER レジスタの DEV-UNLOCK フィールドに unlock コードを書き込み、その後 DEV-LOCK ビットに 0 を書き込みます。
13	EE-READ-ADDR	R/W	0h	0:アドレス 0x00 の フォルトダンプ読み取りイネーブル。 1:アドレス 0x01 のフォルトダンプ読み取りイネーブル。
12	EN-INT-REF	R/W	0h	0:内部リファレンスを無効化します。 1:内部リファレンスを有効化します。内部リファレンス ゲイン設定を使用する前に、このビットを設定する必要があります。
11-10	DAC-PDN-1	R/W	3h	00:DAC チャネル 1 の電源オン。 01:10kΩ を AGND に接続したパワーダウン DAC のチャネル 1。 10:100 kΩ を AGND に接続したパワーダウン DAC のチャネル 1。 11:ハイ インピーダンスを AGND に接続したパワーダウン DAC のチャネル 1。
9	予約済み	R/W	1h	常に 1h を書き込みます。
8-7	DAC-PDN-0	R/W	3h	00:DAC チャネル 0 の電源オン。 01:10 kΩ を AGND に接続したパワーダウン DAC のチャネル 0。 10:100 kΩ を AGND に接続したパワーダウン DAC のチャネル 0。 11:ハイ インピーダンスを AGND に接続したパワーダウン DAC のチャネル 0。
6-3	予約済み	R/W	Fh	常に Fh を書き込みます。
2-1	DAC-PDN-2	R/W	3h	00:DAC チャネル 2 をパワーアップします。 その他:1.2kΩ を AGND に接続したパワーダウン DAC チャネル 2。
0	予約済み	R/W	1h	常に 1h を書き込みます。

7.21 COMMON-TRIGGER レジスタ (アドレス = 20h) [リセット = 0000h]

図 7-21. COMMON-TRIGGER レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
DEV-UNLOCK				リセット				LDAC	CLR	X	FAULT-DUMP	PROTECT	READ-ONE-TRIG	NVM-PROG	NVM-RELOAD
R/W-0h				R/W-0h				R/W-0h	R/W-0h	X-0h	R/W-0h	R/W-0h	R/W-0h	R/W-0h	R/W-0h

表 7-31. COMMON-TRIGGER レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-12	DEV-UNLOCK	R/W	0h	0101:デバイスのロック解除パスワード その他:未使用
11-8	リセット	W	0h	1010:POR リセットがトリガされました。このビットはセルフ リセットします。 その他:未使用
7	LDAC	R/W	0h	0:LDAC 操作はトリガされません 1:DAC-x-FUNC-CONFIG レジスタの各 SYNC-CONFIG-x ビットが 1 の場合に LDAC 操作はトリガされます。このビットはセルフ リセットします。
6	CLR	R/W	0h	0:DAC レジスタと出力は影響なし 1:DAC レジスタおよび出力は、DAC-x-FUNC-CONFIG レジスタの各 CLR-SEL-x ビットに基づいて、ゼロ コードまたはミッドコードに設定されます。このビットはセルフ リセットします。
5	X	X	0h	未使用
4	FAULT-DUMP	R/W	0h	0:フォルトダンプはトリガされません 1:フォルトダンプ シーケンスをトリガします。このビットはセルフ リセットします。
3	PROTECT	R/W	0h	0:PROTECT 機能はトリガーされません 1:PROTECT 機能をトリガします。このビットはセルフ リセットします。
2	READ-ONE-TRIG	R/W	0h	0:フォルトダンプ読み取りはトリガされません 1:フォルトダンプのために NVM の 1 行を読み出します。このビットはセルフ リセットします。
1	NVM-PROG	R/W	0h	0:NVM 書き込みはトリガされません 1:NVM 書き込みをトリガします。このビットはセルフ リセットします。
0	NVM-RELOAD	R/W	0h	0:NVM のリロードはトリガされません 1:NVM からレジスタ マップにデータをリロードします。このビットはセルフ リセットします。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

7.22 COMMON-DAC-TRIG レジスタ (アドレス = 21h) [リセット = 0000h]

図 7-22. COMMON-DAC-TRIG レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
X	TRIG-MAR-LO-2	TRIG-MAR-HI-2	START-FUNC-2	X					TRIG-MAR-LO-0	TRIG-MAR-HI-0	START-FUNC-0	RESET-CMP-FLAG-1	TRIG-MAR-LO-1	TRIG-MAR-HI-1	START-FUNC-1
X-0h	W-0h	W-0h	R/W-0h	X-00h					W-0h	W-0h	R/W-0h	W-0h	W-0h	W-0h	R/W-0h

表 7-32. COMMON-DAC-TRIG レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
14、6、2	TRIG-MAR-LO-x	W	0h	0:ドントケア 1:margin-low コマンドをトリガします。このビットはセルフ リセットします。
13、5、1	TRIG-MAR-HI-x	W	0h	0:ドントケア 1:margin-high コマンドをトリガします。このビットはセルフ リセットします。
12、4、0	START-FUNC-x	R/W	0h	0:機能生成を停止 1:DAC-x-FUNC-CONFIG レジスタの FUNC-GEN-CONFIG-x に従って、機能生成を開始します。
15、11-7	X	X	00h	未使用
3	RESET-CMP-FLAG-1	W	0h	0:ラッチ コンパレータ出力には影響なし 1:ラッチ コンパレータとウィンドウ コンパレータ出力をリセットします。このビットはセルフ リセットします。

7.23 GENERAL-STATUS レジスタ (アドレス = 22h) [リセット = 20h、DEVICE-ID、VERSION-ID]

図 7-23. GENERAL-STATUS レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
NVM-CRC-FAIL-INT	NVM-CRC-FAIL-USER	ADC--DRDY	DAC-1-BUSY	DAC-0-BUSY	X	DAC-2-BUSY	NVM-BUSY	DEVICE-ID						VERSION-ID	
R-0h	R-0h	R-1h	R-0h	R-0h	X-0h	R-0h	R-0h	R-[DEVICE-ID]						R-0h	

表 7-33. GENERAL-STATUS レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15	NVM-CRC-FAIL-INT	R	0h	0:OTP に CRC エラーはありません。 1:OTP ロードの障害を示します。一時的な障害が発生した場合、ソフトウェア リセットまたはパワー サイクルによって、デバイスはこの状態から回復することができます。
14	NVM-CRC-FAIL-USER	R	0h	0:NVM ロードでの CRC エラーはありません 1:NVM ロードの障害を示します。レジスタ設定が破損しています。デバイスは、このエラー条件でのすべての動作を許可します。元の状態を取得するため、NVM を再プログラムします。ソフトウェア リセットにより、デバイスはこの一時的なエラー状態から回復します。
13	ADC-DRDY	R	1h	0:ADC がトリガされた後のデフォルト状態。ADC データは無効。 1:ADC がトリガされないときのデフォルト状態。値 1 は、ADC がトリガされた後、ADC データが有効であることを示します。
12	DAC-1-BUSY	R	0h	0:DAC チャネル 1 はコマンドを受け付けます。 1:DAC チャネル 1 はコマンドを受け付けません。
11	DAC-0-BUSY	R	0h	0:DAC チャネル 0 はコマンドを受け付けます。 1:DAC チャネル 0 はコマンドを受け付けません。
10	X	X	0h	未使用
9	DAC-2-BUSY	R	0h	0:DAC チャネル 2 はコマンドを受け付けます。 1:DAC チャネル 2 はコマンドを受け付けません。
8	NVM-BUSY	R	0h	0:NVM を読み出しと書き込みに使用できます。 1:NVM を読み取りと書き込みに使用できません。
7-2	DEVICE-ID	R	AFE532A3W: 01h AFE432A3W: 02h	デバイス識別子。
1-0	VERSION-ID	R	00h	バージョン識別子。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

7.24 CMP-STATUS レジスタ (アドレス = 23h) [リセット = 000Ch]

図 7-24. CMP-STATUS レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
X							PROTECT-FLAG	WIN-CMP-1	X			CMP-FLAG-1	X		
X-0h							R-0h	R-0h	X-0h			R-1h	X-4h		

表 7-34. CMP-STATUS レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-9	X	X	0h	未使用
8	PROTECT-FLAG	R	0h	0:PROTECT 動作がトリガーされません。 1:PROTECT 機能が完了したか、実行中です。読み出すと、このビットは 0 にリセットされます。
7	WIN-CMP-1	R	0h	チャネル 1 からのウィンドウ コンパレータ出力。出力がラッチされるかラッチされないかは、COMMON-CONFIG レジスタの WINDOW-LATCH-EN 設定に基づきます。
6-4	X	X	0h	未使用
3	CMP-FLAG-1	R	1h	チャネル 1 からの同期されたコンパレータ出力。
2-0	X	X	4h	未使用

7.25 GPIO-CONFIG レジスタ (アドレス = 24h) [リセット = 0000h]

図 7-25. GPIO-CONFIG レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
GF-EN	X	GPO-EN	GPO-CONFIG				GPI-CH-SEL				GPI-CONFIG				GPI-EN
R/W-0h	X-0h	R/W-0h	R/W-0h				R/W-0h				R/W-0h				R/W-0h

表 7-35. GPIO-CONFIG レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15	GF-EN	R/W	0h	0:GP 入力のグリッチ フィルタ ディスエーブル。この設定により、応答が高速化されます。 1:GPI のグリッチ フィルタ イネーブル。この設定では伝搬遅延が長くなりますが、堅牢性が得られます。
14	X	X	0h	未使用。
13	GPO-EN	R/W	0h	0:GPIO/SDO ピンの出力モードを無効化します。 1:GPIO/SDO ピンの出力モードを有効化します。
12-9	GPO-CONFIG	R/W	0h	$\overline{\text{STATUS}}$ 機能の設定。GPIO ピンは、出力として次のレジスタ ビットにマッピングされます: 0000:ADC-DRDY 0001:NVM-BUSY 0100:DAC-2-BUSY 0110:DAC-0-BUSY 0111:DAC-1-BUSY 1011:WIN-CMP-1 その他:該当なし
8-5	GPI-CH-SEL	R/W	0h	2 つのビットは、2 つの DAC チャネルに対応します。0b は「*無効*」で、1b は「*有効*」。 GPI-CH-SEL[0]:チャネル 2 GPI-CH-SEL[1]:未使用 GPI-CH-SEL[2]:チャネル 0 GPI-CH-SEL[3]:チャネル 1 例:GPI-CH-SEL が 1001 の場合、チャネル 2 とチャネル 1 の両方が有効になり、チャネル 0 が無効になります。
4-1	GPI-CONFIG	R/W	0h	GPIO/SDO ピンの入力構成。グローバル設定はデバイス全体で動作します。チャネル固有の設定は、GPI-CH-SEL ビットによるチャネル選択によって異なります。 0010:$\overline{\text{FAULT-DUMP}}$ (グローバル)。GPIO の立ち下がりエッジはフォルトダンプをトリガし、GPIO = 1 は影響を与えません。 0100:チャネル パワーアップ/ダウン (チャネル固有)。出力負荷は、OUT-PDN-x の設定に従います。GPIO の立ち下がりエッジはパワーダウンをトリガし、GPIO の立ち上がりエッジはパワーアップをトリガします。 0101:$\overline{\text{PROTECT}}$ 入力 (グローバル)。GPIO の立ち下がりエッジは $\overline{\text{PROTECT}}$ 機能をアサートし、GPIO = 1 は影響を与えません。 0111:$\overline{\text{CLR}}$ 入力 (グローバル)。GPIO = 0 は $\overline{\text{CLR}}$ 機能をアサートし、GPIO = 1 は影響を与えません。 1000:$\overline{\text{LDAC}}$ 入力 (チャネル固有)。GPIO の立ち下がりエッジは $\overline{\text{LDAC}}$ 機能をアサートし、GPIO = 1 は影響を与えません。SYNC-CONFIG-x と GPI-CH-SEL の両方をすべてのチャネルに設定する必要があります。 1001:機能生成の開始/停止 (チャネル固有)。GPIO の立ち下がりエッジは機能の生成を停止します。GPIO の立ち上がりエッジは機能の生成を開始します。 1010:margin-high/low のトリガ (チャネル固有)。GPIO の立ち下がりエッジは margin low をトリガします。GPIO の立ち上がりエッジは margin high をトリガします。 1011:$\overline{\text{RESET}}$ 入力 (グローバル)。GPIO ピンの立ち下がりエッジは $\overline{\text{RESET}}$ 機能をアサートします。$\overline{\text{RESET}}$ 入力はパルスである必要があります。GPIO の立ち上がりエッジはデバイスをリセットから復帰させます。$\overline{\text{RESET}}$ 構成は NVM にプログラムする必要があります。それ以外の場合は、デバイスのリセット後に設定はクリアされます。 1100:NVM 書き込み保護 (グローバル)。GPIO の立ち下がりエッジは NVM プログラミングを可能にします。GPIO の立ち上がりエッジは NVM プログラミングをブロックします。 1101:レジスタ マップ ロック (グローバル)。GPIO の立ち下がりエッジはレジスタ マップの更新を可能にします。GPIO の立ち上がりエッジはレジスタ マップの更新をブロックします (I^2C または SPI 経由の DEV-UNLOCK フィールドおよび I^2C 経由の RESET フィールドへの書き込みを除く)。 その他:無効
0	GPI-EN	R/W	0h	0:GPIO/SDO ピンの入力モードを無効化します。 1:GPIO/SDO ピンの入力モードを有効化します。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

7.26 DEVICE-MODE-CONFIG レジスタ (アドレス = 25h) [リセット = 0000h]

図 7-26. DEVICE-MODE-CONFIG レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
予約済み						PROTECT-CONFIG		予約済み			X				
R/W-00h						R/W-0h		R/W-0h			X-00h				

表 7-36. DEVICE-MODE-CONFIG レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-10	予約済み	R/W	00h	常に 00h を書き込みます。
9-8	PROTECT-CONFIG	R/W	0h	00:ハイ インピーダンス パワーダウンへの切り換え (スルーなし) 01:NVM に保存された DAC コードに切り換え (スルーなし) てから、ハイ インピーダンス パワーダウンに切り換え 10:margin-low コードまでスルーしてから、ハイ インピーダンス パワーダウンに切り換え 11:margin-high コードまでスルーしてから、ハイ インピーダンス パワーダウンに切り換え
7-5	予約済み	R/W	0h	常に 0h を書き込みます。
4-0	X	X	00h	未使用

7.27 INTERFACE-CONFIG レジスタ (アドレス = 26h) [リセット = 0000h]

図 7-27. INTERFACE-CONFIG レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
X			TIMEOUT-EN	X			予約済み	X					FSDO-EN	X	SDO-EN
X-0h			R/W-0h	X-0h			R/W-0h	X-00h					R/W-0h	X-0h	R/W-0h

表 7-37. INTERFACE-CONFIG レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-13	X	X	0h	未使用
12	TIMEOUT-EN	R/W	0h	0:I^2C タイムアウト ディスエーブル 1:I^2C タイムアウト イネーブル
11-9	X	X	0h	未使用
8	予約済み	R/W	0h	常に 0 を書き込みむ。
7-3	X	X	00h	未使用
2	FSDO-EN	R/W	0h	0:高速 SDO シャットダウン ディスエーブル 1:高速 SDO イネーブル
1	X	X	0h	未使用
0	SDO-EN	R/W	0h	0:SDO ディスエーブル 1:GPIO/SDO ピンで SDO イネーブル

7.28 SRAM-CONFIG レジスタ (アドレス = 2Bh) [リセット = 0000h]

図 7-28. SRAM-CONFIG レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
X								SRAM-ADDR							
X-00h								R/W-00h							

表 7-38. SRAM-CONFIG レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-8	X	X	00h	未使用
7-0	SRAM-ADDR	R/W	00h	8 ビット SRAM アドレス。このレジスタ フィールドに書き込むと、次にアクセスする SRAM アドレスが設定されます。このアドレスは、SRAM への書き込み後に自動的にインクリメントされます。

7.29 SRAM-DATA レジスタ (アドレス = 2Ch) [リセット = 0000h]

図 7-29. SRAM-DATA レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SRAM-DATA															
R/W-0000h															

表 7-39. SRAM-DATA レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-0	SRAM-DATA	R/W	0000h	16 ビット SRAM データ。このデータは、SRAM-CONFIG レジスタで設定されたアドレスに書き込まれるか、そこから読み取られます。

7.30 BRDCAST-DATA レジスタ (アドレス = 50h) [リセット = 0000h]

図 7-30. BRDCAST-DATA レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
BRDCAST-DATA[9:0] BRDCAST-DATA[7:0]												X			
R/W-000h												X-0h			

表 7-40. BRDCAST-DATA レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	説明
15-4	BRDCAST-DATA[9:0] BRDCAST-DATA[7:0]	R/W	000h	すべての DAC チャネル用のブロードキャスト コード。 データはストレート バイナリ形式です。MSB 左揃え。次のビット整列を使用します: AFE532A3W:{BROADCAST-DATA[9:0], X, X} AFE432A3W:{BROADCAST-DATA[7:0], X, X, X, X} X = ドントケア ビット。 DAC-x-FUNC-CONFIG レジスタの BRD-CONFIG-X ビットは、それぞれのチャネルで有効になっている必要があります。
3-0	X	X	0h	未使用。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

8 アプリケーションと実装

注

以下のアプリケーション情報は、テキサス・インスツルメンツの製品仕様に含まれるものではなく、テキサス・インスツルメンツはその正確性も完全性も保証いたしません。個々の目的に対する製品の適合性については、お客様の責任で判断していただくことになります。また、お客様は自身の設計実装を検証しテストすることで、システムの機能を確認する必要があります。

8.1 アプリケーション情報

AFEx32A3W は 3 チャネル、バッファ付き、電圧出力、電流出力、ADC 入力のスマート AFE で、NVM と内部リファレンスを内蔵しており、1.76mm × 1.76mm (公称値) パッケージで提供されます。この AFE には、2 つの専用 DAC チャネルと、DAC または ADC として構成可能な 1 つのチャネルが搭載されています。電流出力 DAC (IDAC) は、低ヘッドルームで最大 300mA を供給します。電圧出力 DAC (VDAC) は、リファレンスとゲインの構成可能なオプションを備えています。AFEx32A3W は、ハイ インピーダンスのパワーダウン モードと、電源オフ状態中のハイ インピーダンス出力をサポートしています。マルチファンクション GPIO、機能生成、NVM によって、これらのスマート AFE をランタイム ソフトウェアを必要とせずに使用できます。

8.2 代表的なアプリケーション

AFEx32A3W は、電界吸収変調レーザー (EML) を備えた光ネットワーク アプリケーションで使用できます。EML は、レーザーと統合型電界吸収変調器 (EAM) で構成されています。AFEx32A3W IDAC 出力はヘッドルームが小さく、低消費電力を必要とするアプリケーションに最適です。この例の回路では、300mA の IDAC 出力を使用してレーザーにバイアスを印加しています。EAM は通常、EML を通過する光の強度を制御するために、負の電圧バイアスを必要とします。AFEx32A3W VDAC 出力をオペアンプで反転することで、この負のバイアス要件を達成できます。内蔵の ADC は、外部フォトダイオードとセンス抵抗 (R_{SENSE}) を使用して EML の出力を監視するために使用されます。

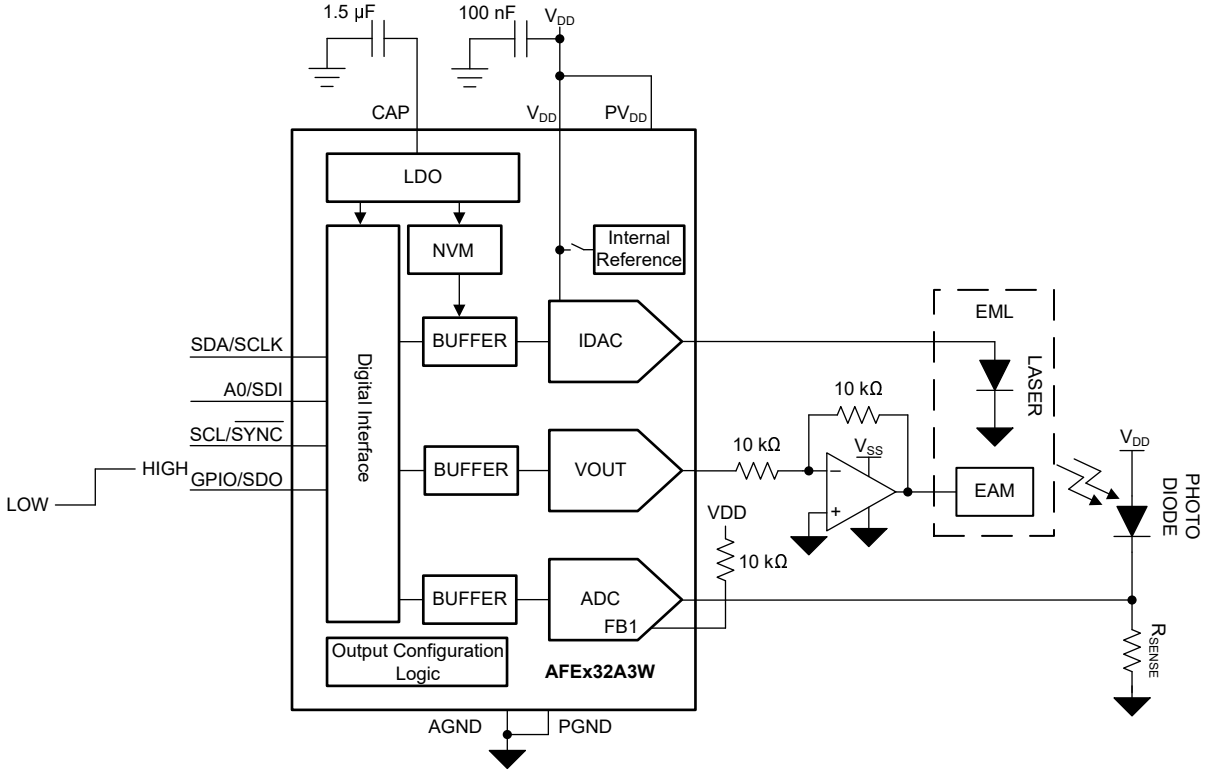


図 8-1. 電界吸収変調レーザーのバイアス

8.2.1 設計要件

表 8-1. 設計パラメータ

パラメータ	値
V_{DD}	3.3V
PV_{DD}	3.3V
IDAC 公称出力	200mA
VDAC の出力範囲	0V ～ 3.3V
ADC 入力範囲	0V ～ 3.3V
V_{SS}	-5V
負の EAM バイアス出力範囲	-3.3V ～ 0V

8.2.2 詳細な設計手順

- このアプリケーションの公称 IDAC 出力は 200mA です。IDAC 出力を 200mA に設定するために必要な IDAC コードは、式 9 で計算できます。

$$\text{DAC_2_DATA} = \frac{200\ \text{mA}}{2/3 \times 0.5241} \times 2^{10} = 586\text{d} \tag{9}$$

- IDAC チャネルは、内部リファレンス電圧を使用します。IDAC 出力を有効にする前に、COMMON-CONFIG レジスタの内部リファレンスを有効にします。
- IDAC チャネルの消費電力は、PV_{DD} の電源電圧、電流出力、IDAC ピンの電圧 (V_{IDAC}) の関数です。ヘッドルーム電圧 ($V_{HEADROOM}$) は、PV_{DD} と V_{IDAC} の差として計算されます。$V_{HEADROOM}$ を最小限に抑えて、デバイスの消費電力を低減し、最小 $V_{HEADROOM}$ 要件も満たします。$V_{HEADROOM}$ が指定された電圧よりも低い場合、IDAC 出力はフルスケール電流出力をソースできません。図 8-2 に、出力電流の方向と、消費電力に影響を与える主要な電圧を示します。IDAC 出力は、出力電流に $V_{HEADROOM}$ 電圧を乗算した値に比例して消費電力に寄与します。

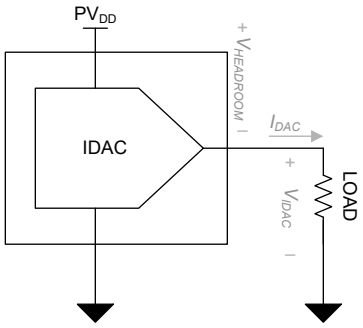


図 8-2. IDAC 消費電力

- VDAC のフルスケール出力範囲は、DAC-0-GAIN-CONFIG レジスタで設定します。このアプリケーション例では、ゲインが 1 × のリファレンス電圧として 3.3V VDD を使用しています。式 10 で、2V 出力の DAC コードを計算します。

$$\text{DAC_0_DATA} = \frac{2\ \text{V}}{3.3\ \text{V}} \times 2^{10} = 621\text{d} \tag{10}$$

- このアプリケーションで使用する反転オペアンプ回路のゲインは -1V/V です。回路の負の出力範囲を AFEx32A3W V_{DD} 電源電圧よりも大きくする必要がある場合は、反転オペアンプ回路のゲインを増やすことができます。負のオペアンプ電源 (V_{SS}) は、選択したゲインが適用された AFEx32A3W のフルスケール出力に対して、選択したオペアンプのヘッドルーム要件をサポートするのに十分な大きさである必要があります。EAM に必要とされる出力電圧範囲と出力電流ドライブに対応するオペアンプを選定します。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

- ADC 入力を使用してフォトダイオードを監視する場合、R_{SENSE} の値はフォトダイオードの予測される電流 (I_{PD}) に依存します。最大 I_{PD} がフルスケール ADC 入力電圧と等しい電圧を誘導するように、R_{SENSE} を選択します。式 11 に、最大 ADC 入力電圧と最大 I_{PD} から R_{SENSE} を計算する方法を示します。

$$R_{SENSE} = \frac{ADC_{max}}{I_{PDmax}} \tag{11}$$

- ADC のフルスケール入力範囲は、DAC-1-GAIN-CMP-CONFIG レジスタで設定します。このアプリケーション例では、ゲインが 1 × のリファレンス電圧として 3.3V V_{DD} を使用しています。予測される最大 I_{PD} が 10mA の場合、式 12 によって R_{SENSE} は 330Ω と計算されます。

$$R_{SENSE} = \frac{3.3\ V}{10\ mA} = 330\ \Omega \tag{12}$$

- このアプリケーションでは、GPIO/SDO ピンを使用して IDAC 出力のオン/オフを行います。GPIO-CONFIG レジスタで、GPIO/SDO ピンの機能を構成します。GPI-EN ビットは、GPIO/SDO ピンを入力として有効化します。GPI-CH-SEL フィールドは、GPI によって制御されるチャネルを選択します。GPI-CONFIG フィールドは、GPI 機能を選択します。表 6-9 に、GPI-CONFIG フィールドの関数を定義します。

EML バイアス アプリケーションの疑似コードは次のとおりです。

```
//SYNTAX: WRITE <REGISTER NAME (Hex code)>, <MSB DATA>, <LSB DATA>
//Write DAC code for nominal IDAC output
//Set IOUT gain setting to 2/3
WRITE DAC-2-GAIN-CONFIG(0x03), 0x00, 0x00
//The 10-bit hex code for 200 mA is 0x24A. With 16-bit left alignment, this becomes 0x9280
WRITE DAC-2-DATA(0x19), 0x92, 0x80
//Set VOUT0 gain setting to 1x VDD (3.3 V)
WRITE DAC-0-GAIN-CONFIG(0x0F), 0x04, 0x00
//For a 3.3-V output range, the 10-bit hex code for 2 V is 0x26D. With 16-bit left alignment, this
becomes 0x9B40
WRITE DAC-0-DATA(0x1B), 0x9B, 0x40
//Set ADC gain setting to 1x VDD (3.3 V), enable comparator mode for ADC
WRITE DAC-1-GAIN-CMP-CONFIG(0x15), 0x04, 0x01
//Power-up output on VDAC and ADC channels, enables internal reference
WRITE COMMON-CONFIG(0x1F), 0x12, 0x5F
//Configure GPI for Power-Up, Down trigger for IDAC channel
WRITE GPIO-CONFIG(0x24), 0x00, 0x29
//Enable the ADC and configure the averaging setting and channel select
WRITE ADC-CONFIG-TRIG(0x1D), 0x23, 0xC0
//Save settings to NVM
WRITE COMMON-TRIGGER(0x20), 0x00, 0x02

//Use GPIO pin to power on/off IDAC
//ADC trigger
WRITE ADC-CONFIG-TRIG(0x1D), 0x23, 0xC1
//ADC readback
READ ADC-DATA(0x1E)
```

8.2.3 アプリケーション曲線

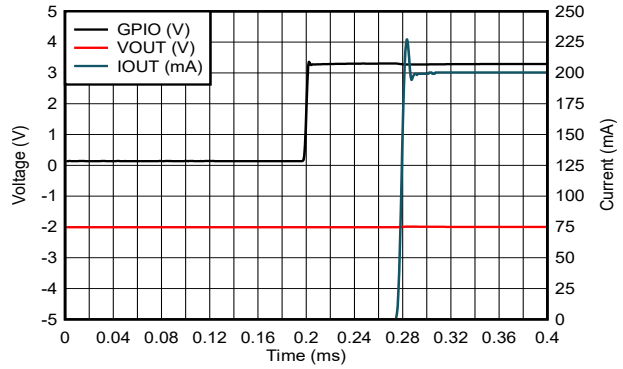


図 8-3. IDAC 電源オン

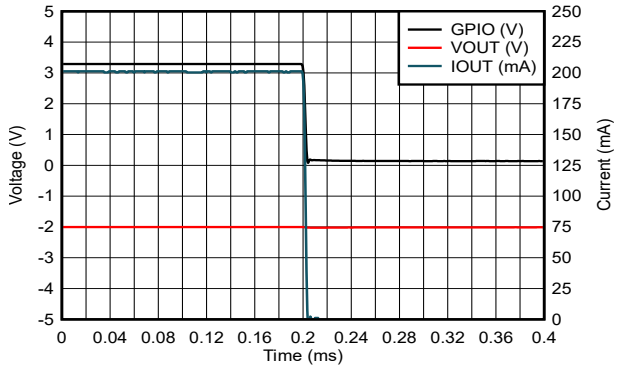


図 8-4. IDAC 電源オフ

8.3 電源に関する推奨事項

AFEx32A3W では、特定の電源シーケンスは必要ありません。これらのデバイスには、単一の電源 V_{DD} と PV_{DD} が必要です。低インピーダンスの PCB パターンを使用して V_{DD} と PV_{DD} を短絡します。電源からのノイズを最小限に抑えるために、1µF ～ 10µF のコンデンサ、および 100nF のバイパス コンデンサを接続します。CAP ピンには約 1.5µF のバイパス コンデンサを使用します。

注

AFEx32A3W には、自動サーマル シャットダウン機能はありません。したがって、外部回路の設計では、接合部温度を規定の制限範囲内に維持する必要があります。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

8.4 レイアウト

8.4.1 レイアウトのガイドライン

AFEx32A3W のピン構成では、レイアウトを最適化できるようにアナログ ピン、デジタル ピン、電源ピンを離しています。信号の整合性を確保するには、デジタル トレースとアナログ トレースを分離し、デカップリング コンデンサをデバイス ピンの近くに配置します。

8.4.2 レイアウト例

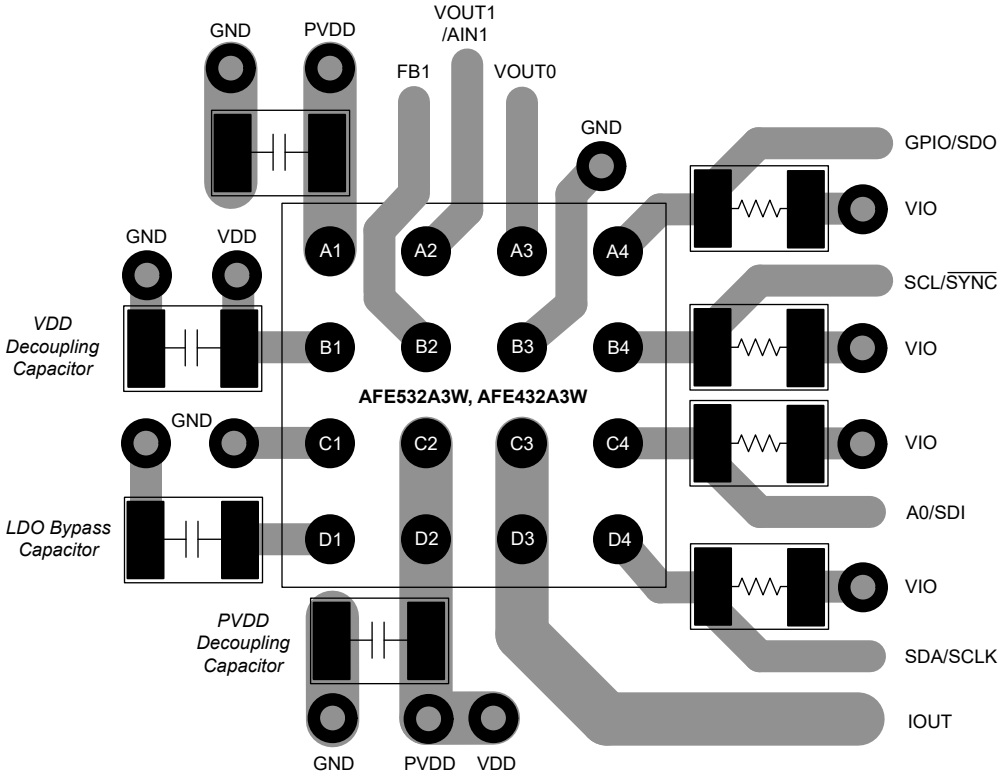


図 8-5. レイアウト例

注：明確化のために、グランド プレーンと電源プレーンは省略しています。

9 デバイスおよびドキュメントのサポート

テキサス・インスツルメンツでは、幅広い開発ツールを提供しています。デバイスの性能の評価、コードの生成、ソリューションの開発を行うためのツールとソフトウェアを以下で紹介します。

9.1 ドキュメントのサポート

9.1.1 関連資料

以下の EVM ユーザー ガイドが提供されています。*AFE532A3W 評価基板*ユーザー ガイド

9.2 ドキュメントの更新通知を受け取る方法

ドキュメントの更新についての通知を受け取るには、www.tij.co.jp のデバイス製品フォルダを開いてください。[通知] をクリックして登録すると、変更されたすべての製品情報に関するダイジェストを毎週受け取ることができます。変更の詳細については、改訂されたドキュメントに含まれている改訂履歴をご覧ください。

9.3 サポート・リソース

テキサス・インスツルメンツ E2E™ サポート・フォーラムは、エンジニアが検証済みの回答と設計に関するヒントをエキスパートから迅速かつ直接得ることができる場所です。既存の回答を検索したり、独自の質問をしたりすることで、設計で必要な支援を迅速に得ることができます。

リンクされているコンテンツは、各寄稿者により「現状のまま」提供されるものです。これらはテキサス・インスツルメンツの仕様を構成するものではなく、必ずしもテキサス・インスツルメンツの見解を反映したものではありません。テキサス・インスツルメンツの使用条件を参照してください。

9.4 商標

テキサス・インスツルメンツ E2E™ is a trademark of Texas Instruments.
すべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

9.5 静電気放電に関する注意事項

この IC は、ESD によって破損する可能性があります。テキサス・インスツルメンツは、IC を取り扱う際には常に適切な注意を払うことを推奨します。正しい取り扱いおよび設置手順に従わない場合、デバイスを破損するおそれがあります。

ESD による破損は、わずかな性能低下からデバイスの完全な故障まで多岐にわたります。精密な IC の場合、パラメータがわずかに変化するだけで公表されている仕様から外れる可能性があるため、破損が発生しやすくなっています。

9.6 用語集

テキサス・インスツルメンツ用語集　　この用語集には、用語や略語の一覧および定義が記載されています。

10 改訂履歴

資料番号末尾の英字は改訂を表しています。その改訂履歴は英語版に準じています。

Changes from Revision * (November 2023) to Revision A (July 2025) **Page**

- 「*製品情報*」表を更新 1
- 「*アプリケーション情報*」のパッケージ寸法を 1.72mm × 1.72mm から 1.76mm × 1.76mm に変更 85
- YBH パッケージのアウトラインを更新し、寸法を訂正 90

11 メカニカル、パッケージ、および注文情報

以降のページには、メカニカル、パッケージ、および注文に関する情報が記載されています。この情報は、指定のデバイスに使用できる最新のデータです。このデータは、予告なく、このドキュメントを改訂せずに変更される場合があります。本データシートのブラウザ版を使用されている場合は、画面左側の説明をご覧ください。

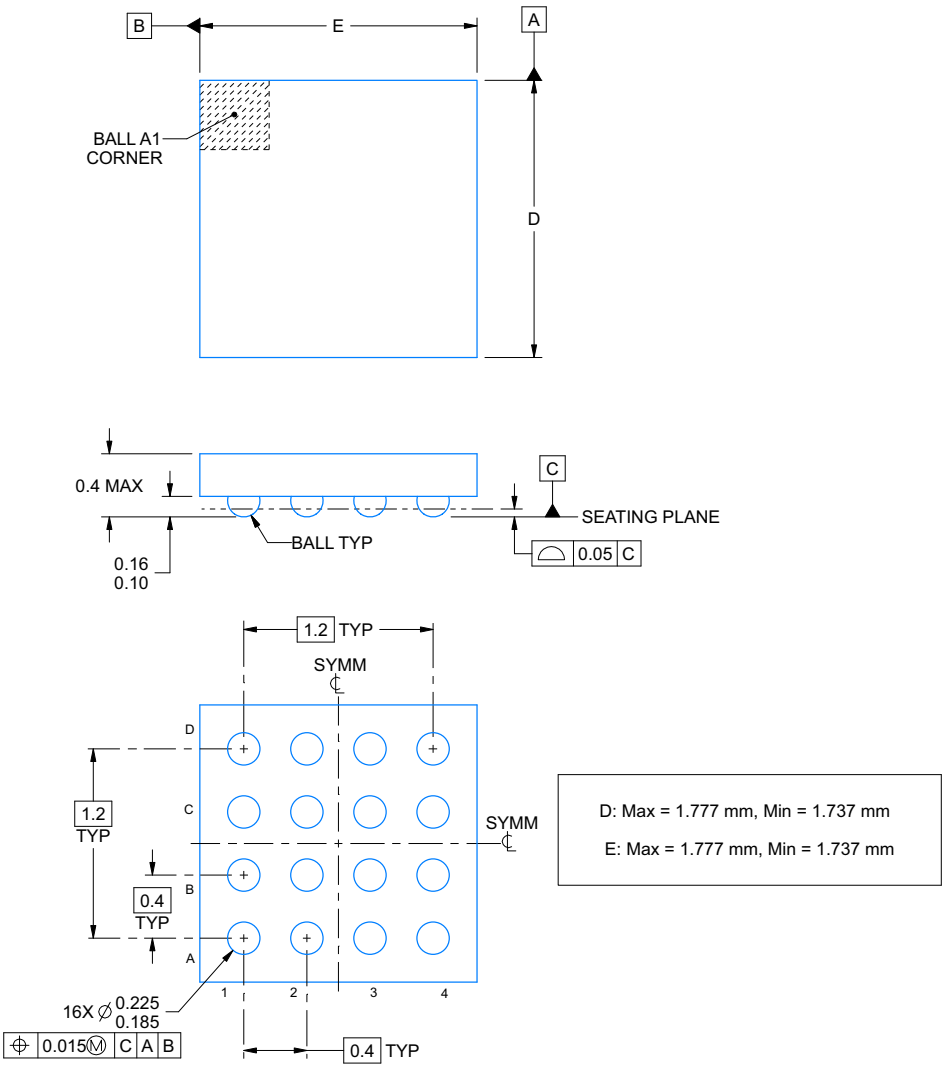
Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

PACKAGE OUTLINE

YBH0016-C03

DSBGA - 0.4 mm max height

DIE SIZE BALL GRID ARRAY



NOTES:

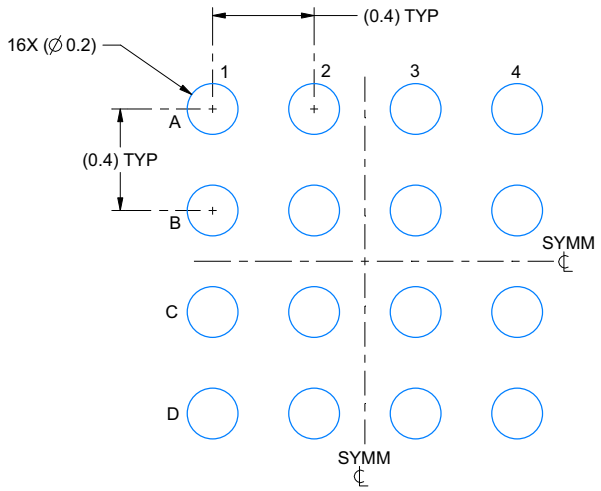
1. All linear dimensions are in millimeters. Any dimensions in parenthesis are for reference only. Dimensioning and tolerancing per ASME Y14.5M.
2. This drawing is subject to change without notice.

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

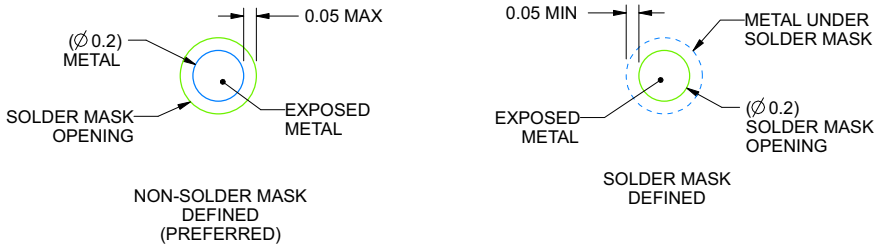
EXAMPLE BOARD LAYOUT

YBH0016-C03 **DSBGA - 0.4 mm max height**

DIE SIZE BALL GRID ARRAY



LAND PATTERN EXAMPLE
EXPOSED METAL SHOWN
SCALE: 40X



SOLDER MASK DETAILS
NOT TO SCALE

4228589/A 03/2022

NOTES: (continued)

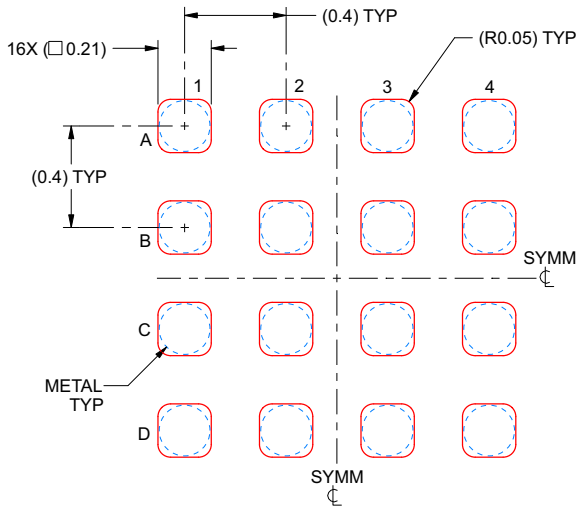
3. Final dimensions may vary due to manufacturing tolerance considerations and also routing constraints.
   See Texas Instruments Literature No. SNVA009 (www.ti.com/lit/snva009).

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

EXAMPLE STENCIL DESIGN

YBH0016-C03 **DSBGA - 0.4 mm max height**

DIE SIZE BALL GRID ARRAY



SOLDER PASTE EXAMPLE
BASED ON 0.075 mm THICK STENCIL
SCALE: 40X

4228589/A 03/2022

NOTES: (continued)

4. Laser cutting apertures with trapezoidal walls and rounded corners may offer better paste release.

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

重要なお知らせと免責事項

テキサス・インスツルメンツは、技術データと信頼性データ (データシートを含みます)、設計リソース (リファレンス デザインを含みます)、アプリケーションや設計に関する各種アドバイス、Web ツール、安全性情報、その他のリソースを、欠陥が存在する可能性のある「現状のまま」提供しており、商品性および特定目的に対する適合性の黙示保証、第三者の知的財産権の非侵害保証を含むいかなる保証も、明示的または黙示的にかかわらず拒否します。

これらのリソースは、テキサス・インスツルメンツ製品を使用する設計の経験を積んだ開発者への提供を意図したものです。(1) お客様のアプリケーションに適した テキサス・インスツルメンツ製品の選定、(2) お客様のアプリケーションの設計、検証、試験、(3) お客様のアプリケーションに該当する各種規格や、その他のあらゆる安全性、セキュリティ、規制、または他の要件への確実な適合に関する責任を、お客様のみが単独で負うものとします。

上記の各種リソースは、予告なく変更される可能性があります。これらのリソースは、リソースで説明されている テキサス・インスツルメンツ製品を使用するアプリケーションの開発の目的でのみ、テキサス・インスツルメンツはその使用をお客様に許諾します。これらのリソースに関して、他の目的で複製することや掲載することは禁止されています。テキサス・インスツルメンツや第三者の知的財産権のライセンスが付与されている訳ではありません。お客様は、これらのリソースを自身で使用した結果発生するあらゆる申し立て、損害、費用、損失、責任について、テキサス・インスツルメンツおよびその代理人を完全に補償するものとし、テキサス・インスツルメンツは一切の責任を拒否します。

テキサス・インスツルメンツの製品は、テキサス・インスツルメンツの販売条件、または ti.com やかかる テキサス・インスツルメンツ製品の関連資料などのいずれかを通じて提供する適用可能な条項の下で提供されています。テキサス・インスツルメンツがこれらのリソースを提供することは、適用される テキサス・インスツルメンツの保証または他の保証の放棄の拡大や変更を意味するものではありません。

お客様がいかなる追加条項または代替条項を提案した場合でも、テキサス・インスツルメンツはそれらに異議を唱え、拒否します。

郵送先住所：Texas Instruments, Post Office Box 655303, Dallas, Texas 75265
Copyright © 2025, Texas Instruments Incorporated

PACKAGING INFORMATION

Orderable part number	Status (1)	Material type (2)	Package | Pins	Package qty | Carrier	RoHS (3)	Lead finish/ Ball material (4)	MSL rating/ Peak reflow (5)	Op temp (°C)	Part marking (6)
AFE432A3YBHR	Active	Production	DSBGA (YBH) | 16	3000 | LARGE T&R	Yes	SNAGCU	Level-1-260C-UNLIM	-40 to 125	AFE 432A3
AFE432A3YBHR.A	Active	Production	DSBGA (YBH) | 16	3000 | LARGE T&R	Yes	SNAGCU	Level-1-260C-UNLIM	-40 to 125	AFE 432A3
AFE532A3YBHR	Active	Production	DSBGA (YBH) | 16	3000 | LARGE T&R	Yes	SNAGCU	Level-1-260C-UNLIM	-40 to 125	AFE 532A3
AFE532A3YBHR.A	Active	Production	DSBGA (YBH) | 16	3000 | LARGE T&R	Yes	SNAGCU	Level-1-260C-UNLIM	-40 to 125	AFE 532A3

(1) **Status:** For more details on status, see our product life cycle.

(2) **Material type:** When designated, preproduction parts are prototypes/experimental devices, and are not yet approved or released for full production. Testing and final process, including without limitation quality assurance, reliability performance testing, and/or process qualification, may not yet be complete, and this item is subject to further changes or possible discontinuation. If available for ordering, purchases will be subject to an additional waiver at checkout, and are intended for early internal evaluation purposes only. These items are sold without warranties of any kind.

(3) **RoHS values:** Yes, No, RoHS Exempt. See the TI RoHS Statement for additional information and value definition.

(4) **Lead finish/Ball material:** Parts may have multiple material finish options. Finish options are separated by a vertical ruled line. Lead finish/Ball material values may wrap to two lines if the finish value exceeds the maximum column width.

(5) **MSL rating/Peak reflow:** The moisture sensitivity level ratings and peak solder (reflow) temperatures. In the event that a part has multiple moisture sensitivity ratings, only the lowest level per JEDEC standards is shown. Refer to the shipping label for the actual reflow temperature that will be used to mount the part to the printed circuit board.

(6) **Part marking:** There may be an additional marking, which relates to the logo, the lot trace code information, or the environmental category of the part.

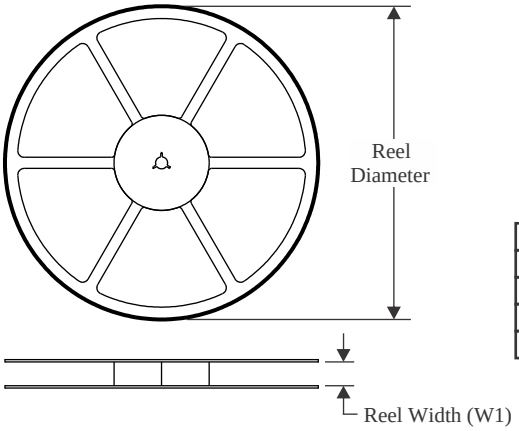
Multiple part markings will be inside parentheses. Only one part marking contained in parentheses and separated by a "~" will appear on a part. If a line is indented then it is a continuation of the previous line and the two combined represent the entire part marking for that device.

Important Information and Disclaimer: The information provided on this page represents TI's knowledge and belief as of the date that it is provided. TI bases its knowledge and belief on information provided by third parties, and makes no representation or warranty as to the accuracy of such information. Efforts are underway to better integrate information from third parties. TI has taken and continues to take reasonable steps to provide representative and accurate information but may not have conducted destructive testing or chemical analysis on incoming materials and chemicals. TI and TI suppliers consider certain information to be proprietary, and thus CAS numbers and other limited information may not be available for release.

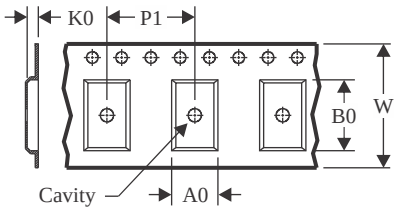
In no event shall TI's liability arising out of such information exceed the total purchase price of the TI part(s) at issue in this document sold by TI to Customer on an annual basis.

TAPE AND REEL INFORMATION

REEL DIMENSIONS

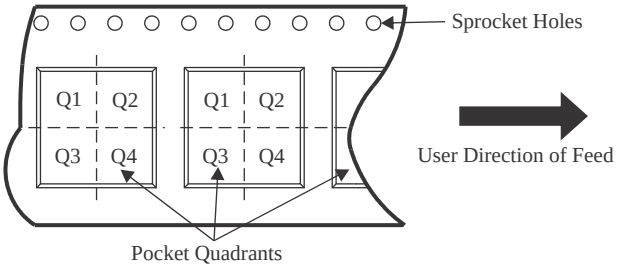


TAPE DIMENSIONS



A0	Dimension designed to accommodate the component width
B0	Dimension designed to accommodate the component length
K0	Dimension designed to accommodate the component thickness
W	Overall width of the carrier tape
P1	Pitch between successive cavity centers

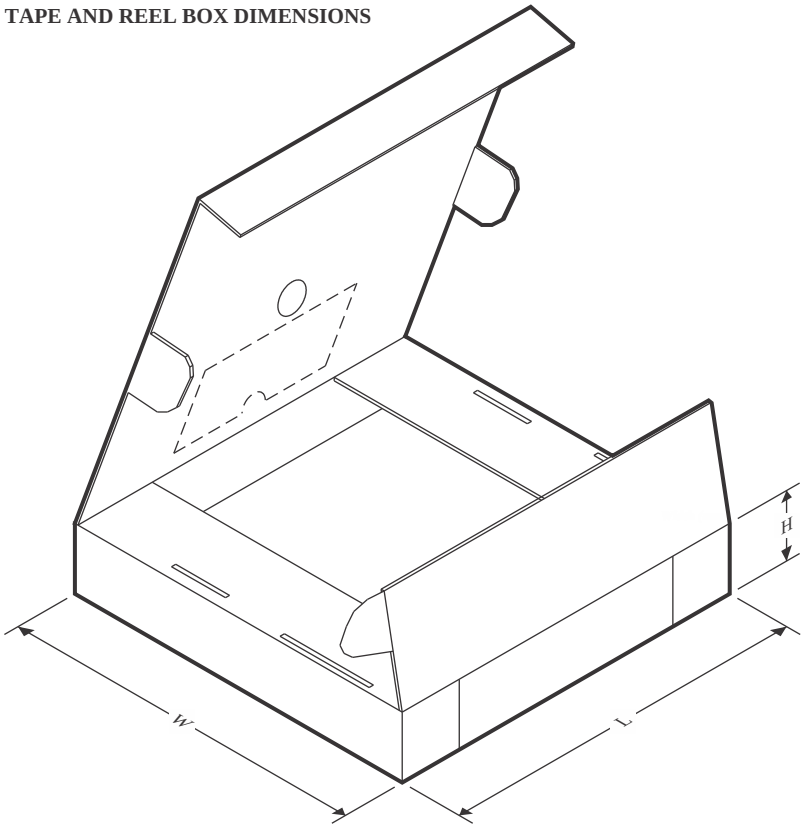
QUADRANT ASSIGNMENTS FOR PIN 1 ORIENTATION IN TAPE



*All dimensions are nominal

Device	Package Type	Package Drawing	Pins	SPQ	Reel Diameter (mm)	Reel Width W1 (mm)	A0 (mm)	B0 (mm)	K0 (mm)	P1 (mm)	W (mm)	Pin1 Quadrant
AFE432A3YBHR	DSBGA	YBH	16	3000	180.0	8.4	1.94	1.94	0.69	4.0	8.0	Q1
AFE532A3YBHR	DSBGA	YBH	16	3000	180.0	8.4	1.94	1.94	0.69	4.0	8.0	Q1

TAPE AND REEL BOX DIMENSIONS



*All dimensions are nominal

Device	Package Type	Package Drawing	Pins	SPQ	Length (mm)	Width (mm)	Height (mm)
AFE432A3YBHR	DSBGA	YBH	16	3000	182.0	182.0	20.0
AFE532A3YBHR	DSBGA	YBH	16	3000	182.0	182.0	20.0

重要なお知らせと免責事項

TI は、技術データと信頼性データ (データシートを含みます)、設計リソース (リファレンス デザインを含みます)、アプリケーションや設計に関する各種アドバイス、Web ツール、安全性情報、その他のリソースを、欠陥が存在する可能性のある「現状のまま」提供しており、商品性および特定目的に対する適合性の黙示保証、第三者の知的財産権の非侵害保証を含むいかなる保証も、明示的または黙示的にかかわらず拒否します。

これらのリソースは、TI 製品を使用する設計の経験を積んだ開発者への提供を意図したものです。(1) お客様のアプリケーションに適した TI 製品の選定、(2) お客様のアプリケーションの設計、検証、試験、(3) お客様のアプリケーションに該当する各種規格や、その他のあらゆる安全性、セキュリティ、規制、または他の要件への確実な適合に関する責任を、お客様のみが単独で負うものとします。

上記の各種リソースは、予告なく変更される可能性があります。これらのリソースは、リソースで説明されている TI 製品を使用するアプリケーションの開発の目的でのみ、TI はその使用をお客様に許諾します。これらのリソースに関して、他の目的で複製することや掲載することは禁止されています。TI や第三者の知的財産権のライセンスが付与されている訳ではありません。お客様は、これらのリソースを自身で使用した結果発生するあらゆる申し立て、損害、費用、損失、責任について、TI およびその代理人を完全に補償するものとし、TI は一切の責任を拒否します。

TI の製品は、 TI の販売条件 、 TI の総合的な品質ガイドライン 、 ti.com または TI 製品などに関連して提供される他の適用条件に従い提供されます。TI がこれらのリソースを提供することは、適用される TI の保証または他の保証の放棄の拡大や変更を意味するものではありません。 TI がカスタム、またはカスタマー仕様として明示的に指定していない限り、TI の製品は標準的なカタログに掲載される汎用機器です。

お客様がいかなる追加条項または代替条項を提案する場合も、TI はそれらに異議を唱え、拒否します。

Copyright © 2025, Texas Instruments Incorporated

最終更新日：2025 年 10 月